

11. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	良くなる やや良くなる	一般小売店〔酒〕（経営者）	・8月は前年からの伸び率が今年に入って最も良かった。最近、前年からの伸び率が拡大傾向で推移しているため、これから2～3か月先についてはさらに良くなる。
		スーパー（店長）	・お盆期間の売上が前年比107%となるなど、前年からの回復傾向がみられる。部門別にみても、衣料品が前年比109%、食品が前年比105%、住まい用品が前年比109%となっており、食品以外の部門にも回復傾向が徐々に表れてきていることから、今後についてはやや良くなる。
		スーパー（役員）	・プレミアム付商品券の有効期間がまだ残っているため、年末までは効果が持続する。ただ、その効果は少しずつ弱くなる。
		コンビニ（店長）	・売手の型破りな発想や行動力によっても景気は良くなるため、今後についても、陳列の工夫などで売上が増えることを期待している。
		旅行代理店（従業員）	・9月の大型連休を中心に秋の旅行の受注が増えている。また、海外旅行についても復調の兆しを感じられる。
		タクシー運転手	・夏休みも終わり、観光客が減少するため、売上は下がることになるが、利用客の様子から今年の減少幅は小さいとみられるため、やや良くなる。
		タクシー運転手	・このところ天候に恵まれていることで、農作物の生育状況が平年並みとなっており、農業が基幹産業の地域であるため、今後の消費は伸びることになる。しかしながら、タクシー業界としては従業員不足に陥っている状況にあるため、苦戦を強いられることを懸念している。
		タクシー運転手	・5月から実施している営業方法が実績を上げ始めてきていることから、今後についてはやや良くなる。
		通信会社（企画担当）	・移動通信業界では、毎年、秋の新商品発売により北海道全体が盛り上がることになるが、今年も同様の盛り上がり期待できる。
	観光名所（従業員）	・新たな国際定期便の就航が決まっていることなどから、外国人観光客の入込増のプラス要因が継続する。そのほかの大きなプラス要因は見当たらないものの、逆にこれまでの全体の勢いが減速するような要因も見当たらないことから、良くなる傾向が続く。	
	変わらない	商店街（代表者）	・観光客はアジア系の外国人を中心に増えているが、飲食店を飲み歩く傾向はあまりみられず、店舗による多少のばらつきはあるものの、全体的に大きな変化はないまま推移する。
		商店街（代表者）	・テレビなどでは中国の株式市場の崩壊が取りざたされているが、一般市民の生活にはそれほど変化がないため、今後も変わらない。
		商店街（代表者）	・各種プレミアム付商品券などの効果がある程度見込まれるため、全体的には前年と横ばいで変わらないまま推移する。
		商店街（代表者）	・当市においてもプレミアム付商品券の販売が始まったため、今のところ大きな消費行動はみえていないものの、今後の消費拡大を期待している。一方、外国人観光客については、今のところ大きな変化はみられないが、中国経済の衰退により、今後、消費が縮小することを危惧している。
		百貨店（売場主任）	・長期予報によると、ほぼ平年並みの気温で推移するとみられることから、ジャケット、コートなどの秋物に期待している。特に秋物は前年が厳しかっただけに、今年は期待をかけている。また、プレミアム付商品券の使用期限が9月30日となっているため、最後の駆け込みにも期待している。
		百貨店（売場主任）	・定価品の売上が前年比101%となるなど、客の購買意欲の上昇が感じられるが、顧客以外のフリー客の動きが上向くような雰囲気はまだ感じられない。
		百貨店（担当者）	・景気が改善するような要因も、悪化するような要因も見当たらないため、今後も変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売促進担当）	・これまで外国人観光客、特に中華圏からの富裕層に支えられてきた売上増が、中国市場の株価の急激な下落などの影響で、このまま継続するか不透明である。
		百貨店（販売促進担当）	・例年どおりの気温推移の長期予報から、景気が上向くことを見込んでいるものの、大きなばん回までは期待できない。
		スーパー（店長）	・物価高に給料が追いつかない不安はあるものの、ガソリン価格低下などの効果もあり、11月くらいまでは不景気感を持ちながらも足踏み状態が続く。
		スーパー（店長）	・シニア層においては高単価商材の動きが良いが、それ以外の層は買い方がシビアであるため、全体としては変わらない。
		スーパー（企画担当）	・プレミアム付商品券による売上増は次第にその効果が小さくなる。持続的な消費の持ち上げ効果が低いとみられるため、今後も変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・催事期間における一時的な消費増加はみられるものの、平日の来客数は依然として減少している。消費税増税前と比べると、来客数は5%前後落ち込んでおり、厳しい状態が継続していることから、今後も変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・観光客による需要は今後も期待できるが、公共工事の現場労働者による需要の動向が不明である。ただ、天候要因さえマイナスに働かなければ、前年並みの売上にはなる。
		コンビニ（エリア担当）	・現状の報道からは、良くなる見込みも、悪くなる見込みも見当たらないため、今後も変わらないまま推移する。
		衣料品専門店（店長）	・これといって明るい話題もなく、株価も低迷しているため、今後、景気が上向くことはない。
		衣料品専門店（店員）	・日々の来客数が少ないため、今後も変わらないまま推移する。
		家電量販店（店員）	・暖房機などの季節商材が出そろうまで、客も下見が中心になる。
		乗用車販売店（経営者）	・軽自動車を除けば、新型車を中心に新車販売が堅調に推移しているため、今後も変わらないまま推移する。
		乗用車販売店（従業員）	・明るい兆しが少ないため、今後も変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・北海道では冬になると景気も冷え込むため、今後については厳しいまま変わらない。
		乗用車販売店（役員）	・好転する材料が見当たらない。地域経済も含めて期待できるような要因がないため、しばらくは現状維持の状況が続く。
		自動車備品販売店（店長）	・冬タイヤの販売時期の前倒しが年々早まっており、今年は8月から販売を始めたが、年間での売上は前年や前々年と変わらないとみられるため、今後も変わらないまま推移する。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・健康に関する情報が過多の割に、とりあえず今が元気であれば良いという考えでの節約志向がみられる。病院での受診も含めて、厳しい秋となることが見込まれる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・原油価格が上昇するような要因もなく、ガソリン価格が安定して推移することから、今後については変わらない。
		その他専門店〔造花〕（店長）	・購買意欲が向上するような景気対策が特にないため、今後も変わらない。
		高級レストラン（経営者）	・今は観光シーズンということもあり、来客数が増えており、景気も上向きとなっているが、今後もこうした状況は続かない。中国の景気も不透明になってきているため、今後については景気がやや不安定な状態で推移する。
		高級レストラン（スタッフ）	・最近では、オール電化住宅において、ガス器具やガス発電に切り替えたりするケースが増えているようである。工事でできる余裕があれば良いが、そうでない人々は高額な電気料金で家計費を圧迫されているため、飲食店を利用する余裕が出てこないことになる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・近隣アジア各国からの団体予約が堅調である。報奨旅行の受注も数件みられる。
		旅行代理店（従業員）	・来客数や店舗での忙しさが変わっていないため、今後についても変わらない。
		旅行代理店（従業員）	・景気が悪くなるような感じはないが、ここからさらに良くなるという感じもない。今後については、今の調子を維持することになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・乗務員不足については、新規の応募もなかなかみられず、深刻な問題になってきている。タクシー1台当たりの売上は前年から減少しないものとみられるが、会社の売上は前年を下回ることになる。
		タクシー運転手	・今後の予約状況は前年よりも少なめである。秋の観光シーズンに向けての観光客の増加に期待したいが、他社との情報交換の場においても、具体的に大きく増加するような要因は見当たらない。
		観光名所（職員）	・世の中の動きをみると、物価上昇ばかりが目立ち、賃金の上昇などが伴っていない。特に中小企業の従業員を取り巻く環境は決して上向いているわけではないことから、今後も変わらないまま推移する。
		住宅販売会社（経営者）	・株価がもみ合っていることもあり、今後も消費について様子見の状況が続く。株価が一気に上昇するなどしない限り、消費は回復しない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・中国のパブル崩壊に伴い、国内の株式市場や円相場への影響が生じることになれば、心理的な面からも、個人消費に影響が出ることが懸念される。
		商店街（代表者）	・最近の傾向として、冬物衣料などを購入する時期が遅れてきていることもあり、今後については、客の外出控え、買い控えの時期となり、地元客による来街の増加が見込めない。また、現在、燃料価格が下降しているが、今後についてはどうなるか分からないと不安を抱えることで、客の買い控えが強まることも懸念される。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・これから秋の観光シーズンが始まり、9月の大型連休も控えているが、バンコクのテロや中国経済の減速感などの影響による株価の下落、円相場の大幅な振れなどが、観光客の消費マインドを冷え込ませる要因の1つにならないか気がかりである。今後、2～3か月間は観光客の財布のひもが固くなることを懸念している。
		スーパー（企画担当）	・中国景気の悪化という雰囲気が強まることで、株価が下落することを懸念している。
		観光型ホテル（役員）	・株と為替の変動が激しく、このまま円高傾向が強まれば、外国人観光客数の減少はまぬがれないため、今後についてはやや悪くなる。
		旅行代理店（従業員）	・航空路線の供給座席量が夏季よりも減少するため、外国人観光客も漸減することになる。一方、道東発の旅行需要は修学旅行や農業団体などにより活発に動く時期であるが、例年、10～11月は航空機の搭乗率が高く、伸びしろのない時期であるため、全体的にはやや悪くなる。
美容室（経営者）		・年金生活者においては所得が目減りしたという雰囲気があり、この層の支出引締め感が強まっている。また、将来に対する不安感も高まっているため、今後についてはやや悪くなる。	
その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）		・観光シーズンが終了し、例年どおり閑散期を迎えることになる。	
住宅販売会社（役員）		・株価が下がるなか、それにあわせて客の購買意欲も低下している。金利が低いことは有り難いが、今現在、それ以外の経済要因は所得の伸び悩みを始めとして悪いことの方が多いため、これから先の分譲マンション市場はやや停滞気味になる。	
	悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・長期的にはロシア200海里内のさけ・ます漁禁止を控えて、沿岸部での買い控えに加えて、人の流出も見込まれるため、厳しい状況になる。また、競合店の出店が意欲的なことから、各店舗の商圈の縮小もまぬがれない。
	企業動向関連 (北海道)	良くなる	-
やや良くなる		輸送業（営業担当）	・道内の秋まき小麦の今夏の収穫は、2011年に導入された主力品種が天候とマッチしたことで大豊作の様相であり、本州の製粉会社向けの船輸送が期待できる。そのほかのたまねぎ、ばれいしょ、てん菜などの農作物も順調に生育しており、トレーラーや鉄道コンテナでの輸送も期待できる。
		輸送業（支店長）	・今季、道外では九州の長雨などの天候不順の影響により、農産物の作柄が良くないことから、道内からのじゃがいもなどの移送が増えることになる。実際に引き合いも増えている。また、積雪前の土木工事なども動く見込みであり、現在の景気の悪さは8月が底となる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	食料品製造業（従業員）	・現在のところ、例年どおり繁忙期に向けて好調な商材もあるが、全体としては、2～3か月先に受注が上下するような見通しはない。
		家具製造業（経営者）	・株価に不穏な動きがあるため、近々、景気の調整局面が訪れることを危惧している。
		司法書士	・高齢化社会の進展に伴い新規住宅の購入や建築が伸びてこない。地方都市は、土地取引、建物建築が低水準で安定している状態である。
		コピーサービス業（従業員）	・設備投資の動きはあるが、取引先の慎重な姿勢は変わっておらず、決して無理をしていない様子であることから、今後も変わらない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・民需の弱い地方都市では景気が上向くような要因が見当たらない。
	やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（従業員）	・良くなるような状況がみえないため、今後も変わらない。
		建設業（経営者）	・前年に比べて、公共、民間をあわせた建設投資全体が減っている。特に公共土木の落ち込みが大きく、秋枯れになりそうである。工事の稼働は最盛期を迎えているが、繁忙感に乏しい。
		建設業（従業員）	・設計業界の仕事量は微増しているようだが、年内の発注に間に合う案件は少なく、翌年、もしくは翌々年になるものばかりと聞いている。
		建設業（従業員）	・民間建築工事は取引先の設備投資意欲が継続して高く、引き合いも多いことから、選別受注している状況であるが、公共工事は案件が減少していることで、競争が激しくなっており、受注環境の厳しさが増している。
		通信業（営業担当）	・現時点の株式市場の世界的な乱高下を受けて、この先の景況感に楽観的な見方をしてきた企業の判断が厳しくなり、より慎重になるとみられる。また、中国の経済成長の減速が明らかになったことで、中国からの観光客が増加していた北海道としては、観光客の減少が見込まれ、景気の下振れが懸念される。
金融業（企画担当）		・中国経済の減速により、中国人観光客の減少や爆買いが鈍化することになる。また、株価の大幅下落により、経営マインドや消費マインドが冷え込むことが懸念される。	
司法書士		・中国経済の減速による影響を見極められるまで、心理的に弱含みとなり、消費行動に多少のブレーキがかかることが懸念される。	
その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）		・新規の受注案件の確定するタイミングが遅く、発注者側が様子見をしている状況がうかがえる。	
その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）		・中国経済やギリシャ経済の問題が日本経済にも影響してくることが懸念されるため、今後についてはやや悪くなる。	
その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・設備案件が一段落したことで、今後については一般消耗品の販売が中心になるが、前年並みの販売量しか見込まれないなど、明るい材料がない。		
雇用 関連	悪くなる	-	-
	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	-	-
(北海道)	変わらない	人材派遣会社（社員）	・企業活動が現状を維持することが見込まれるため、求人不足も当面続くことになる。ただし、採用にかかるコストや人件費が上がることで企業業績に悪影響が出ないかが気がかりである。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・将来の人口の年代構成上、企業の人手不足感は今後も続くが、先行き不安が払しょくされていないため、派遣やパートなどの非正規雇用でつないでいくことになる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・採用したくても人材がないため、今後もこう着状態が続くことになる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・1月からの求人広告の掲載件数の推移をみると、前年とほぼ同ような状況で推移しているため、今後についても変わらない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・今年に入って募集広告の売上が前年を10%程度下回る月が続いていることから、今後もこの傾向は大きく変わらない。
		職業安定所（職員）	・公共事業が減少していることで、建設業からの求人が減っているため、今後も変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・月間有効求人数が前年を上回って推移しているが、卸小売業、宿泊・民宿サービス業、医療福祉などの一部の産業が全体を押し上げており、求職者の減少傾向と相まって求人倍率が高く推移している状況であり、今後もこうした傾向が続く。
		職業安定所（職員）	・求職者数は引き続き減少しているが、新規求人数が2か月連続で前年を下回っていることから、今後も変わらないまま推移する。
		職業安定所（職員）	・有効求人数が前年から減少したが、有効求職者数も減少したことで、有効求人倍率は1.04倍と前年0.06ポイント上回った。ただ、有効求人数がこれまでの増加傾向から減少傾向に転じるかは不透明である。
		学校〔大学〕（就職担当）	・企業側の採用意欲は相変わらず高い。これまで主に契約社員での採用を行っていた企業が、正社員雇用での募集に切り替えるなど、とても良い状況にある。また、大学や短大において、新卒見込みを十分に採用できていない状況は12月までは続くと思われる。前年に新卒を定員まで採用できなかった企業が多かったことから、今年は定員充足に一層の拍車がかかることになる。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・中国経済がマイナスに転じる可能性があるため、これまで北海道の景気を押し上げてきた外国人観光客の減少が見込まれる。これにより、これまで求人が多かった宿泊業、小売業などでの求人の減少が懸念される。
悪くなる	-	-	-

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (東北)	良くなる	衣料品専門店（経営者）	・少し涼しくなってきたので、秋冬物が売れるとみている。
		衣料品専門店（店長）	・プレミアム付商品券がここ数か月の景気を押し下げてしまっているのではないかと、という客の話を良く聞く。お盆の旅行など確たる目的がある人は早々に使用しているが、そうではない人は、プレミアム付商品券を購入しても12月末日までの期限までに利用すればよいと考えており、その分現在の景気がしばらく悪いのではないかとみている。ただし、今後は使用期限までには確実に景気は良くなるとみている。
		タクシー運転手	・客との会話からは、自分の仕事も忙しく、また、地下鉄の開通や来年開催のサミットなど、マイナスの要因はないと聞いている。当市においては景気は良くなっていると実感している。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・飲食業などは特に好調に推移している。また、現状において動きの悪い夏物及び秋物の物販関連も、今後は本格的な形で動いていくとみている。
		スーパー（店長）	・お盆明けから気温が低下しており秋口並みの気温で推移している。そのため、秋物商材も1週間前倒しして入荷しており、果物などは味も良く売れている。また、今年の天候から新米は豊作が見込まれており、消費者の購買意欲は高まるとみている。
		乗用車販売店（経営者）	・新車受注が少しずつ上向いてきている。また、新型イベント効果による販売量の増加を期待している。
		乗用車販売店（経営者）	・各社とも9月以降は決算セールなどで拡販展開が予定されており、市場が動き出すとみている。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・残暑が厳しくないようであり、早めに秋冬物が動くと思われている。しかし、各作業服メーカーは今秋も値上げを予定しており、厳しい環境であることには変わらない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・8月中旬以降の大幅な原油価格の下落に伴い、今後の燃料油の販売価格も下落していくため、需要の回復に期待をしたい。更には9月の大型連休で販売量が増加し、業界に弾みがつくことも期待している。
		高級レストラン（経営者）	・店から足が遠のいていた客が、最近になって再び来店するようになってきている。
高級レストラン（支配人）	・秋口に入るころから、予約や問い合わせが多数きており、夏場に比べて期待できる。また、9月の大型連休も控えている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		都市型ホテル（経営者）	・今年の夏は金沢を含む北陸地方の1人勝ちの感があったが、今後は、秋口へ向けて地元客を含む個人客の利用も増えてくるとみている。
		旅行代理店（経営者）	・ふるさと旅行券の利用や、夏に旅行を手控えた客が秋のベストシーズンに出かけることを見込んでいる。9月の大型連休の売上は好調であるので、良くなっていくのではないかとみている。
		通信会社（営業担当）	・この先は、新商品の導入や大きなキャンペーンを予定している。そのため、若干ではあるが売上は好転するものとみている。
		通信会社（営業担当）	・プレミアム付商品券及びプレミアム付旅行券の販売状況から、先行きの景気は若干良くなるのではないかと期待をしている。
		観光名所（職員）	・フリー客のここ数年にない来客数の増加と伸び率に恵まれている。また、好調な客単価も加えると非常に良い結果となっている。さらに、来客数の増加が見込めるイベントがあるため、今後もこの良い傾向のまま推移するとみている。
		遊園地（経営者）	・今年は9月の大型連休があるため、消費者が大きく動くと見込んでいる。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・年末までは、各数字が前年を上回る状態が続くとみている。
		商店街（代表者）	・首都圏ではサラリーマンの所得が拡大しているといわれているが、地方ではその様なことはなく、むしろこの先の所得が減少するのではないかと不安がある。さらに、人口減少問題も抱えており、先行きにあまり期待が持てる状況ではない。
		商店街（代表者）	・秋口のイベントが続くため、落ち込むことはないともみているが、良くなる要因にも恵まれていない。
		商店街（代表者）	・商店街のまとまりとしての道を失っている。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・各ジャンルの商品動向はここ1か月上昇傾向にあるが、プレミアム付商品券発行に伴うものとみている。この状態が年明けまで続くことを期待している。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・今年の3月以降、客の様子や買上点数をみると前年比が上向きになってきている。前年比105%程度で推移しており、年末に向けて少し伸びると期待しているが、大きな変化にはならないとみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・店頭で客と話していても、最近ではあまり景気の悪い話は出てこなくなっている。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	・今年は本当に景気が良いと思うことができない状態であり、今のところ先行きの見通しは立っていない。
		百貨店（売場主任）	・猛暑が続いたこの夏も、婦人衣料、身の回り品を含めた売上は前年割れを続けており、消費税増税後の個人消費は回復の兆しをみせていない。また、景気の良くなるような要素は地方都市においては全く想像できず、中間顧客層の求める商品、価格帯への対応が遅れば、景気が一層悪くなることも考えられる。
百貨店（営業担当）	・婦人服の秋冬物の動きがポイントになる。冬物の動きが鈍かった前年の反動により売上が増えれば、景気も良くなるのではないかとみている。また、基盤である食品は、引き続き好調が続くとみている。		
百貨店（営業担当）	・今後も衣料品を中心に苦戦するとみている。インバウンド効果は地方では期待できない。		
百貨店（買付担当）	・アウトドア商品などの一部の目的買いについては単価が上がってきているものの、全体的には買物にシビアな傾向は全く変わっておらず、良くなる材料が見当たらない。		
百貨店（経営者）	・今後、客単価は向上していくとみている。ただし、ブランドショップの撤退による来客数の減少など、前年に比べてマイナスの要因が多く、また、今年に入ってからシルバー層の来客数も減少傾向にあるため、その分をカバーするには至らないとみている。		
百貨店（経営者）	・世界同時株安などの報道がなされており、中国では経済成長率の低下が明らかである。そのため、今後インバウンドなどの数少ない追い風要素までも見通せなくなっている。		
百貨店（経営者）	・前年の消費税増税以降、一貫して来客数が減少した状況であり、改善する傾向がみられていない。また、高額商材を中心に客の慎重な買い方に変化がない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（経営者）	・原油価格の低下により、今後は電気料金も値下がりするため、家計的にはありがたい。最低賃金の上昇により人件費負担が増える企業もあるが、消費環境に大きな影響はないとみている。
		スーパー（店長）	・消費税率10%への引上げも控えており、客の財布のひもはまだまだ固い状態であるとみている。
		スーパー（営業担当）	・原油価格が現状の低水準のまま進めば、冬季の光熱費が抑えられた分、食料品や服飾品などの消費が増えることが見込まれる。ただし、全体の景気を大きく左右するまでには至らないとみている。
		スーパー（営業担当）	・諸外国の株安など全体的に景気の先行きが不安視されているなか、当県は短期的にみて影響は少ないと見込んでいる。このことは景気の回復あるいは、悪化させることもないとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・この先2～3か月は大きな環境変化がない。しかし、その後は地下鉄の開業があるため、市内の人の流れが活性化することを期待している。
		コンビニ（エリア担当）	・消費者は、普段の生活に対して消費意欲が希薄な状態であり、この状況を変えることは難しい。
		コンビニ（エリア担当）	・良くなるような環境の変化は少なく、消費動向の変化は期待できない。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数の動きに変化の兆しが表れていない。
		コンビニ（店長）	・地方においては、人件費の高騰により会社の収益が上がっていない。さらに、給料の上昇もないままに物価だけが上がっており、買い控えや低価格志向が進んでいる。この傾向は当分変わらないとみている。
		コンビニ（店長）	・秋に向けて売上は穏やかになっていくが、前年同様の推移であれば、特に大きな変化はないとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・一部の客に高額商材が売れている。しかし、大多数である中間層の客に対しては、購買意欲を押し上げる要素は見当たらない。
		衣料品専門店（経営者）	・新卒などの求人の様子からは、景気が回復基調に向かいつつあると実感している。
		衣料品専門店（経営者）	・地方では不景気ムードがあり、なかなか景気が上向くことを期待できない状況である。
		衣料品専門店（店長）	・この先3か月は平年よりも高い気温で推移すると長期予報が出ており、秋物商材や冬物商材の立ち上がりが遅れることを懸念している。
		衣料品専門店（店長）	・スーツの需要が年々減少している。また、消費者の低価格志向も継続している。
		衣料品専門店（総務担当）	・前年度から消費動向に変化がみられていない。今後もこのままの状況で推移してくとみている。
		家電量販店（店長）	・4Kテレビが比較的好調であるが、単価が少しずつ下がってきており、売上としてはあまり期待できない。ここ数か月間は前年比が同様な状況で推移していくとみている。
		家電量販店（従業員）	・売上は増加傾向にあるものの、来客数は横ばいのままである。このような状況がしばらく続くとみている。
		乗用車販売店（経営者）	・今後も楽観出来ない状況のままで推移するとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・客に揺さぶりをかけても、良い返事がなかなか返ってこない状態が続いている。
		乗用車販売店（従業員）	・8月と比べれば多少は良くなるとみているが、8月はあまり参考にならない月であるため、結局状況はあまり変わることはないとみている。
		乗用車販売店（店長）	・新型発表などの目立ったイベントもなく、しばらくは現状維持の状態が続くとみている。
		住関連専門店（経営者）	・客の様子をみても、状況はそうそう変わらないだろうとみている。
		住関連専門店（経営者）	・高級な大型商品の売上が伸び悩み、安価な小物中心の販売が続くとみている。景気的大幅な上昇はまだまだ先である。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・今年の米の収穫量は平年以上とみられており、農業関係者の消費が引き締められる可能性がある。
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・一般の家庭においては、家計に余裕のない状態である。ここ数年賃金が変わらず、今後の生活に変化が見込めるような要素がない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔靴〕 (従業員)	・消費税増税の影響が薄れてきている。また、プレミアム付商品券使用期限前の駆け込み需要を期待している。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕(営業担当)	・冬の需要時期になるまでは、仕入価格の低下による利益回復の動きが継続する見込みである。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	・今後の景気動向について判断する材料が乏しい状態である。
		高級レストラン(支配人)	・4～8月までの動きは非常に良かったが、9月以降については、団体客の動きや周辺の飲食店からあまり良い話を聞かないことから、どちらともいえない状況である。
		一般レストラン(経営者)	・株価が乱高下しているが、現在は若干落ち着いている。あまり下がるのは困るが19,000円台であるならばあまり影響はないとみている。
		一般レストラン(経営者)	・秋口に入り多少は良くなるだろうが、2～3か月先に特別なイベントがないため、全体的な状況は変わらないとみている。
		一般レストラン(経営者)	・給料日前はどうしても来客数が少なくなる。通常であれば給料日が過ぎれば増えていくが、今月に限ってはあまり良い雰囲気ではなく、今後も良くなるのではないのかという印象しかない。ただし、急激に悪くなるとも考えにくい。ため、どちらともいえない状況である。
		スナック(経営者)	・売上が厳しいなかで人手不足も継続しており、来客数が少ないために思うように売上が伸びていない。またまだこれからも厳しい状況が続くとみている。
		観光型旅館(経営者)	・景気が良くなるような要素が見当たらない。
		観光型旅館(スタッフ)	・現在の傾向から、大きな変化はないとみている。ただし、最近では経済不安の報道が増えてきており、消費者の財布のひもが固くならないかが不安である。
		都市型ホテル(スタッフ)	・この先は紅葉シーズンとなるが、天候に左右されるため、どのくらいの観光客が来るのかは不明である。また、いまだ人気のある北陸新幹線や、更には青森～北海道新幹線に客が取られるのではないかと危惧している。
		旅行代理店(店長)	・国内旅行の先行受注は好調であるものの、海外旅行は回復がみられていない。
		旅行代理店(従業員)	・受注状況は、国内、海外共に前年よりも若干減少している。特に、海外については伸びておらず、アジア方面の情勢の影響が残っている。
		タクシー運転手	・客には消費税増税以降の節約ムードがまだ残っている。
		通信会社(営業担当)	・企業の9月決算次第であるが、東北地方についてはボーナスが支給されなかった中小企業も多く、更なる節約が求められており、個人消費も相変わらず低迷している。そのため、ここ2～3か月の間はやや悪くなる方向で変わらないのではないかと。
		通信会社(営業担当)	・プレミアム付商品券の効果に期待が持てない。また、景気の底上げとなる材料も見当たらない。
		通信会社(営業担当)	・景気が好転するような材料に乏しい。
		テーマパーク(職員)	・わずかながら客の購入単価が上昇してきているが、今後も良くなるかどうかはわからない。
		観光名所(職員)	・年間でピークとなる8月の来客数が思わしくないため、今後も大きな期待はできない。
		遊園地(経営者)	・景気が良くなっている様子は見当たらない。また、新規オープンした水族館の影響がまだまだ続くため、イベントなどで下支えをしていく必要がある。
		競艇場(職員)	・売上が停滞している状況が長引いており、今後もその状況が変化するという期待が持てない。
		美容室(経営者)	・3か月前から現在に至るまで、客単価は横ばいの状況が続いており大きな変化はなく、今後もこの流れが続くとみている。
		美容室(経営者)	・客の会話からも、状況が変化するような要素はうかがえない。
		設計事務所(経営者)	・先行きが全く判断できない状況である。
		その他住宅〔リフォーム〕(従業員)	・エコポイントは窓工事には好材料であるものの、大型工事にはつながっていない。
	やや悪くなる	商店街(代表者)	・プレミアム付商品券の発行により消費に明るさがみえたものの、その効果は一時的であり、家計は再び節約志向に戻りつつある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（総務担当）	・一般的なインバウンドの売上があるなかで、株安並びに海外情勢、特に中国の情勢が懸念材料となっており、先行きに不透明感がある。
		百貨店（売場担当）	・海外ブランドの撤退による売上へのマイナス影響は、この先1年間は続くともみている。今後は新ブランドがオープンするものの、減少分をカバーするには程遠く解決策もみえていない。実際に新規客も増えていない状況であり、今後の秋冬商戦の見通しは厳しい。
		スーパー（経営者）	・株価の大幅下落と円高が、消費者心理にマイナスに影響することを懸念している。
		スーパー（経営者）	・物価上昇に賃金が追いついていない。
		スーパー（総務担当）	・中国株式が大きく下落したことに伴い、国内景気も大きな影響を受けるとみている。また、円高傾向が続けば株安も続き、景気も痛手を受けることになりそうである。
		コンビニ（経営者）	・暑さのおかげで買上点数は伸びたものの、客単価は前年を下回っており、来客数も伸びていない。たばこの売上が再浮上するなどの期待は持てず、さらに主力の米飯類の悪さも目立っており、先行きがプラスになるような要因は見当たらない。
		コンビニ（経営者）	・4年前の原発事故以降、かなり人口が減少している。これから先も状況が向上するような情勢になるとは考えにくい。
		コンビニ（経営者）	・先行きが好調となるような気配は見当たらない。
		コンビニ（エリア担当）	・同業他社の競争店との競争が激化している。また、異業種の形態変化も著しい。
		コンビニ（店長）	・最盛期に比べれば、来客数が減少し売上も落ち込むとみている。また、競合店の影響が徐々に始めているなかで、更に出店の話も聞いており、周辺の状況も含めて現状より良くなるとは考えにくい。
		家電量販店（店長）	・世界的な金融危機による影響を懸念している。
		家電量販店（店長）	・プレミアム付商品券の特需が一段落するとみている。
		乗用車販売店（経営者）	・海外経済の停滞の影響を懸念している。
		乗用車販売店（店長）	・9月は半期決算月であり、多少向上くとみているがその後は厳しくなる。
		住関連専門店（経営者）	・9～10月にかけて商品の値上がりがあるので、厳しい状況になるとみている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・季節的なものもあるが、株価の急落など景気に関するネガティブな報道が多く、諦めのような雰囲気が漂っている。
		一般レストラン（経営者）	・2～3か月先の予約が非常に少ない状態からも、多くの人は飲食やレジャーをしようとする意欲が減少しているように見受けられる。
		観光型ホテル（経営者）	・入込数は前年と同様に横ばいで推移している。企画や商品を考案しても、団体客は東北に目を向けてくれない。
		観光型ホテル（スタッフ）	・10月以降の予約において団体客の伸びが鈍い。そのため、売上を確保することがかなり厳しい状況である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・先々の予約動向は、あまり芳しくない状況である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊部門は好調を維持していくとみているが、宴会婚礼部門は良くなるような材料が見当たらない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・下半期は上半期のような勢いある予約受注がなく、停滞している感がある。はっきりとした要因は分からないが、予約受注状況だけをみると明らかに鈍化してきている。
		美容室（経営者）	・秋の行楽や運動会などの時期は外に出かける人が多く、美容室はいつも閑散としている。
		住宅販売会社（経営者）	・完成物件は順次完了しており資金が回っているが、新規受注の見通しが若干悪い状態である。
	悪くなる	商店街（代表者）	・例年であれば、年末にかけて予約が出てくる時期であるが、そのような流れはほとんどなく、従来よりも予約の数が少ない状況である。景気が悪く、消費がかなり落ち込んでいるようである。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・秋には選挙が控えている。また、現在のような株価が不安定な状況では、売上が良くなる要素はどこにも見当たらない。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・財布のひもを緩めるだけの材料がない。更に株価も下落しており、ますます厳しくなるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連 (東北)	良くなる	一般レストラン（経営者）	・秋の行楽シーズンではあるが、選挙が終わったばかりで派手な動きはなく、米の収穫期も控えているため、まだまだ夜の部の厳しさが続くともみている。
		建設業（従業員）	・下期の発注において、一定量の大型公共工事の新規出件が見込まれている。
	やや良くなる	農林水産業（従業者）	・旧盆以降も、ももの注文数は例年どおりである。また、好天に恵まれて品質も良いため、後半の出荷分も例年より販売単価が良くなると期待している。
		木材木製品製造業（経営者）	・今後、住宅の需要が増加する見込みであり、販売量、収益共に改善に向かうともみている。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・受注残高が前年同月比で5%程度上向いており、景気は上向きの方向にあるともみている。
		輸送業（経営者）	・燃油費が下がり気味であるので、物量が横ばいであっても、利益に関しては改善に寄与するとみている。
		広告業協会（役員）	・12月の地下鉄開業や自治体の観光キャンペーンなどイベントが目白押しである。また、プレミアム付商品券の発行やインバウンド関連などにも期待をしている。
		司法書士	・県外の中堅ハウスメーカーが当地域に出店する動きがみられている。
	変わらない	農林水産業（従業者）	・TPP交渉は相変わらず予断を許さない状況が続いている。ただし、米価は前年に比べて若干の上向きになる見通しであり、総合的にみて景気の状態は変わらないともみている。
		食料品製造業（経営者）	・値上がりしている商品が多く、消費者の財布のひもは固いままである。
		食料品製造業（営業担当）	・新商品の動きが良くなく、明るい要素が見当たらない。そのため、年内は販売量の前年割れ状態が続くとみている。
		食料品製造業（総務担当）	・中国などの海外経済の先行きが懸念されている。その影響によって輸出関連企業を中心に経営が悪化すれば、消費者は購買に慎重となるため、大きな伸びは期待できない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・9月は休みが多いため、売上に影響することを懸念している。
		土石製品製造販売（従業員）	・取引先からは、人件費の削減や増員なしで業務を行っているとの話を多く聞いている。景気が回復したといえるのは、ほんの一部の企業のみではないか。
		一般機械器具製造業（経営者）	・受注量は、前年と比較しても低水準で推移しており、増加する要因が見当たらない状況が継続している。
		建設業（経営者）	・今後も受注量に変化はないともみているが、資材費や人件費の値上げがあるため、経営的には若干厳しくなるのではないかと。
		建設業（企画担当）	・首都圏の工事量増加の影響が大きくなるのは来年度からともみている。
		輸送業（従業員）	・夏季の一時的な需要の増加も落ち着いてきており、今後の状況に大きな変化はみられない。
		通信業（営業担当）	・地元の強みを生かした営業活動を地道に継続し、信頼を獲得していく必要がある。
金融業（営業担当）		・特に大きな変化要因はない。	
広告代理店（経営者）		・地下鉄の新規路線開業に向けた動きはあるものの、中刷り広告の期待度は少なく、大きな変化はない見通しである。	
公認会計士		・小売関係の売上回復がないと景気回復は難しいが、現状では回復の兆しがみえていない。また、建設関係も現状のまま推移するとみている。	
その他非製造業〔飲食品卸売業〕（経営者）		・秋向け商材の受注量が前年並みのままであり、小売店の仕入意欲も高まってははいない。	
その他企業〔企画業〕（経営者）		・得意先の様子見と発注案件の絞込みの傾向については、今後も続くとも得意先の担当者が明言している。	
その他企業〔工場施設管理〕（従業員）		・余剰人員の移動もあるが、このままの出荷数で推移するとみている。	
金属工業協同組合（職員）	・企業間においては依然として温度差がみられており、更に格差が拡大してきている。		
やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・世界経済、特に中国経済の悪影響が日本経済にも表れるともみている。	
	繊維工業（経営者）	・店頭での売行きが良くない状態が、急に回復するとは考えにくい。	
	電気機械器具製造業（企画担当）	・この先数か月は大口価格の下落傾向が継続するとみている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（経営者）	・相次ぐ海外の事件によって旅行需要の低下が懸念されている。そのため、再び回復の見通しが立たなくなっている。
		経営コンサルタント	・地方選挙が本格化しており、地域の商業環境においてマイナスに働くとみている。
		コピーサービス業（従業員）	・新規設備投資の商談が少なく、今後販売量が増えていくとは考えにくい。
		悪くなる	
雇用 関連 (東北)	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・マイナンバー需要を見込んでいる。
		アウトソーシング企業（社員）	・前年よりも仕事量が増えており、今後も期待が持てる。
		職業安定所（職員）	・引き続き、新規求人数の増加傾向が継続するとみている。
		職業安定所（職員）	・7月の新規求人倍率は2か月連続で2倍を超えており、2.42倍である。また、有効求人倍率も前月を0.11ポイント上昇し、1.47倍と好調である。
		民間職業紹介機関（職員）	・年度の上期終了に伴い、10月以降は全般的に上向きの傾向になるとみている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・大学4年生の就職活動を見ると、ここ1か月で非常に多くの内定が出されている様子である。各企業の求人意欲は継続しており、3か月先も今と変わらない状況であるとみている。
		人材派遣会社（社員）	・景気が上向く要素がないと顧客は判断しており、しばらくは様子見が続くとみている。
		人材派遣会社（社員）	・国内景気が停滞すれば、派遣求人数の減少とミスマッチが経営へ悪影響を及ぼす可能性が出てくるとみている。
		職業安定所（職員）	・不人気業種以外の業種からの求人数が伸びない状況は今年度当初から続いており、今後もこの傾向に変化はないとみている。
		職業安定所（職員）	・求人は高止まりで推移しているが、求職者の減少が続いている。人手不足は専門技術職が目立っている。一方事務職などは相変わらず人手が過剰となっている。
		職業安定所（職員）	・ほとんどの業種で人手不足が続いている状況に変化はない。ただし、一部の製造業では年末にかけて雇用調整の動きがみられている。
		職業安定所（職員）	・求人数の高止まり状態が継続しているものの、人手不足により生産量の増加、あるいは売上の伸長ができない企業が多い。人材確保が思うように進まない今の状況では、大きな改善を見込むことは難しい。
		職業安定所（職員）	・求人の状況はここ数か月と変わりなくやや微増で安定している。現在のところ、企業の大規模な創業、管内への進出、また、大規模な人員整理の情報もなく、求人の好調感はあるものの、近い将来の求人動向としては大きな変化はみられていない。また、正社員と比較して非正規求人の増加が目立つため、景気が大きく改善するという印象もない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数、有効求人人数共に、前年比は増加と減少を繰り返している。今後もこのような動きに変化はないとみている。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・労働者派遣法改正案の成立が遅れに遅れており、派遣先企業と派遣社員からの不安の声が高まっている。また、業績にも悪影響が及んでおり、今後2～3か月先の景況も悪化するとみている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・被災地において、被災地を見捨てるような要素が強まってきている。さらに、株価の下落や円高再燃なども相まって東北に暗い影を落としつつあり、先行きは不透明な状態である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・株価の大幅な下落などアベノミクスの経済対策に不安があるため、先行きが見通せない状況である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・世界的な株安の影響などもあり、先行きの不透明感から慎重になっている様子がうかがえる。
	悪くなる	-	-

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向	良くなる	商店街（代表者）	・大河ドラマの配役発表や、9月末にはタイトルロゴの発表など、来年に向け盛り上がりそうである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (北関東)	やや良くなる	百貨店(店長)	・公共施設が近隣に移転するため、やや良くなる。
		スーパー(総務担当)	・株価の変動は気になるが、3か月連続で売上が前年を上回っている。
		スーパー(副店長)	・現状、良くなる条件はあまりないが、近隣に農家が多く収穫期を過ぎて、収入の入る時期であり、少し良くなるのではないかとみている。
		コンビニ(経営者)	・6月に店をリニューアルしたため、非常に店が綺麗になり、客が増えてきており、今後もますます増えると思っている。
		コンビニ(経営者)	・秋の行楽シーズンに向かい、客の動きが活発になり、イベントを開催し、集客率を上げることができるため、やや良くなる。
		衣料品専門店(統括)	・当店は、祭り用品を扱うが、夏祭りは、お盆が明けるとほとんどが終わり、客の動きは悪くなる。これから9月に入り、秋祭りが実施されるため、ある程度期待ができる。ただ、街の中は大変静かで、人通りのない状態が続いている。
		乗用車販売店(経営者)	・良くなって欲しい。
		一般レストラン(経営者)	・大型チェーン店出店後の影響や、客の流れにも変化がないため、この先に期待している。
		観光型旅館(経営者)	・今年の秋は、約7年に1度のシルバーウィークがあり、当県のふるさと旅行券の販売も始まる。これにより販売量は昨年よりも伸びるとみている。
		都市型ホテル(スタッフ)	・北陸新幹線の延伸効果もあるが、前年に比べ、客が来るのではという期待感もあり、少し上向きになっていく。
		都市型ホテル(スタッフ)	・9月の入込は非常に弱い状況であるが、10月以降の入込は堅調に伸びている。
		旅行代理店(営業担当)	・9月にはシルバーウィークがあり、また、10~11月にかけては秋の旅行シーズンを迎えるため、販売量は増加する。
		観光名所(職員)	・夏休みが終わり、国内の客は落ち着くが、紅葉シーズンは海外からの観光客が、円安傾向により増加するとみている。
	遊園地(職員)	・インバウンド客に向けた新規施設が開業し、シルバーウィークや、行楽シーズンによる来客数の増加が見込まれる。	
	ゴルフ場(総務部長)	・予約状況が前年並みとなっている。	
	その他サービス[葬祭業](経営者)	・少しずつ当社の認知が進んでいる。季節の変わり目を迎え、亡くなる方が多くなる。	
	変わらない	商店街(代表者)	・天候不順が続くと、ますます小売店への客足は遠くなっていく。暑ければ暑い大型店へ、雨なら雨で大型店へと客は流れていく。
		一般小売店[精肉](経営者)	・8月も下旬になり気温が下がってきているが、天候の変化になかなか体が追いつかない人が多く、平日の動きはあまり良くない。また、近隣にスーパーが開店し、影響が出始めているので、あまり良くならない。
		一般小売店[家電](経営者)	・プレミアム付商品券の使用期限は約半年である。必要な物の購入の前倒しで、多少売上増を見込んでいる。今年の不順な天候では季節商材の動きも予測できず、目玉商品も少なく、客の消費意欲を出させるのはむずかしい。
		一般小売店[家電](経営者)	・残暑も少なく、プレミアム付商品券の効果や、消費も、あまり見えてこない。
百貨店(営業担当)		・景気は回復基調で、若干賃金の増加もあるが、消費税の増税もあり、若干マイナス気味である。	
百貨店(営業担当)		・価格に対しては厳しい目が寄せられ、食品、衣料品共に好転する材料は見当たらず、今後も変わらない。	
百貨店(販売促進担当)		・今後2~3か月で消費動向が好転する要因は見当たらない。物価上昇に伴う生活防衛意識は今後も継続する。	
百貨店(副店長)		・雇用や賃金の状況は好転していると報じられているが、地方ではその実感がない。中小企業の業績や雇用環境は依然厳しさが続いている。地元の商店街も廃業する店や出店してもすぐに休業に追い込まれている店もあり、個人消費を取り巻く状況が良くなる気配はない。	
スーパー(経営者)		・先行き不透明感が残っている。	
コンビニ(経営者)		・夏の商戦が終わったため、変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・8月下旬は、天気に恵まれず苦しい商戦である。11月ごろは周りの状態からみても、普通に推移する。商環境は、悪くないが従業員の補充が全くできていない。ここ数か月ともな応募はまるでない。ということは、おそらく全体としては景気が良くなっているのだろう。
		コンビニ（店長）	・天候とキャンペーンの影響で、今月は良かったが、それらがなければ、特に変化する理由も見当たらず、変わらない。
		衣料品専門店（販売担当）	・プレミアム付商品券の効果は、利用者が多ければ多いほど効果があるという表現が合っているかは分からないが、商品券の利用は今月上旬にはあった。ただ、それも一過性のものであり、今後その反動がくると予想しており、秋商戦を迎えても、なんら好材料が見当たらないため、今月からしばらくは悪い状態が続くとみている。
		乗用車販売店（経営者）	・販売が上向き兆しが見えてこない。
		乗用車販売店（経営者）	・当地域の産業界でも額の多少はあるものの、賞与が今期も無事に支給されたようである。特にお盆休みは大規模小売店はかなり混雑していた。反面、商店街の個人商店は夏祭りの間だけの人出である。大規模メーカーと下請業者、大規模小売店と個人商店、これらの産業構造を考えていかないと、二極が対立したまま経済が減退してしまうのではと心配である。
		乗用車販売店（経営者）	・軽自動車の新車販売台数は7月ごろより前年割れしている。目新しい新型車の発売もないため、2～3か月は低迷するのではないか。
		乗用車販売店（営業担当）	・販売台数の大半が低価格の中古車である。当社のような中小企業では、新車を販売するよりも内容は良いが、将来が不安である。
		乗用車販売店（販売担当）	・通常の8月ではなかった。前年も悪かったがさらに悪くなり、3か月前もこれから先も良くなる要素がない。
		乗用車販売店（販売担当）	・毎月のことだが、今後2～3か月先の景気が良くなる要素は全く見当たらない。ミニ展示会、チラシを配布しているが反応が鈍く、営業関係の新車、中古車の販売台数が伸びる要素はない。この低調なまま行くのではないか。
		乗用車販売店（管理担当）	・依然、衣食への消費支出は多いが、自動車等の需要はやや低迷している。
		住関連専門店（店長）	・売上が天候により変化する状況が続く。これは客が必要な物しか買わないことだと思うので、将来の景気については不透明である。
		住関連専門店（仕入担当）	・少しずつではあるが、消費税増税の影響が薄れつつあり、生活用品についても改善傾向を感じる。
		一般レストラン（経営者）	・夏が終わり本格的な秋の行楽シーズンまでの間は、比較的来客が減る期間であり、景気の良し悪しが分かりづらい。9月の大型連休の人出を期待しているが、前年は空振りに終わっている。
		スナック（経営者）	・この夏は猛暑で家電や、プレミアム付商品券関連のところは、まずまずである。ここに来てやっと地方も一部給料が上がるかと思った矢先に、中国の株安である。これはまた、景気に相当影響があるのではないかと心配している。
		都市型ホテル（営業担当）	・ビジネスホテルの集客状況は、3か月前に比べ、少しは改善している。この状況は3か月程度は維持できるが、大きく上向き要素は見当たらない。
		都市型ホテル（副支配人）	・9月以降の入込は、例年を上回る受注数となっているものの、半数近くを占めるインバウンド予約の催行率次第で、どう転ぶか読めない。
		旅行代理店（従業員）	・世界情勢がまだまだ不安定な感じがする。
		旅行代理店（副支店長）	・この先、大きな変化はなさそうだが、世界同時株安やタイの情勢不安で、海外旅行の受注減が予想される。国内旅行は台風の影響が特に沖縄、九州方面で心配される。また、各地で火山活動も活発化しており、風評による旅行者減が懸念される。
		タクシー運転手	・単価の低い客が多く、夜の動きが悪い。金額の伸びる回数が少なくなっている。
		タクシー（経営者）	・8月の中旬より動きが悪くなったため、この先も良くない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（経営者）	・20年以上続いた消費者のデフレマインドは、そう簡単には変わらない。株価を上げて一部の上流層は活気づいたかもしれないが、7割以上の一般市民には何の影響もない。底辺の底上げをしない限り、景気は長く続かず、結局は格差が広がるだけになるのではないかと。むしろ緩和を終了せざるを得なくなった時の日本経済がどうなるのかを考えると恐ろしい。地方ではアベノミクス以前と何ら変わらずじわじわと右肩下がりである。
		通信会社（経営者）	・テレビ離れや節約志向により、今後も厳しい状況が続く。
		通信会社（経営者）	・地方の個人消費はおおむね横ばいとなっている。
		通信会社（営業担当）	・中国株の下落等の影響は、富裕層に限定的と考えられ、一般客にはさほど影響がないものとみている。
		通信会社（局長）	・長期的にみて、加入増と直結する景気の動きを感じない。
		ゴルフ場（支配人）	・地元客が多いゴルフ場であり、地場産業、公共事業等が伸びず、来客数の確保が難しい。競合ゴルフ場の予約状況も芳しくない。
		競輪場（職員）	・他競輪場の記念レースの売上高にも、変化がない。
		美容室（経営者）	・予約状況が今までと同じような状態が続いている。景気はそれほど変わらない。
		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・予約の受注量は変わらない。また、商品券等の利用分も変わらず、全体的な予約状況や、各テナントの状況からも横ばいである。
		その他サービス〔イベント企画〕（職員）	・良くなる判断材料に乏しく、変わらない。
		設計事務所（経営者）	・すぐ設計業務に入れる仕事が少ない。
		設計事務所（所長）	・今月とあまり変わらない。ただ、夏休みも終わり、これから決算期に向けて準備を怠らないよう努力はしていきたい。
		住宅販売会社（従業員）	・好況感の一部の大企業などに限定され、地方には波及していない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・物価の上昇で負担感が増しているなか、最近の中国の影響もあり経済が落ち込み、期待感は薄い。
		商店街（代表者）	・当店は、新学期の学校販売と水着、登山、クラブ活動関連用品を扱っている。クラブ用品も新学期にすべてそろえるため、秋になるとすぐに冬物を扱い、毎年の事だが、やや悪くなる。
		一般小売店〔乳業〕（経営者）	・高齢者の消費意欲が減衰している。
		百貨店（店長）	・地方には景気回復の実感はない。また、中国経済の先行きに不安があり、株価も急落しており、今後が見通せない。
		スーパー（統括）	・株価や為替の乱高下で、消費マインドの生活防衛意識が高まり、客数、買上点数共に減少は避けられない。
		スーパー（商品部担当）	・商圈内に大型複合施設の新規開店予定があり、多少来客数の減少が予測される。
		コンビニ（経営者）	・季節変動の関係で、秋口には売上は下がるとみている。いろいろと努力しても、なかなか夏のような効果は出ない。
		家電量販店（店長）	・季節商材の好調さは一段落したため、この次の主力となる商材が見当たらない。寒さの到来が早まれば暖房用品がけん引役になると思う。
		自動車備品販売店（経営者）	・身の回りの客の動きや話から、会社はあまり良くなっていない。その上、税金が上がり、消費税が再増税されるなど、ネガティブな感情がさらに増幅している。そのため、購買意欲は全く上がらず、3か月後も将来もプラスは見込めない。
		住関連専門店（経営者）	・中国経済が不安定なため、株価が低迷し始めている。この報道によりマスコミが過剰反応し、消費マインドの冷え込みが懸念される。
		その他専門店〔燃料〕（従業員）	・環境にやさしいエコ傾向が進み、燃料の使用量も減少していくため、やや悪くなる。
		一般レストラン（経営者）	・一極集中で東京は発展しているが、地方都市は収入もそれほど上がらず物価は高いため、財布のひもは緩まず、消費傾向が進まない。こうした中、経済が潤うことは少ない。
		一般レストラン（経営者）	・郊外型の全国チェーン店が多数出店してきているが、話題性で人がそちらに動いているだけであり、地域全体の景気は全然良くなっていない。地元の店ではないため、地域活性化にはつながらない。
		スナック（経営者）	・客が皆暗い顔をしてる。全体を引き上げるくらい、元気の出る政策が必要である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		観光型ホテル（経営者）	・8月はトップシーズンなので、2～3か月先は単純に悪くなるとしか答えられない。ただ、前年同時期と比べれば、上向きで前年を超える。	
		旅行代理店（所長）	・ここ数日の株価の下落は不安要素となる。また、今年は台風が多く発生しており、直撃を受ければ大きな打撃を受ける可能性がある。	
		タクシー運転手	・地元の利用客はあまり期待できない。他地域からの来客が増えないと変わらない。	
		タクシー（役員）	・現在の好景気は地元自動車工場に関連する会社のみで、それ以外の業種は企業体力がない。	
		通信会社（社員）	・販売量は上向くが、手数料収入が削減される見通しである。	
		テーマパーク（職員）	・客の飲食物販に対する消費が鈍く、客単価が低下している。	
		美容室（経営者）	・9月に当地で祭礼が行われるため、家庭の支出は祭礼中心となる。美容室利用は祭礼の初日午前中に集中する。祭礼2日目からは結い上げ、着付けの乱れた部分を調整する料金となり、格安で奉仕するのが恒例である。祭礼後は町が死んだようになる。売上を予想するに大変不安である。	
		住宅販売会社（経営者）	・株安の影響で景気が低迷し、買い控えが予想される。	
		悪くなる	一般小売店〔衣料〕（経営者）	・今月下旬から地元商工会議所でプレミアム付商品券を販売している。3日間程度で販売が終了したことを考えると良い感じもするが、どうしてもそのようにはみえない。
			通信会社（経営者）	・回復の糸口さえ見つからない。
設計事務所（所長）	・これまでは、徐々に悪化している感じだったが、今月これだけ悪いと、今後どうなるのかと心配になる。			
企業 動向 関連 (北関東)	良くなる	食料品製造業（営業統括）	・先進国、特に、オーストリア、アメリカ、フランス、チリ、アルゼンチン等の輸入ワインの動きも気になるが、円安が安定し、国産ワインも底堅く推移しており、秋の新酒に期待できる。	
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・主要取引先である、国内自動車メーカーの輸出が増加傾向である。	
		その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・9～10月は環境装置の納品が重なり、太陽光発電についても電力会社との連携が増えている。	
	やや良くなる	金属製品製造業（経営者）	・新規受注で、魚を干すステンレス枠の作成が入っている。これから注文が多くなることを期待し、楽しみである。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・7～8月が悪すぎたので、この先は不透明なものの9～11月は、受注量が少し上がり、以前の水準まで戻るのではないかと。	
		広告代理店（営業担当）	・既に年末に向けての販促計画が進んでいる。宴会の営業を前倒しにする傾向もある。	
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・この数か月のチラシ出荷量は、前年並みか前年をやや上回る月が続いている。地域有料ミニコミ誌の広告出荷量も、最近以前年をやや上回っている。	
	変わらない	化学工業（経営者）	・これから需要期になるが、需要の増加や新規引き合いなどの情報はなく、停滞した状況が続くとみている。	
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・年末商材の受注が例年より早まっているが、受注量に変化はなく、良い見通しにはつなげていない。	
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・例年と変わらない。	
一般機械器具製造業（経営者）		・尚一層の営業努力により、受注の拡大を図る計画を立て、実行に移ろうとした矢先、中国に端を発した経済状況が今後どうなるか全く分からない状況となったが、変化はないと判断をしている。		
電気機械器具製造業（営業担当）		・受注は2～3か月先まではある程度確保されているが、その先は非常に不透明である。		
輸送用機械器具製造業（経営者）		・上海株の下落や世界同時株安で、今までも分からなかったが、2～3か月先については、余計分からなくなっている。		
その他製造業〔消防用品〕（営業担当）		・しばらくこのままで推移すると考える。		
建設業（開発担当）		・公共工事中心であるが、現政権のもと2年以上上昇してきた発注額が頭打ちになってきている。民間工事は以前から受注が望めない状況である。今後はまた、10年以上続いた不況になるのではないかと心配である。		
建設業（総務担当）		・上向き要素もないが、さすがに年度末に向けて発注はあるだろうとみている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（経営企画担当）	・中国経済の減速による世界経済への影響が懸念されており、好転はしないとみている。
		金融業（役員）	・ボーナス支給を一つの目安としていたが、中小零細企業はベースアップやボーナスの増額支給に至らず、まだまだ厳しい状況である。
		経営コンサルタント	・中国の経済動向の先行きやヨーロッパのギリシャ問題の成り行きが不透明であるなど、世界規模の経済情勢が不安定なため、国内経済が様子見状態である。企業活動と個人消費の盛り上がり停滞しかねない。
		司法書士	・数か月後の開発話が来ていないため、このままの状態が続くのではないかと。
		社会保険労務士	・ガソリン価格の下落により、郊外型の店舗は客数が少しずつ増えてきているが、全体的には今の状況が続くものとみている。
	やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・中国経済の減速感や世界同時株安などが、少しずつ日本経済全体にマイナスになるのではないかと。
		一般機械器具製造業（経営者）	・自動車のモデルチェンジに伴い増産が予定される部品はあるものの、それ以外の展開はなく、状況は悪化する。
		電気機械器具製造業（経営者）	・9月までは通常の受注量が確定しているが、9月以降についてはまだ未確定要素がある。取引先の製品受注が安定していない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・現状の生産状態を維持するのがやっとなりで、先の仕事を確保するのは厳しい。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・9月は通常催事の時期で売上増を見込むが、今年はシルパーウィークもあり客の動向が読めないため、卸、小売とも不安視している。
		輸送業（営業担当）	・現状では、特にインターネット通販向けの夏～秋のレジャー、パーベキューその他園芸用品等の物量が増える予定である。しかしながら現状の中国株の株安もあり、全体的に景気に不安感もあるため、物量が少し下がる見込みである。
		通信業（経営者）	・世界的な株安が、景気にどこまで影響を与えるか心配である。
金融業（調査担当）		・不安定な状況が続く中、米国の金利引き上げや中国の景気減速のマイナス影響が広がるとみている。	
不動産業（経営者）		・空室が増えているにもかかわらず、新規貸室が建設されており、共倒れが予想される。	
不動産業（管理担当）		・経費の増加と受注価格の据え置き傾向は、今後も続く見込みのため、利益はやや減少傾向になる。	
その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・上期末で一服し、販売量は減少するとみている。		
悪くなる	食料品製造業（製造担当）	・原料価格も変わらず、利益を出すことに厳しい環境は変わらない。そうした中、最低賃金だけは底上げされそうで、零細企業にはますます厳しくなる。	
	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・相変わらず、資金繰りが大変である。	
雇用関連 (北関東)	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（管理担当）	・携帯電話の新機種が発売され、買換えによる下取品の検品業務が増えると予測している。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・ガソリン価格が落ち着き、物流関係の動きは少し活発である。今後も物流関係は、良いのではないかと。いち早く小売店などは秋物商材を出している時期だが、秋物衣料も少し目立つ動きが、出てくる。自動車関連も、秋冬物に切り替えようとする動きもあり、製造部門は在庫調整で動きが活発になり、年内までに幾分回復してくるのではないかと。ただ、住宅関連のほうは、なんとも分からない部分がある。
		人材派遣会社（支社長）	・マッチングできない状態が続くのは大変だが、引き合いの強さは減退せず、このまま年末まで行く。9月は通常なら閑散期であり、少々異常な状況である。今年から来年度末へかけての採用市場は活性化するとみている。問題は供給側である。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・求人紙には医療、介護、サービス業など、いつも同じ企業の掲載が目立っている。製造業も以前より多少増えているがパート、アルバイトが多く、正社員の募集は少ない。
職業安定所（職員）	・中国からの受注が激減した製造業の事業所があり、他の事業所への影響が懸念される。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・自己都合退職者の増加で、新規求職申込者が2か月連続で増加している。求人数は増加傾向にある一方で、事業所の求めるスキルは上がっているため、求職者の希望とミスマッチがあり、求職活動が長期化している求職者が増加している。
		職業安定所（職員）	・今月は新規求人数は前年比プラスとなっているが、有効求人数は依然としてマイナス傾向である。今後、管内事業所において大量雇用の動きのある事業所情報はないが、大量離職の動きを示す事業所情報もなく、景気の動向は横ばいである。
		民間職業紹介機関（経営者）	・求人を含ん引している製造業では、中国ショックへの不安を懸念する企業が多く、正社員の求人が弱い。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・職種に偏りはあるが、求人数は順調である。しかし、事務系職種の一部はほとんど見られない。将来、今ある職種の40%がなくなるといわれる時代に突入したのかもしれない。
		やや悪くなる	人材派遣会社（経営者）
悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・軽井沢に避暑や買物に来る客と地元との貧富の差が、今まで以上に大きくなっている。地元一般企業の賞与増額はなく、消費意欲は湧かない。	

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)	良くなる	コンビニ（経営者）	・売上や来客数を管理しているが、暑さが続いたり気温が上昇すると、極端に数値が上昇する。
		一般レストラン（経営者）	・2～3か月先の10～11月は、8月よりは売上は良くなる。8月は1年間で一番暇な時期だが、10～11月は学校行事等もあるのでケータリングも含めて、売上は上がっていく。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・これから涼しくなって過ごしやすいつ時期になるので、出かける人が多くなり、売上が増えていくため、良くなる。
		旅行代理店（販売促進担当）	・秋の旅行シーズンになり、特に、法人の国内団体の予約が堅調に入っており、非常に期待できる状況にある。海外はあまり伸びていないが、トータルでは良くなると考えている。
		観光名所（職員）	・2～3か月後は秋の一番のピークとなる。今月よりもますます人員が増えるとともに、来月は6年ぶりの長期のシルバーウィークを迎えるため、期待している。
	やや良くなる	一般小売店〔家電〕（経理担当）	・これからの時期、祭りなどの工事や太陽光発電の仕事が決まっている。ただし、一般的な商品が動くかとなると難しいかもしれない。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・8月からプレミアム付商品券を総額26億円発行し、来年1月末まで有効期間なので、希望的観測だが良くなるかと期待している。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・今春より前年と比較して販売単価及び販売数量が微増してきている。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・まとまった案件の話が少しずつ出てきている。まだ決まるかどうかは分からないが、例えば、プリペイドカードのまとめ買いやスチール家具物件といった話が出てきている。
		百貨店（広報担当）	・新店や地方都市店を中心に売上が前年を上回っており、この基調は続く。
		百貨店（営業担当）	・前年になかったガウチョ、ボンチョ、ロングコート、中途半端丈コート、フェルトハット、フリンジデザインなどのトレンドアイテムが出てきており、たんすにないとの理由で数量増加、セットでの購入率上昇の動きがみられると考えている。
		百貨店（販売促進担当）	・天候次第ではあるが、秋のファッショントレンドは新たな傾向のアイテム投入もあり、少し動きがあるのではと予測している。ただし、重衣料の動きはまだ早いかもしれない。
		スーパー（経営者）	・種をまいているので、時期が来れば実がなるのは当然である。
		スーパー（店長）	・前年実績はクリアしているが、今年に入ってまだ1度も目標の予算に達成したことがない。予算を達成していかないと、自分の給料も従業員の給料も上がらないので、3か月後については今よりやや良くなってもらいたい。
スーパー（総務担当）	・減少していた来客数が回復傾向にある。		
衣料品専門店（経営者）	・9月から発行されるプレミアム付商品券による景気刺激策で、消費は多少上がるのではないかと期待している。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・9月1日から始まるプレミアム付商品券でイベントを仕掛けて売上を増加させる。
		衣料品専門店（経営者）	・夏物バーゲンが不調だったにもかかわらず、例年より1週間ほど早く秋物が売れ始めたことで、少し明るさがみえてきたように感じる。
		家電量販店（経営企画担当）	・中国の景気対策が効くか分からないが、引き続きインバウンド需要は底堅いと考えている。一方、国内の景気は上昇トレンドを形成するとみている。この間、一時的な踊り場状態は避けられないとも想定している。
		乗用車販売店（営業担当）	・半期の決算があるため、期待を含めてやや良くなる。
		乗用車販売店（総務担当）	・上期決算月にきちんと成果を上げられれば、上向きで推移するはずである。
		その他小売〔雑貨卸〕（経営者）	・政府の政策が正しいと思うからである。
		旅行代理店（従業員）	・8月3週目あたりから、秋の団体旅行の問い合わせ、予約の依頼が入り始めている。
		旅行代理店（従業員）	・個人旅行の販売が少しずつ上昇しているため、今後も伸びていきそうである。
		旅行代理店（営業担当）	・更に問い合わせが増える見込みである。
		タクシー運転手	・中国経済の不透明で為替市場の見通しが立ちにくい昨今だが、一方で、訪日外国人急増でホテルが満室などのニュースが流れているので、景気は良い方向に向いている。
		タクシー運転手	・会社、病院、一般客のオーダーがやや増えている。特に多いのは病院の送り迎えであり、高齢者の利用が多いと感じる。また、会社では工業団地の地域で駅から会社、会社から駅の利用が増えている。
		通信会社（経営者）	・お金を持っているシニアが、秋になり消費に向かう。
		パチンコ店（経営者）	・当店の場合、客と機械との相関関係がある。来月、再来月と結構人気のある機械が出る予定で、今はあまり良くない状態なので、期待も込めて今よりは良くなる。
		設計事務所（経営者）	・2～3か月という長さではないが、将来の話として、客先からいくつかのプロジェクトが計画されていると聞いている。実際に当社へ仕事として来るかは分からないが、先の展望として予定があるということである。
		設計事務所（所長）	・今一步のところで進まないが、情勢の何かが変われば踏み出してくるのではないかと期待している。
	変わらない	商店街（代表者）	・マイナスの要因は、近隣に大型ショッピングモールがオープンして、序盤戦だけ多少影響があるかと思っていたが、意外に影響がまだ続いている。特に、土日は影響力が大きい。また、プラスの要因としては、プレミアム付商品券の発行により、多少消費を押し上げていると感じている。
		商店街（代表者）	・今年の天候は異常で、若者でも大変だと思うが、高齢者にとって外に出ることが危険を伴うという感じもあるのでなかなか外に出ない。これから天候が良くなって動き出すようになれば、客が増える。
		商店街（代表者）	・株価を中心とした経済に関する数字が悪く、マインドが冷え込むと更に悪くなる可能性がある。ただし、イベントを予定しているものに関しては、まだ一般の客の意識は高いので、ひどく落ち込まないのではないかと考えている。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・プレミアム付商品券の発売で多少の期待はあるものの、シルバーウィークなど連休が続くため観光等に消費され、来客数が少なくなるのではないかと感じる。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・家電製品だけの販売で売上を上げるのは無理である。家電店も様々な商品、サービス売っていかねば生き残れない。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・秋のイベント、祭礼や特別な祭礼があるので、期待している。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・夏物商材は終わるが、プレミアム付商品券の影響がまだしばらく続くのではないかと感じる。
		一般小売店〔靴・履物〕（店長）	・特に賃金などが増える兆しはなく、物価もそれほど上がらなくなってきているので、このまま変わらずに行ってほしい。
		百貨店（売場主任）	・中国経済の影響で株価が落ちてきている。また、中間所得層の給料は上昇しているものの、消費者物価も上がってきているので変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（総務担当）	・陽気が良くなれば来店頻度も増え、秋物などのプロパー品が動いてくると思うが、傾向は大きくは変わらない。
		百貨店（総務担当）	・株価の下落が止まるまでは、消費が冷え込んだ状況が続く。
		百貨店（営業担当）	・来日外国人の購買が好調の一方で、国内客の購買は婦人服、婦人服飾品をはじめ全般が低調である。中国の金融不安も景気に影響しつつあるようである。
		百貨店（営業担当）	・メーカーがものづくりを前年より控えており、間違いなく中国を含む物価の上昇による原価アップがある。商品が少ない分、売上は厳しい。
		百貨店（販売促進担当）	・夏季賞与の上昇といったプラス要因により、単価の上昇がみられたと考えられるものの、食料品の値上げや中国経済の失速といったマイナス要因もあり、心理的に綱引き状態が変わらない。
		百貨店（店長）	・ここ数日の株安などから、消費の落ち込みが未知数である。インバウンド需要の陰りなどの不透明感がある。
		百貨店（店長）	・経済面で明るい材料が表れるまでは、この流れが続く。
		百貨店（副店長）	・食料品の値上げイメージはあるものの、賃金等の安定感もあり景気動向は変わらないのではないか。秋の商材、特に、婦人衣料関連については動向を注視したい。
		スーパー（販売担当）	・競合との価格競争もあり、重点商品、ナショナルブランドの値段が下がる傾向にある。客1人当たりの買上点数は前年を上回っているが、1人当たりの売上額になると前年を下回る状況がまだ続いている。
		スーパー（経営者）	・現状のまま変わらない。スーパーは全般的にそれほどに悪くはないが、競合状況により左右される。また、最近単価が若干上がっており、客が慎重な買物をしていることから、今後、下振れするかもしれない。
		スーパー（店長）	・プレミアム付商品券の販売を控えており、一時的な起爆剤にはなるとは思うが商品券を使い切ってしまうと元どおりになってしまうため、慎重な消費動向を変えられるほどの要素はない。
		スーパー（店長）	・基本的に販売量は減少傾向にある。販売量の減少とは逆に、おいしい物、価値のある物の購買がみられる。また、量は食べ切りなどで減少傾向にある。
		スーパー（総務担当）	・頻度性の高い商品については売上が伸びている。また、青果物等については相場が上がっていることで売上が伸びているが、他店との価格の比較がしやすいナショナルブランド商品については、客の見る目が非常に厳しくなっている。今後、天候と件が非常に影響すると思うが、決して客の財布のひもが緩んでいるということはない。
		コンビニ（経営者）	・夏場のため来客数は増えているが、単価は減ってきている。秋口になると客が減っていく。
		コンビニ（経営者）	・気温に左右されやすく、不確定な要素が沢山ある。
		コンビニ（経営者）	・天候や中国経済が不安要素になる。
		コンビニ（経営者）	・天候次第で販売品目は大きく変化することもあるが、売上、販売額は急変することはない。
		コンビニ（経営者）	・来月はシルバーウィークがある。当店は連休になると少し暇になるので、長期休暇は当店にとってプラスではないが、何とか来客数を維持して前年比を確保したいと考えている。来客数の確保は何とかなりそうだが、客単価が若干下がって現状維持と予想している。
		コンビニ（エリア担当）	・天候による影響は少なく、大きな変化はなさそうである。ただし、直近の株安の影響次第では購買が鈍る懸念がある。
		衣料品専門店（経営者）	・大きな起爆材に欠け、残暑等の影響で秋物商戦の立ち上がりが不安である。このままずっと厳しい状況が予想される。
		衣料品専門店（経営者）	・変わらないと回答したが、実際は分からないということである。当地域では9月からプレミアム付商品券が発行されるので、買い控えがあるのかもしれない。来月以降、その効果がどれだけあるかは未知数なので、様子を見たい。
		衣料品専門店（統括）	・客の買物マインドが2～3か月で変化するとはなかなか考えられないので、今の状態が続く。
		家電量販店（統括）	・急激な世界株安が年末にどのように影響するのか未知数である。特に、インバウンド消費に急ブレーキがかかる可能性がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備は順調に入っているが、販売はあまり芳しくない。地方活性化のためにプレミアム付商品券が発売されているが、自動車販売の活性化には、あまりなっていない。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車が出てあまり来店客が増えてきていない。
		乗用車販売店（渉外担当）	・新型車の受注が好調ななかで、総受注はわずか前年プラス5%で推移している。来客数も目に見えて多くはなく、個人消費は良いとは言えない。法人需要及び個人ではミニバンがやや良いが、総体的には景気は変わらない。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・何もしなければ落ちるだけなので、仕掛けをして前年並みである。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・景気の先行きが見えないので、変わらない。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	・特に大きく市場環境を変えるような動きは今のところない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・売上が好調な理由の1つに地域で発行しているプレミアム付商品券の影響がある。それがないと今ほどの状況ではないと考えている。
		高級レストラン（副支配人）	・法人関連を中心とした宴会予約状況から判断し、変わらない。
		高級レストラン（仕入担当）	・円安による食材等の値上げが続いているが、販売価格に反映させて値上げできるほどの勢いが感じられない。
		一般レストラン（経営者）	・今まで地域的にローカル感があったが、新規参入店はそれを払しょくするようなお洒落な外観で、街並みも少しずつ変化している。
		一般レストラン（経営者）	・今と不況の原因は変わらないが、3か月後は段々涼しくなって、人の流れが多少良くなって来る。しかし、また消費税の話題などが出てくると財布のひもが固くなり、消費も悪くなって来る。
		一般レストラン（経営者）	・客の仕事の様子を聞いていると、仕事が途切れる様子はなく、横ばいより少し上ぐらいの感じで景気が推移しそうである。
		一般レストラン（スタッフ）	・それほど動きがないような気がする。
		都市型ホテル（スタッフ）	・トップシーズンとなるが宿泊以外は月によって予約にばらつきが目立ち、前年同様、厳しい状況が続いている。例年からすると今後、急激に予約が伸びることも考えにくく、また、動きも鈍いため今月より景気が良くなるとは考えられず、何も変わらない。
		旅行代理店（経営者）	・客からの問い合わせはそこそこあるが、なかなか販売に結び付かない。シーズンオフと同じような状況が続くので、変わらない。
		旅行代理店（経営者）	・株価、為替の乱高下で、先行きは不透明である。
		旅行代理店（従業員）	・世界株安で先行きが不透明である。
		タクシー運転手	・夏休みが終わり、年末、冬休みに向けてこれから様々な動きが出る場所だが、皆がどちらに向かっていこうかとまだ迷っているようである。
		タクシー運転手	・大手のサラリーマンも残業するまでの仕事はないようで、最近では会社の好景気を感じない。毎年のように8月は落ち着いた、好景気を感じない月であり、将来の見通しが立たないような状況である。
		通信会社（社員）	・今年に入ってから順調に目標を達成してきているが、ここに来て伸び率の鈍化と解約の増加が懸念される。しかしながら、解約に対する施策がうまくいけばこのまま維持できると考えている。
		通信会社（営業担当）	・現在の水準を維持して推移していく。
		通信会社（営業担当）	・電話サービスを2014年4月から始めたが、客の契約も一服したように思う。これからはインターネットやケーブルテレビとのセット契約や大手通信会社とのコラボレーションによる新サービスの強化が必要である。
		通信会社（営業担当）	・ここ数か月、契約量、価格帯に変化がない。
		通信会社（管理担当）	・余暇に対してお金を使う傾向は底堅く、今後も継続する。同時に、MVNO（仮想移動体通信事業者）をはじめとした最新の通信サービスについても、50台以上のユーザーにも理解が進み、良いものを安く利用する知恵も浸透していると感じられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（局長）	・9月にアメリカの映像ストリーミング配給事業者が日本の通信事業者と組んで日本でサービスを開始するが、当面はあまり期待できないと考えている。また、2016年4月から開始される電力小売完全自由化への期待が高く、その予約開始の2016年1月から様々な動きが出てきそうな感じがする。
		通信会社（営業担当）	・景気向上を期待させる材料は見当たらないが、期待を込めての現状維持ではないか。
		通信会社（経営企画担当）	・客からの新規商談に変化がない。
		ゴルフ場（支配人）	・来月よりコースの半分を改造するため、残りの半分での営業を余儀なくされるが、来場予定数は半数ではなく、6割程度となる見込みである。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・さほど変化もなく、同じような景気が続く。年末に向かっての消費動向がみられるかもしれないと期待しているが、小売店にとってますます厳しい経営が試される。
		設計事務所（経営者）	・行政の仕事が全体的に金額が小さくなってきている。当社は入札で仕事を取っているが、全体として規模が小さくなってきている。仕事を取り合う傾向があり、宝くじを引くような感じで、仕事が減っている。民間の仕事に切り替えたいが、先行きの見通しが悪い。オリンピック関連の景気は全くなく、先がみえない。
		設計事務所（経営者）	・周りをみても状況が良くなる要素は見当たらない。ただし、これ以上悪くなることも考えにくいので、しばらくはこのままの低空飛行が続く。
		設計事務所（職員）	・東京オリンピックに向けた直接的な施設とは別に、関連して収益を狙う施設をオリンピック前までに完成させる計画が見受けられるが、景気を左右するほどではなさそうである。
		住宅販売会社（従業員）	・夏休み時期の来客数も特別大きな変化はなく、住宅展示場や資料請求等の内容、数量共に3か月前と大きな変化はなく、不足している。
		住宅販売会社（従業員）	・夏休みが終われば、子育て世代の客の動きが出てくる。また、気候が良くなるとともに動きが出てくるので、2～3か月後の販売量に結び付いていく。
		住宅販売会社（従業員）	・契約数は変わらないが情報数が落ちているので、今後は厳しいかもしれない。
		住宅販売会社（従業員）	・土地の仕入がうまくいけば、投資家や客の動きも良いので良い方向に進んでいく。仕入状況が当社の景況感に大きく影響していきそうである。
		住宅販売会社（従業員）	・事業部門によりまだら模様の状況が続く。
やや悪くなる		商店街（代表者）	・中国経済の減速がいよいよ真実味を帯びてきた今、日本経済もつられて景気減速するのではないかと疑心暗鬼で、購買意欲がより低調になるのではと危惧している。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・8月は猛暑と最近の物価高、前年の消費税増税で買い控えが依然続いている。来客数、売上共に前年を下回っている。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・中国の経済がおかしくなってきたり、また、物がすでに飽和状態になっている。消費税が10%になるなど、先行きに良い情報がないので、悪くなるような気がする。
		一般小売店〔米穀〕（経営者）	・国内やグローバルな問題がいろいろ交錯しており、株の乱高下もあるので、冬場に向けてどうなるのか、安定するとは思えない。一時的に悪くなり、オリンピックに向けて良くなっていくような気がしている。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・会社用のお茶の売上が前年同月より下降している。客へ注文を取りに行っても、まだ少し在庫があるので、少なくなったら注文すると言われ、お茶を飲むペースも遅く、販売額が伸び悩んでいる。
		百貨店（総務担当）	・必要ないものを購入しない傾向は続く。
		百貨店（広報担当）	・中国の景気が悪化し、それにつられて国内株価も大きく上下しており、為替も円高傾向にある。直ちに国内景気が悪化するとは思わないが、現状、百貨店売上を支えている高額所得者層の買い控えが懸念され、近い将来、客単価の下落、売上の悪化という厳しいシナリオが懸念される。
		百貨店（営業担当）	・現在の売上はインバウンド需要に頼っている部分が大きく、特に、アジア系の増加が目立っている。ただし、中国経済については先行き不透明な面が大きく、予断は許さない状況である。国内消費については食料品はほぼ横ばいを堅持していることから、今後も堅調に推移する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・中国の景気減速によって株価が下がり、ストックを持っている客層が高額品の購買を現状ほどしない可能性が出てきているため、やや悪くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・中国経済の失速とそれによる世界的な株価暴落で、現状と同様の消費行動は期待できない。
		百貨店（営業企画担当）	・中国の景気が不透明ななか、国内の株価にも影響が出てきており、これまで好調だったインバウンド、富裕層の客へのビジネスも悪化することが想定される。
		スーパー（経営者）	・株価の影響により、やや悪くなる。
		スーパー（仕入担当）	・中国ショックの影響は大きく、円高に振れて為替の影響のある輸入品には多少良いが、世界的な不況に陥る可能性が懸念される。
		コンビニ（経営者）	・世界的な経済不安、日本の株価の乱高下等を見ると、数か月後も良いとは思えない。
		コンビニ（経営者）	・株価下落のニュースがあり、株を持たない人への影響も考えられ、景気が上昇するとは思えない。
		コンビニ（経営者）	・日本も含めて、世界の企業や株価などに破たん、下降傾向がみられるので、やや悪くなる。
		コンビニ（経営者）	・コンビニは夏場が最大の売上になるので、これからはなだらかに売上が下がる。
		コンビニ（経営者）	・コンビニは出店が多いため本社としては利益が出ていると思うが、加盟店にとっては店舗数が周りに増えてきたために非常に厳しい状況である。24時間営業を行っているが、雇用も大変厳しくなっている。売上が低迷し、最低賃金の引き上げがあって大変である。
		コンビニ（商品開発担当）	・来客数の増減については天候要因に起因することが大きいいため、現時点では回復傾向にあるものの、単価については上昇傾向にないため、やや悪くなる。
		衣料品専門店（店長）	・比較的天候には恵まれたのに、前年同時期と比べて来客数が良くなかった状況を考えると、しばらくは前年と比べて売上が向上するような状況にはない。
		乗用車販売店（販売担当）	・中国の株安で全体的に落ちてくるのではないかと不安がある。また、オリンピックの建築関係については、それを目当てにダンプカー、クレーン車、ミキサー車を購入していた客が見直して足止め状態であるため、ここ数か月間、若干景気が悪くなるのではないかとみている。
		乗用車販売店（店長）	・景気が不安定のため、今後の動向に疑問を感じる。
		住関連専門店（営業担当）	・リフォーム業界では省エネ住宅に関するポイント制度の予算枠消化による効果切れが予想され、大型工事の件数が減少する。
		住関連専門店（統括）	・今のところ景気が回復する要素は見当たらない。また、株式等も値下がりしており、そういった面からも、消費が低減する状態がまだ続くのではないかと。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・昨今の世界経済減速説に翻弄され、消費マインドが低下するような報道が連日されている。将来に対する不安感が再燃するのではないかと。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・仕入先である荷主が出荷調整して高値にしていることと、消費者が生活必需品にお金をかけなくなってきたことから、やや悪くなる。
		一般レストラン（経営者）	・相変わらず仕入単価の上昇、人手不足による人件費の高騰で厳しさが増してきそうである。マイナンバー制度についても経費増につながってくる。
		一般レストラン（経営者）	・毎年夏が終わると秋口は売上が下がるが、今月はプレミアム付商品券で前年と全く違う状況だったので、もしかしたらやや良くなるのかもしれないと期待している。
		一般レストラン（経営者）	・中国経済の失速による世界株安が、しばらく続く気配を感じる。また、それに関連して円安が更に進む状況が非常に考えにくくなっている。
		都市型ホテル（支配人）	・中国経済の先行きが不透明である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・中国を中心として株価が不安定になっているため、非常に動きが悪くなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今月は繁忙期なので、2～3か月後は少し下がっていく。
		都市型ホテル（総務担当）	・中国に始まった株価下落等、世界的な景気後退への懸念がある。
		旅行代理店（従業員）	・2～3か月先の販売量が前年比80%しか伸びていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー（経営者）	・消費税増税に向けて買い控えが起こりそうである。
		タクシー（団体役員）	・直近の世界同時株安の影響が出てくる。
		通信会社（経営者）	・9月より新規オンライン配信事業社が営業を開始し、安価な料金でスマートフォン、タブレットによる映像視聴ができることから、若年層が移動することが予想され、CATV営業が厳しくなるとみている。
		通信会社（経営者）	・中国の景気減速に引っ張られて世界景気が不透明となるなか、日本の景気の先行きも悪化しそうである。
		通信会社（総務担当）	・為替運動による諸物価上昇の抑制があまり期待できず、継続して悪化する。
		ゴルフ場（従業員）	・日本人の誠実かつ勤勉さがオリンピックで発揮できるどころか、その逆になっている。日本人本来の真面目さ、誠実さを取り戻し、世界に誇れる日本を再生しないとイケない。
		ゴルフ場（支配人）	・来場客との日常会話も含めて物価と所得を比較し、可処分所得が目減りしているなかで趣味、レジャーの支出金額は抑えられ、現に値引き要求が多く出ている。
		その他レジャー施設（経営企画担当）	・株安、円高が影響し、インバウンドの減少などが起こる可能性がある。
		その他サービス[学習塾]（経営者）	・塾業界でも生徒の取り合い状態が続いている。夏季講習では総時間数を延長し、料金は据え置きでやっている。入塾する人数は多少減っており、景気もあまり良くない。今後下降気味になっていく。
		その他サービス[福祉輸送]（経営者）	・株安等の動きもあり、当面は客の購買意欲が若干衰える。
		その他サービス[立体駐車場]（経営者）	・来客数が減ってきているため、やや悪くなる。
		設計事務所（所長）	・通常だと予定されている物件は上期で具体化され、発注されるのが普通だが、今年度は特に民間ではそういう状況にない。商談も全くない。
		設計事務所（所長）	・仕事量が多くなるというような見通しはなかなか厳しい。オリンピックで景気が良くなるのは都心に限られており、地方まで影響はなかなか出ない。
		その他住宅[住宅資材]（営業）	・客に先々の物件情報を確認してもはっきりとした答えが戻ってこない。現状維持も難しい状況が迫っていると感じている。
		悪くなる	
スーパー（営業担当）	・大幅株安、更に急激な円高で世界的な影響が危惧され、更に日本の経済にも大きな影響を及ぼし、また、小売業にとっても非常に大きな足かせになってくる。		
衣料品専門店（営業担当）	・とにかく人出がない。街に魅力がなくなり、退店する店が多く、新規店もなかなか見つからず、歯抜け状態が続いているショッピングセンターになっている。		
一般レストラン（経営者）	・現政権はTPPをおろそかにして、安保法案等、まるで江戸時代の幕末の井伊大老のような何かこう崩れていくしかないような気がする。中国もそれに近い気がする。景気が日本だけではなく、良くなることはないのではないかと思う。		
タクシー運転手 住宅販売会社（経営者）	・良くなる材料が見当たらない。 ・大企業の従業員は多少所得が増えつつあるかもしれないが、中小企業の従業員は全く増えずに、物の値段が上昇しているため、購買意欲が激減しているようである。何とか中小企業にもベースアップができるように景気を回復させてほしい。消費税については一律ではなく、物によって多少考えてもらえるとうれしい。住宅は免税にしても良いのではないか。		
企業動向関連 (南関東)	良くなる	その他サービス業[ソフト開発]（従業員）	・マイナンバー制度などが控えており、営業が動いているため、良くなる。
	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・一進一退の状況だが、今後に続きそうな話が出てきている。
		食料品製造業（経営者）	・8月末にプレミアム付商品券が発売されるため、消費は良くなる。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・例年どおりであれば、時期的に受注量が増加する。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・店頭で会社設立の客が来店しており、今月納品した上場企業は、通常ゴム印が各セクション1～2個といった発注であるが、組織変更もあり、10個以上の納品であった。今月は特需である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		<p>その他製造業〔化粧品〕（営業担当）</p> <p>金融業（従業員）</p> <p>不動産業（総務担当）</p> <p>税理士</p> <p>その他サービス業〔警備〕（経営者）</p> <p>その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）</p>	<p>・景況感の良さがまだサービス業、特に、理美容界には来ていない。ただし、消費者マインドが上がると期待できる。</p> <p>・取引先企業では、建設業を中心に売上、収益の改善傾向が継続している。ただし、小売業では業況回復のペースが鈍い事業者も多く、依然として個人消費の弱さも感じられる。</p> <p>・オフィスビルは年内、満室稼働で推移する見通しが立っている。</p> <p>・アメリカの景気が少しずつ回復してきて、日本車が売れている。一方、中国は経済や不動産などが不安定である。日本国内をみると、円安効果もあり、やはりアベノミクス、政治が主導して、景気を押し上げているので、やや良くなっていく。</p> <p>・2号警備業務（交通警備）では先行き不安なので、新規事業に取り組む。</p> <p>・夏期休暇の時期も終わり、受注の増加を見込んでいる。</p>
	変わらない	<p>出版・印刷・同関連産業（総務担当）</p> <p>化学工業（従業員）</p> <p>プラスチック製品製造業（経営者）</p> <p>プラスチック製品製造業（経営者）</p> <p>金属製品製造業（経営者）</p> <p>金属製品製造業（経営者）</p> <p>一般機械器具製造業（経営者）</p> <p>その他製造業〔鞆〕（経営者）</p> <p>建設業（経営者）</p> <p>建設業（経営者）</p> <p>建設業（経営者）</p> <p>建設業（従業員）</p> <p>建設業（営業担当）</p> <p>建設業（経理担当）</p> <p>輸送業（経営者）</p> <p>輸送業（経営者）</p> <p>輸送業（経営者）</p> <p>通信業（広報担当）</p> <p>金融業（統括）</p> <p>金融業（支店長）</p>	<p>・年度末の前なので、受注量が大きく増減する時期ではない。</p> <p>・国内での受注状況はあまり変化がなさそうだが、中国向けの先行きの受注にやや減少傾向がみられる。しかし、大きくは影響しないものとみている。</p> <p>・全体として株価が不安定で、世界の経済情勢をみても、これから良くなっていくようには見受けられず、3か月先も変わりはない。</p> <p>・下半期に向けて新企画立ち上げの兆しはあるが、実行されないと非常に厳しい。</p> <p>・当分の間は安い仕事でもやるしかないと感じている。</p> <p>・得意先の下期計画が現在より若干上がる計画になっている。</p> <p>・他社も含めて、仕事量が少なく、新しい仕事を受注するために単価競争して獲得したものが、これから立ち上がる。忙しいが、利益なき繁栄のようである。</p> <p>・良いところと悪いところの格差があり、当社の得意先は企業努力もあると思うが、かなり好調な動きをみせているので期待したい。</p> <p>・景気対策がうまくいっていない。</p> <p>・マスコミがひどすぎるので、もっと良いニュースを報道してほしい。</p> <p>・株安の影響がどこまでなのか。公共工事も大分少なくなりつつあり、心配である。</p> <p>・見積を提出している得意先の様子から、変わらない。</p> <p>・中小規模の建設案件が増えており、それらを施工できる業者が少なく、最近、設備投資案件がエリアを拡大して情報が入ってくるようになってきている。</p> <p>・地元で好景気という話はあまり聞こえてこない。来社する金融機関からも、業績が良いところの話は耳に入っていない。</p> <p>・荷主の話で良いというような話が全くなく、いつどうなるのか分からないという話ばかりなので、どうしたらよいか迷っている。</p> <p>・9月以降も祝日等の増加により稼働日数が減少する。また、特段の改善事項も今のところみえないため、低迷した状況が続く。</p> <p>・天津港の爆発事故の影響がじわりと効いてきている。ただし、日本国内の景気はまだ順調なため、相殺して変わらない。</p> <p>・マイナンバー制度関連の需要もあり、当面はこの水準を維持する。</p> <p>・中国景気の不安定さが非常に大きく、インバウンドや輸出も不安材料が多いため、それほど大きくプラスにはならない。</p> <p>・国内景気は企業業績からもさほど悪くはない。世界的な株価下落の影響も一時的、限定的なものとなるとみている。</p>

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（営業担当）	・株価の乱高下による不安定さから、消費的にも伸びるとい うな方向性ではない。不動産業等が少し止まりかけているこ ともあり、それほど伸びない。
		不動産業（経営者）	・秋になって状況が良くなることを祈るのみである。
		広告代理店（従業員）	・受注予定や販売額等、変わらず推移している。
		社会保険労務士	・良くなる要素が見当たらない。
		税理士	・今年一杯はこのまま横ばいで推移する。夏休みの海外旅行 や国内旅行は順調でお金の動きは良い。ただし、それほどの 好景気もない。
		経営コンサルタント	・商店街の飲食店経営者は、「家族連れ客の多い店で、例 年、夏休みは来客数が増えるシーズンだが、今年は天候不順 で想定外の数字である。この結果が今後尾を引き、苦しくな るのではないか。食材費の値上げや人件費上昇への対応は夏 休み後と考えていたが、困っている」と話している。
		経営コンサルタント	・大企業の利益拡大の影響が多くの中企業、消費者に波及 するのが極めてゆっくりである。理由は不明だが、先行きの 見通し不明瞭、人口減少などが響いているとも考えられる。
	その他サービス業〔廃 棄物処理〕（経営者）	・客の発注間隔の長期化や価格競争に加えて、人材確保の課 題もあり、悪い状態がしばらく続く。	
	その他サービス業〔映 像制作〕（経営者）	・中国経済の低下傾向によって、すべての面で日本も影響を 受ける。	
	やや悪くなる	食料品製造業（営業統 括）	・残暑需要を期待していたが、早々と秋の冷たい風が入っ てきており、販売量の動きの活発化が見込めない。
		電気機械器具製造業 （経営者）	・今まで景気に勢いを感じられなかったが、更に世界同時株 安で景気の先行きに不透明感が出てきている。しばらく部品 や仕入は慎重にならざるを得ない。様子見である。
		輸送業（経営者）	・総体的にみて、景気が上昇に向かっていくというような具 体的な数値はあまり出ていない。
		輸送業（総務担当）	・鉄鋼関係は輸出が順調である。しかし、住宅、鉄鋼共に国 内出荷量は低迷しており、今後も続く見込みである。
		輸送業（総務担当）	・新規案件の受注が厳しいなか、人件費等の上昇など、収益 面の悪化が懸念される。
金融業（役員）		・海外要因、特に、中国の動向が心配である。製造業を中心 に下半期の生産計画を見直す動きが出ている。	
広告代理店（経営者）		・今月やや良くなっているとしたのは懸案案件が実現したか らで、あくまで単発であり、削減された年度予算の盛り返し にはまだ別途、新規案件の開発が必要であるが、そのめどは 立っていない。	
悪くなる	広告代理店（営業担 当）	・中国の経済動向が気になる。クライアントのメーカー、 サービス企業の売上が減ると当社にも大きく影響してくる。	
	経営コンサルタント	・株価下落などで景気動向の先行きが不安になるため、やや 悪くなる。	
	その他サービス業〔ピ ルメンテナンス〕（経 営者）	・10月に最低賃金が増えるので人件費を少し上げた見積を出 しているが、現行単価のまま成約している状況である。原 価率が悪くなるのが気になる。	
	出版・印刷・同関連産 業（所長）	・9月のシルバーウィークを控え、大型連休間際の駆け込み 案件は多少想定されるが、それ以外は目立った受注案件もみ えず、厳しい状況である。	
	電気機械器具製造業 （経営者）	・景気の見通しが全く予測できないような不安定な状況にあ るため、良くなるとは考えられない。	
	精密機械器具製造業 （経営者）	・9月ショックが叫ばれているなかで受注量がマイナスと なっており、中国による世界金融不安も不安要素である。中 小企業の経営には決して大きな改善はない。	
	その他サービス業〔ソ フト開発〕（経営者）	・中国の減速による株価下落のため、悪くなる。	
雇用 関連 (南関東)	良くなる	人材派遣会社（営業担 当）	・募集時の平均時給単価が上昇傾向にある。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・下期に向けて退職者の補充枠等で派遣依頼が増えることが 見込まれる。
		求人情報誌製作会社 （営業担当）	・今年中に正社員を採用して、来年度に向けて大幅に動くこ ういような話を数社から聞いている。
		求人情報誌製作会社 （営業担当）	・求人の動向から、やや良くなる。
		職業安定所（職員）	・正社員求人数が前年同月比で今月も2けたの増加率にな り、就職件数も前年同月比で3か月ぶりに増加となっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		職業安定所（職員）	・新規求職申込件数は平成22年度以降、減少が続いており、4～7月でも前年比マイナス7.8%となっている。また、新規求人数は平成22年度以降、26年度は前年度の大幅な増加による減少があるものの、増加傾向で推移しており、4～7月でも7.4%となっている。
		学校〔大学〕（就職担当）	・9月決算の時期なので、やや良くなる。
		人材派遣会社（社員）	・中国経済をはじめ、外的要因による国内経済への影響を懸念している。国内については依然として求人市場は大手から中小まで活況である。ただし、企業の人材不足感が深刻化しており、今後、国内の景気上昇の足かせとなることを懸念している。
		人材派遣会社（社員）	・景気が良くなる要素が思いつかない。
		人材派遣会社（支店長）	・派遣受注数は堅調に推移する見込みだが、ミスマッチによる成約率が悪化してきているため、見通しは変わらない。
		人材派遣会社（営業担当）	・求人数は増えてはいるが、労働者派遣法の影響がどう出てくるのか未知数である。
		人材派遣会社（支店長）	・求人、求職共に前月並みである。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・雇用はやや増えているが、景気回復に直接つなぐとはあまり思えない。
		職業安定所（職員）	・8月後半の株式市場の動きが不透明なことから、採用活動を活発に行っていた企業が今後どのように反応するか、判断が難しい。株式市場が落ち着けば、人手不足感から現在の雇用情勢は維持されると考えられるが、落ち着かない場合、先行き不透明感から抑制的な行動をとる企業も出てくると予想され、この先景気が良くなるか、悪くなるかの判断がつかない。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・介護関係と一部の業種は人手不足を訴えているが、それ以外の業種はここ数か月状況が変わっていない。
		民間職業紹介機関（経営者）	・年末に向けての採用計画が策定されつつある。引き続き採用意欲は高水準のようである。
		民間職業紹介機関（経営者）	・メーカーのクライアントが多いが、安定した成長の継続力が弱いのではないかと。中高齢者の購買意欲の向上が必要である。
		民間職業紹介機関（職員）	・大手を中心に新卒採用の活動は終了段階であるが、時期のずれにより8月に大きく学生が動いたことで新卒確保がうまくいかない企業が出てきており、中途採用で補完していく動きが出ていることも踏まえると、引き続き採用は活発である。
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・経営者の方々と話をしたが、中国市場が株価を含め、非常に不安定で、この先、見通しが暗いという声が多い。
職業安定所（職員）		・中国の景気減退で、やや悪くなる。	

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (東海)	良くなる	旅行代理店（従業員）	・9月の天型連休の旅行申込が好調である。国内旅行は前年比で3倍、海外旅行も2倍となっている。最大5連休ということもあり、北海道や沖縄といった2～3泊の旅行先に人気が集まっている。海外でも韓国、中国、タイは政情不安により減少しているが、台湾、シンガポール、グアム、ハワイは倍増している。10～11月にも3連休があるため、しばらくは好調が続くと見込まれる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・新規出店の要請がある。
		商店街（代表者）	・販売場所によっては販売量が伸びており、購買意欲等もみられ、景気が良くなっていると感じる。
		商店街（代表者）	・8月が悪すぎたため、それに比べれば先行きは良くなる。これ以上悪くなったら、廃業も考えなくてはならない状況である。
		商店街（代表者）	・涼しくなってくると、客にも動きが出てくる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・伊勢志摩サミットに向けて、景気がだんだん良くなる。
		百貨店（経理担当）	・全体の数字は前年並であるが、不調が続くヤング衣料以外では、復調の兆しがある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売促進担当）	・中国経済の減速は、差し当たりインバウンドの購買行動には影響しないと見込んでいる。
		スーパー（店長）	・売場では、客が価格を気にしないで買物をしている様子が感じられる。
		スーパー（店員）	・果物や野菜の価格が安定しており、天候の作物への影響もなさそうであり、サンマ、梨、栗等、秋の味覚がこれから店頭と並べば、一段と売上増加が期待できる。
		スーパー（総務担当）	・来客数が前年同期比で約1.5%増えている。
		スーパー（販売担当）	・これから寒くなると、鍋物等の冬物商材が売れはじめる。
		乗用車販売店（従業員）	・引き合い等、先につながる話もあり良くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・新車効果もあり、大幅ではないが販売台数も前年並みに回復してきており、ここ2～3か月は、販売台数が増加する。
		住関連専門店（営業担当）	・消費税増税前の受注・引き合いが入り始めている。建築単価が上がり始めており、新築、リフォームや大規模改修等の引き合いが多くなっている。ただし、公共工事は横ばいである。
		スナック（経営者）	・猛暑の時期や夏休みも過ぎ、多少は良くなると期待をしている。
		都市型ホテル（経理担当）	・宿泊客数が増えている。
		旅行代理店（経営者）	・秋に向けての予約が入ってきているので、良くなると思われる。
		タクシー運転手	・気候も良くなり、人出が増えるシーズンに入る。
		通信会社（営業担当）	・設備投資の件数は、今後も増加を見込む。
		テーマパーク（職員）	・9月の大型連休で、客足はやや伸びると思われる。
		美容室（経営者）	・10～11月は行楽シーズンで気候も良く、客足の伸びを見込む。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・介護事業に対する補助金は減額が頭打ちであるが、新規事業の拡充や専門性を深めて地域に貢献することで、事業の必要性が増してゆく。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（経営者）	・お盆も終わり、少しずつ良くなると期待する。プレミアム付商品券は、完売した市町村がほとんどで、商品券がすべて使われれば景気も上向く。
	変わらない	一般小売店〔結納品〕（経営者）	・小売店を取り巻く現状をみていると、今のままの状況が続く。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・景気は低迷しており、しばらくはこの状態が続くと思われる。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・飲食店への来客数がまだ回復していないので、厳しい状況が続く。
		一般小売店〔薬局〕（経営者）	・夏休みから秋にかけて旅行等への支出が多くなる。日々の食品等は仕方ないが、すぐには必要としない買物は後回しとなり、身の回りの景気は上向かない。株式市場が極端に下落すれば、景気が更に落ち込む恐れがある。
		一般小売店〔自然食品〕（経営者）	・何かきっかけがないと販売量が回復することは難しい。客には様子見の傾向があるので、このまま推移する。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・来客数は減少する。しかし、一部の好調な客によって売上が支えられている。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	・少しずつ客足は伸びているが、波がある。残暑が厳しければ、暑い時期向けの商品が売れ続けると期待できるが、天候不順になると、どうなるかわからない。
		一般小売店〔果物〕（店員）	・現状の販売動向から、3か月ほどでは変化はない。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・株価が大きく下落しているが、徐々に回復し、基本的には現状と変わらないと考える。しかし、今は不確定な要因が多すぎる。
		百貨店（売場主任）	・駅前に店があるので、平日でも来客数は多い。クリアランスセールが終わって少し落ち着いているが、下見客はそこそこあり、問い合わせも多い。すぐには売上にはつながらないが、少し長い目でみていく必要がある。
		百貨店（売場主任）	・インバウンドは好調だが、国内消費は変わらない。相変わらず、客の購買意欲は低く、このまま秋以降も変化がないと見込まれる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（企画担当）	・前月後半から今月前半にかけては、気温も高く夏物衣料や雑貨等を中心に活発な動きを見せたが、お盆休みに境に失速している。中国経済の減速に端を発した株価の下落や円高等で、消費者の購買意欲はやや減退気味である。これらの経済的な混乱が収束するまでは、景気が上向きになるとは考えられない。
		百貨店（経理担当）	・景気は緩やかな右肩上がりの改善を続けてきたが、中国経済に減速の兆しがみられ、しばらくは踊り場的な状況になる。
		百貨店（経理担当）	・株価が不安定に推移しているため、先行きが不透明である。
		百貨店（経営企画担当）	・高額品やインバウンド関連は、引き続き好調を維持すると思われるが、百貨店の主力商品である衣料品の動きがまだ精彩を欠いており、一進一退の状況と想定している。
		百貨店（販売担当）	・プレミアム付商品券等のテコ入れ策による、一時的な消費喚起はあるが、中国経済等の外部要因にも対応できる実効性のある地域振興策が求められる。現在の、株価や円相場に依存した企業業績からのトリクルダウンに頼る状況では、家計を預かる主婦の心理的な変化や購買意欲の向上は望めない。
		百貨店（販売担当）	・ギフト需要が高まり、販売量は増加する。ただし、低中価格帯の商品が主力で、単価上昇は厳しい状況が続くと見込まれる。
		百貨店（販売担当）	・夏休み期間は、見ているだけという様子の客が前年よりも多かったように感じる。
		スーパー（経営者）	・猛暑の次は日照不足で青果の価格が安定せず、収益増加が期待できない。
		スーパー（店長）	・商品の値上げはこれからも続くため、現状よりも景気が良くなる要因は見当たらない。
		スーパー（店長）	・この先も商品値上げの話があり、不透明な部分が多い。消費者は、行事や催事には金を使うが、それ以外では支出を非常に引き締めているため、消費が大きく伸びることはない。今後の世の中の動きによっては、大きく変化する。
		スーパー（店員）	・現状から特に変わらない見通しである。
		スーパー（販売促進担当）	・品質の良い物を勧めることで売上増加を目指しているが、買上点数が伸びない。相変わらず客の財布のひもは固い。
		スーパー（商品開発担当）	・来客数は前年並みと見込むが、現状の客単価、1品当たり単価の動きと景気全体の状況を考慮すると、さほど現状とは変わらない。クリスマスや年末商戦等、売上拡大のチャンスは大きくなる。
		コンビニ（エリア担当）	・販売施策やオリジナル商品等による来客数の増加は望めるが、客単価や購入点数の改善ができるか不透明である。
		コンビニ（エリア担当）	・プラス材料が見当たらない。
		コンビニ（エリア担当）	・当面は今月と変わらない状況が続くと思われる。
		コンビニ（店長）	・国内外の要因から考えて、現況以上に良くなることはなく、変わらずに推移する。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・暑さで夏物の動きが良かったと言われているが、その感覚はほとんどなく、秋以降も、それほど天候にも左右されず推移すると思われる。
		衣料品専門店〔紳士服洋品〕（売場担当）	・3月は前年同月の反動が大きかったが、それ以降は、ほぼ前年並みか3ポイント程度上回る状況が続いている。今後も大きな変化はないと思われる。
		家電量販店（店員）	・白物家電は良くなっているが、その分テレビやパソコンが不調となっている。
		乗用車販売店（経営者）	・来月の新型車種の発表まで、足元の状況が続くものと思われる。
		乗用車販売店（経営者）	・ここ数か月の変化のなさを考えると、今後もこのまま推移していくと思われる。
		乗用車販売店（経営者）	・先行きが良くなる要素は見受けられない。
		乗用車販売店（従業員）	・10月にモーターショーが開催されるため、需要喚起や雰囲気盛り上げを期待はするが、それほど大きな効果も見込みにくい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・明るい材料は乏しいが、ここへ来て工場への在庫数が増えてきており、他部門の落ち込みをカバーしている。ただし、それだけでは支えきれないので、厳しい状況のまま続くと思われる。
		乗用車販売店（総務担当）	・先行きも、特に良くなる要因がない。
		乗用車販売店（経理担当）	・月次ベースでは相変わらず前年実績を上回ることがなく、先行きも厳しい。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・夏休みと同じように、9月にも大型連休がある。
		その他専門店〔書籍〕（店員）	・これからは、ハロウィンやクリスマス関連商品が少しずつ動き始め、来年の手帳やカレンダーも並ぶので、売上も多少は増加するが、12月まではあまり大きくは変わらない。
		観光型ホテル（経営者）	・2～3か月先の予約は前年比10%程度のマイナスで推移し、現状と変わらない。前年と比べても、良くも悪くもないという見通しである。特に当地への集客につながる話題もなく、可処分所得の伸び悩みも影響している。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数から、先行きも変わらない。
		都市型ホテル（支配人）	・国内企業からの宴席の予約は、あまり動きが良くない。
		旅行代理店（経営者）	・この先3か月では、良くなる要素も悪くなる要素もないので、変わらないと見込まれる。
		旅行代理店（経営者）	・大手自動車会社では原価低減要請が再開され、今後じわじわと影響が出る。中国経済の先行きや様々な海外要因が地域の輸出産業に波及してくるので、予断を許さない。
		旅行代理店（経営者）	・プレミアム付商品券も既に使い切った感があり、景気を刺激する要因が見つからない。中国経済の動きも、我が国の景気に微妙な影を落とす可能性がある。
		旅行代理店（経営者）	・景気が良い客層と、先行き不安の客層があるので、旅行単価の見通しが難しい。高齢化の進展で、家族に病人を抱える場合も増えてきているので、独身の方がここに行くのでも動きやすく、消費をしやすい傾向にあると感じる。
		タクシー運転手	・長く繁華街で仕事をしているが、人出の少ない状況がずっと続いている。この状況がすぐには変わらないと思えない。
		通信会社（サービス担当）	・Wi-Fi環境の拡大により、家庭でのネット利用もWi-Fiに切替える人が増えているため、光回線の廃止が今後増える。
		通信会社（営業担当）	・年末や年度末を迎える頃には、変化が表れてくると思われる。
		観光名所（案内係）	・富士山への観光客が減少し続けている。
		ゴルフ場（企画担当）	・10～11月はゴルフに最も良いシーズンである。入場者数は多いが、日が短く営業時間が少なくなるため伸びる余地が少なく、あまり変動はないと考える。
		美容室（経営者）	・新聞等の情報をみても明るい話題がないので、当分は今のよう状況が続く。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・しばらくは介護保険制度改正の影響を様子見の状態である。
		設計事務所（経営者）	・案件数には大きな変化はない。ただし、相変わらず小規模な案件が大多数を占めている。
		住宅販売会社（従業員）	・販売量の動きには、大きな変化はみられない。
		その他住宅〔室内装飾業〕（経営者）	・新築物件の受注がほとんどない状況が続いている。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・8月の繁忙期の売れ筋商品が、低単価傾向であったので、先行きには不安が大きい。
		商店街（代表者）	・相変わらず、客は必要な物以外は購入しない。領収書を発行する、会社関係の販売量、売上が伸びない。
		商店街（代表者）	・家電製品の買換えサイクルが長くなっている。省エネ機能等、新製品のメリットを説明はするが、壊れるまで買換えないスタンスの客が多くなっているように感じる。
		一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	・ギフト商戦は、社会全体の景況感が売上に影響する。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・遷宮が終わって以降、目に見えて来客者数が減っているが、今後もしばらくはこの傾向が続くと見込む。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売担当）	・中間層の消費を回復させる劇的な要因に乏しいなかで、中国経済の減速により、現在は好調な富裕層やインバウンド消費の先行きにも不透明感がある。
		スーパー（経営者）	・原油価格の低下はまだ続き、経済はデフレ傾向に引っ張られ、景気は良くない。国内の消費は伸びず、米国を除き中国やアジア、欧州も不況気味で、輸出が伸びない。国内では、安全保障の国会論議が長引き、経済に問題が起きているのに議論がされず、対策が1歩も2歩も遅れており、景気にはマイナスの影響も出る。先行きには期待できず、本当に難しい局面となっている。
		スーパー（支店長）	・中国経済の減速に伴う株価下落や先行きへの不安が影響し、消費が鈍化すると思われる。
		スーパー（販売担当）	・来客数が少なくなる。
		スーパー（営業企画）	・景気の先行きに不透明感が増しており、より消極的な消費傾向が強まると思われる。
		コンビニ（企画担当）	・インバウンドや東京オリンピックに期待するが、中国の景気減速と株価下落の影響が懸念される。
		コンビニ（店長）	・中国の経済情勢によっては、日本の消費にも影響が出そうである。
		コンビニ（店長）	・野菜等の食品価格が上昇しており、節約志向が強まっている。
		コンビニ（商品開発担当）	・中国経済の減速による冷え込みが予想される。
		衣料品専門店（経営者）	・なじみ客が入院したり、引っ越す等、先行きの見通しは暗い。
		家電量販店（店員）	・気温の影響で8月は良かったものの、今後好調が続く要因が見受けられないことから、悪くなる傾向と思われる。
		乗用車販売店（営業担当）	・足元で世界的な株価安が起きているので、先行きの消費にも影響が出てくると思われる。
		乗用車販売店（従業員）	・新車販売は、新型車種の投入にもかかわらず受注総数が前年実績より減少している。客が更に次の新型車種を気にしている様子もつかえるが、実際の登録台数に結び付く割合は低いと思われるので、厳しい状況が続くと考える。
		乗用車販売店（販売担当）	・輸入車両の販売代金が、円安の影響で10万円前後上がる見込みである。
		その他専門店〔貴金属〕（営業担当）	・株価の影響や金相場の変動で、先行きが見通しづらい。
		高級レストラン（役員）	・法人、個人共に、レストランの利用は株式市況の影響を受ける部分が大きいため、足元の株価下落はマイナス要素になると懸念する。
		一般レストラン（経営者）	・政治に対する不安感等もあり、良くなる要因が見つからない。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・株価上昇の時に好景気なのは一部の人でも、下降すると社会全体に影響して雰囲気が悪くなり、不況モードに入る。
		観光型ホテル（販売担当）	・予約状況から宿泊客は引き続き計画通りに見込めるが、一般宴会等が、前年同期比で20%強のダウンで推移しており、悪い方向に向かっている。
		都市型ホテル（経営者）	・予約客が不安定であるため、業績が良くなるとは思えない。
		旅行代理店（従業員）	・世界同時株安で、今まで株で儲けていた人に余裕がなくなる。それが、レジャー等の支出に反映して、旅行業界の景気は悪くなる。
		タクシー運転手	・夏休み等で人の動きが多く忙しかったが、2～3か月後は、今よりは人の動きが少なくなる。
		通信会社（企画担当）	・安保法案、国立競技場の問題や不安定な中国の経済情勢等、暗いニュースが多く社会全体の雰囲気も悪くなってきているように感じる。
		パチンコ店（経営者）	・前年の消費税増税の影響で来客数が減って以来、業界全体で薄利多売の傾向が続いている。
		理美容室（経営者）	・客の話では、だんだん小遣いも減られ、散髪の間隔も長くなっていくとのことである。
		美顔美容室（経営者）	・8～9月にホームケア用品の購入が集中するため、反動で販売状況はやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		設計事務所（職員）	・この業界は、景気の波が一番遅く、また、自社の業況のみが上向くことはない。バブルの時に大きな人数を抱えた事業者は苦労をしており、この10年でも、様々な同業者やゼネコンが廃業している。他社が廃業した分、残ったところは忙しいが、そういった形での幸せは良くない。
		設計事務所（職員）	・国の動きでは、安保法案や国立競技場等の話題はよく耳にするが、景気対策に関する政策については、あまり話を聞かえてこない。
		住宅販売会社（経営者）	・所得が現実的には増えていないため、購入に踏み切れない客が多い。
		住宅販売会社（従業員）	・年度上半期の締めを迎えることで、9月にはいったん落ち着き、それ以降は落ち込んでいくと思われる。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・8月後半以降は管理業務の売上が伸びず、それ以外の公共・民間工事も、引き合いはあるが受注量は減少しており、厳しい状況が続いている。
	悪くなる	乗用車販売店（従業員）	・テロや中学生の痛ましい事件等、世の中に悪いニュースが蔓延するなかで、中国経済も様子が変わってきている。中国経済の減速が強まれば、世界的に影響が広がり景気が悪くなる。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・中国経済への不安が払しょくされず、消費マインドは冷え込む。
		その他レジャー〔スポーツレジャー紙〕（広告担当）	・中国の株価下落による世界同時株安の影響が懸念される。
		理容室（経営者）	・周囲では、景気が良くなるようなムードが感じられない。
		美容室（経営者）	・新聞に当市は過去最低の経済状況であると掲載され、先行きが不安である。
住宅販売会社（従業員）		・取引先の材木問屋や大工等の仕事量が減ってきている。同業者では倒産するところも出ているので、今後は厳しくなってくる。	
企業動向 関連 (東海)	良くなる	-	-
	やや良くなる	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・例年は秋の特需があり、受注、販売共に活発になる。今年も秋からの景気は良くなる。
		化学工業（営業）	・樹脂原料となるナフサの価格低下で、製品原価が下がり、収益性が良くなる。9月は、現時点での受注状況から今月よりも大幅に売上が伸びる見込みである。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・しばらくは設備投資が続く。
		輸送業（エリア担当）	・ネット市場を中心に、荷物は順調に増加している。
		企業広告制作業（経営者）	・東京オリンピックに向けての特需がしばらく続く。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・下半期に向けて案件の動きも活発で、当面は良さそうな状況である。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・原油価格が1バーレル当たり40ドルに下がり、株価は乱降下をしている。また、中国経済減速の影響が各所に表れている。取引先でも、中国から引上げて国内生産にシフトする企業がある。中国経済の変調は間違いなく、円高が進展しなければ、この流れは変わらない。
	変わらない	食料品製造業（営業担当）	・周囲の企業では大幅なコストカットの声が上がっている。個人の収入への影響が大きいのが、企業業績は、それによって持ち直すものと見込まれる。
		食料品製造業（経営企画担当）	・景気が良くなる期待は大きいのが、消費が上向いているという実感は乏しい。一方で、訪日旅行者の存在感はますます大きくなり、インバウンド需要だけは活発に感じる。
出版・印刷・同関連産業（代表）		・景気は上下するが、ならしてみれば変わらない状態と思われる。	
化学工業（総務秘書）		・先行きは見通しづらいが、中国経済等の外的要因で大きな問題が起きなければ、大きな波は起きず穏やかな好況感が持続すると思われる。	
窯業・土石製品製造業（社員）		・新規受注品が増えつつあるが、大口の客先で既存製品を失注したため、3か月先の次回入札後まで生産がストップする。全体としては横ばいである。	
金属製品製造業（経営者）		・引き合い件数も多くはなく、現状と変わらないと考える。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般機械器具製造業（営業担当）	・スマートフォン向け設備の受注に勢いはないが、前年実績を大幅に下回ることもなく、そこそこの受注は確保している。また、他分野での設備投資計画もある。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・受注量、販売量共に安定している。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・中国経済に端を発する株価変動もあり、先行きに不安を感じるものの、足元の売上は堅調なため、当面は今の状況が続くと考えられる。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・予想外の出来事が起きない限り、来月以降も一定の生産・販売量が見込まれている。
		建設業（営業担当）	・建築関係に活気が出ないと仕事が回ってこない。公共部門では、4月の入札以降、工事の発注がみられない。
		輸送業（従業員）	・中国の経済動向や株価下落等の影響で、国内の個人消費は伸びる要素はなく、荷動きは低調なまま推移する。ガソリン等石油製品の価格低下が唯一の救いである。円高が大きく進むと、自動車関連の輸出が減少する等、景気を押し下げる影響もあり先を見通すことは難しい。
		輸送業（エリア担当）	・先行きの荷動きは、為替相場や株価の状況による。
		輸送業（エリア担当）	・燃料の軽油価格が、前年比で1リットル当たり約34銭安くなっており、非常に助かっている。貨物の荷動きは、今一つ緩慢である。
		輸送業（エリア担当）	・8月に入って軽油価格が毎週下落しており、この傾向がまだ続くと思われる。原油相場や株価の下落等もあり、先行きが見通せない状態から円高傾向になってくる。今の流れでは、今後も景気回復の見通しは立たないと考えられる。
		通信会社（法人営業担当）	・中国経済の動き、株価の上下動や円高等、生活者には景気が良いという感覚はなく、実質賃金が明らかに増えたり年金支給額が増えるといった目に見える変化が期待できないと、心理的には一層冷え込む。一方で、海外投資等の利益が増えていることは、原料の輸入・加工による今までの貿易とは違った形で、好影響をもたらすと思われる。
		金融業（従業員）	・生産機能は、海外にシフトしている。大手企業は良いかもしれないが、中小企業への影響は避けられず、利益が確保できない。生産量も増えないなかで、多少忙しくなっても利益には結び付かず、厳しい状況が続いている。
		金融業（法人営業担当）	・株価低迷等、世界経済の先行きへの不安で、取引先企業は設備投資に慎重になっている。
		金融業（企画担当）	・米国の各種指数や日本企業の業績は堅調であるため、足元の株価安や円高は一時的で、景気は変わらないと思われる。
		不動産業（経営者）	・最近の株価の急激な下落で、先行きは不安定な状況である。
		広告代理店（制作担当）	・秋の商戦に向けての企画案があまり具体化せず、しばらくは今のままの状態が続くであろう。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・折り込み広告等の受注に影響するような要因がない。
		行政書士	・物流業界では、給与水準と比較して拘束時間が長いと、運転手が集まらない。
		公認会計士	・電力料金は高いが、電力会社の経営努力は十分と思えない。また、中小企業に対する政府の具体的な支援政策が見えない。景気回復は、短期的に実現できる問題ではない。
		会計事務所（社会保険労務士）	・年金生活が始まる層では、生活レベルを急激に下げることはないが、少しずつ支出を減らす。旅行や趣味に金をかける代わりに、日々の暮らしでは節約をする。
	やや悪くなる	化学工業（人事担当）	・中国経済の減速の影響が大きく、世界的に不安定な状況がしばらく続き、我が国の景気もしばらく低迷すると思われる。
		鉄鋼業（経営者）	・各国の株価下落や中国経済の減速等で、海外から鋼材が流入しており、国内製品の単価も下落傾向が強まっている。国内製品よりも5～10%安い鋼材が流入しているという声もある。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・円高傾向が続けば、売上への影響が懸念される。
		電気機械器具製造業（経営者）	・年末にかけて、例年ならば客先での設備投資が盛んになるが、今年は、業界への規制も含め不透明なところがある。業界での投資が減少するなかで、当社の売上も減少してくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（経営者）	・当社製品が輸出商品に使われるためか、ここにきて客からの発注が激減している。9～10月の内示では、今月より2～3割少ない発注量となっている。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・中国経済の減速が鮮明になると、日本へ波及する恐れがある。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・為替相場が円高方向に動いてきている。中国の景気が下方に向かうと、我が国の景気も悪くなる。
		建設業（経営者）	・同業者間でいつも言われているが、建設業界でも業種によって極端に業況の差があり、一向に改善しない。最近の中国経済の減速傾向も、今後大きな影響があると思われる。
		輸送業（経営者）	・アジア全体での経済減速の懸念から、在庫を減らす話も出ており、荷動きは一層悪化すると思われる。
		不動産業（用地仕入）	・中国経済の動向が懸念される。
		会計事務所（職員）	・世界経済の動向が不透明で、特に中国経済の動きには不安感がある。株価の大幅下落や円高懸念も不安材料となっている。
	悪くなる		
雇用 関連 (東海)	良くなる		
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・改正労働者派遣法が成立すれば、派遣人材の活用が若干拡大すると思われる。
		人材派遣会社（営業担当）	・下期に向けて、求人数の増加を見込んでいる。
		人材派遣会社（支店長）	・求人数は、2013年9月以降、緩やかな右肩上がりの状況が続いている。県内企業の雇用意欲は引き続き高く、求人数も堅調に推移していることから、景気は回復傾向にあると考えられる。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・自動車製造においては、新型車種の販売を控え、海外向けの輸出も上向きに推移すると見込まれる。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・夏休みから9月の大型連休へと続き、人や金が動く時期であると期待を持っている。プレミアム付商品券は、各地で一部の人しか手に入らず問題となっているが、おそらく景気の動きには大きな影響はなく、国は、更に消費をしやすい環境の整備が必要である。
		職業安定所（職員）	・介護・看護、建設、サービス関係で人手不足感があり、雇用情勢は改善傾向が続くものと思われる。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・周辺企業の動向等からは、積極的に販路拡大を目指す動きがみえる。そのため景気の好転が期待できる。
		民間職業紹介機関（支社長）	・求人意欲は相変わらず活発である。
		その他雇用〔広告代理店〕（求人広告担当）	・もうそろそろ良くなれないと、本当に不安になる。
	変わらない	人材派遣会社（経営企画）	・不安定な中国経済情勢を見守る必要がある。
		人材派遣会社（社員）	・再就職者の転職活動期間が短くなる傾向がある。
		人材派遣会社（社員）	・9月の予約状況はあまり良くないが、2～3か月先は繁盛期に入るので期待をする。
		人材派遣会社（営業担当）	・引き合いは持続的に発生しており、先行きも現状維持が見込める。
		職業安定所（所長）	・窓口対応では、当地域の景気は現状が天井で頭打ちとなり、徐々に横ばいになると感じる。求職者からは現在の職場で引きとめられるといった相談が多くなっている。
		職業安定所（職員）	・新規求人は増加し、職種によっては人手不足が生じているが、販売やサービスの仕事に偏っているため、正社員としての登用がなかなか進まず内容の面で課題がある。
		職業安定所（職員）	・中国経済の影響が、国内の生産や消費にも徐々に始まる。
		職業安定所（職員）	・プラス要因は、大手を中心に業績は好調である。多くを占める中小企業では引き続き経営が厳しい状態ではあるものの、業務見直し等の工夫で生産効率を上げている事業所もある。マイナス要因は、企業ではリストラが続いている。収益率を高めるために、伸びきった枝葉を切捨てて幹となる業務に集約している事業所もある。中国経済の減速も、現在は影響がみられないが気になる要因である。求人数は増加傾向にあるものの、伸び率をみると正社員よりもパートでの求人が目立っている。
		職業安定所（職員）	・求人数は前年同期比でやや減少しているが、求職者もそれ以上に減少している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・新規求人の内容からは、特定の職種で賃金が上がっているといった傾向はみられない。どの業種も月によって上昇降下を繰り返しており、求人を申し込む事業所も、適切な賃金がどのくらいか手探りの状況である。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・これからは賞与支給後に転職を希望する人が徐々に動き始める時期である。一部で企業の求める人材ニーズと転職希望者の経験値とのかい離がみられる。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・インターンシップを受入れる企業も参加する学生も、前年同期比で増加しており、就職活動期間の変更後も、企業の採用意欲は変わらないと感じている。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・中国経済の減速による世界同時株安の影響を、先行きも受けると考える。
	悪くなる	-	-

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北陸)	良くなる	百貨店（営業担当）	・8月末に発売のプレミアム付商品券の有効期限が10月末までであり、地元客はほとんど購入すると予想される。購入者がプレミアム付商品券を使う目的で館内に足を運び、消費するのではないかと予想している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・10月をピークに大型の学会や大会の開催による宿泊や宴会がすでに受注済であり、売上が伸びる。
		通信会社（営業担当）	・新商品の発売で通常より販売数が増えると思われる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・当商店街地区で徐々に大型開発があり、来月オープンするため人通りの増加が見込める。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・近隣に大型アウトレットモールなどの大型商業施設ができたにもかかわらず、来客数はそれほど減少せず影響を受けなかったため、今後2～3か月はプレミアム付商品券などの効果もあり良くなると思う。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	・北陸新幹線効果と金沢ブームは継続する。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・夏が終わり学生たちも戻ってきており、その他家族連れの来店客も多くみられ、今後の来客数増に期待したい。
		百貨店（売場主任）	・株価暴落による不安要素はあるものの、8月末に発売されるプレミアム付商品券が消費者の購買意欲を刺激し、消費の裾野拡大につながることを期待する。
		コンビニ（店長）	・現在のやや良くなっている状態が数か月続くのではないかと考えている。当店は山岳観光地に近いので、休日の好天時には観光地を訪れる客にたくさん利用してもらえる。去年の5割増し程度で増えていると感じている。冬までこの状態が続くかは疑問だが、このままの状態が続いてほしいものである。
		乗用車販売店（役員）	・秋に向けて基幹車種のマイナーチェンジがあり、年末には量販車種のモデルチェンジもあるので、年末から年度末にかけてはかなり業績に寄与するものと考えている。
		高級レストラン（スタッフ）	・9～11月は観光目的の団体予約の受注が、例年と比べて140%近くとなっている。先日北陸デスティネーションキャンペーンの発表もあり、受注増が見込まれる。
		観光型旅館（経営者）	・昨年は大きな貸切団体が売上を伸ばすことができたが、今年は大きな団体はない。しかし、北陸新幹線効果で昨年並みの売上確保ができそうである。
		都市型ホテル（役員）	・レストラン部門、宴会部門は前年と同程度と見込まれる。プライダル部門の減少を宿泊部門で補い、ホテル全体ではやや良くなると思込む。
		通信会社（店舗統括）	・新製品の発売もあり、来客数増が見込める。
		通信会社（役員）	・新規の契約の申込が継続して好調に獲得できている。今後、年末の商戦期に向けては好調を維持していくと考える。
		住宅販売会社（従業員）	・昨年と比較して工事件数も金額的にも増えており、着工に遅れが生じてきた。また、客との打ち合わせ件数も増えており、今後の契約予定も増えている。時期的にもイベント、さらには見込み客が増える時期であり契約数、金額共に増えると思う。
住宅販売会社（従業員）	・毎年、年度末にしゅん工し入居したい客がこの時期から増えてくるので期待できる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	商店街（代表者）	・アウトレットモールとの差別化ができてきているようである。大きく下振れすることはないかもしれない。
		商店街（代表者）	・建設業に活気が出てきているようで、その波及効果が購買力に結びつけば良いが、貧富の差が顕著に表れてきており、節約せざるをえない人たちは儉約を強いられ、裕福な人たちも無駄遣いはせず将来に備える傾向が今後も続きそう。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	・活気づくような商材があまりなく、しばらくこの調子が続く気がする。
		百貨店（営業担当）	・9月以降、秋物から冬物にファッションのサイクルが変わる。また、食材についても冬の食材といったように季節が変わる。こうした分野では新しくできた商業施設で消費が行われ、既存店ではこの秋冬の半年間についてもまだまだ厳しい状態が続くのではないかという気がしている。
		スーパー（店長）	・今後は台風などの影響で農産物などの相場が読めない状況であり、出荷減少による高値傾向が起きる可能性もあると考える。
		スーパー（総務担当）	・相変わらず来客数は増加せず、客単価は前年を上回る状況が続いている。
		スーパー（総務担当）	・地域のプレミアム付商品券が販売され一部店舗では売上増につながっているものの、流れとしては変わらないと感じている。
		コンビニ（経営者）	・現在、周辺には同業他社のコンビニ店が飽和状態である。この状態が続く限りは現在と変わらないのではと予測している。
		衣料品専門店（経営者）	・現状は大型店の開業という環境の大きな変化に振り回されている。とりあえず現状は、売上の減少に耐えているということである。
		衣料品専門店（経営者）	・円安と株安が、どんな影響を及ぼすのか分からないが、ガソリン価格の低下、物価上昇の鈍化は消費感情に良い作用をもたらしていると感じている。お金は持っているようであり、どうやって使う気にさせるかである。景気対策だけではないが、政府が景気対策に力を入れているというのを、国民に見せる必要がある。
		家電量販店（店長）	・際立つヒット商品もなく、購入時期を検討するケースが見受けられそうである。
		家電量販店（店長）	・前年に比べ気温が低く、エアコンなどの季節商材が不振である。直近に大型商業施設のオープンが多く、そちらに出費が流れているのか、趣味嗜好性の高いデジタル家電の実績を落としている。
		乗用車販売店（経営者）	・軽自動車税の増額と消費税増税で高い商品購入には慎重な様子で、積極的な購入はまだないようだ。
		乗用車販売店（従業員）	・気温が下がって集客の見込みはあるが、客の購買意欲が感じられない。
		自動車備品販売店（従業員）	・県内のタイヤ需要は前年割れが続き、販売実績も前年を下回っているが、その要因がつかめない。買い控え傾向としか考えられず、上向きとなる兆しが見られない。
		住関連専門店（店員）	・北陸新幹線の開業で観光産業の活性化の動きは見えるが、県内で相次ぐ大型商業施設のオープンにより客が取られている現状は否めない。業界自体低迷は続くが、消費マインドには浪費の感覚の変化が強く表れているように思える。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・景気が良くなると感じる要因が全くない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕	・衣料は秋物入荷に合わせて一部動きが良いが、残暑が続くと動向悪化が心配である。また、プレミアム付商品券の使用期限が迫る地域もあり消費停滞が心配である。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・北陸新幹線開業の良好な効果、相次ぐ競合店開業による客足の分散、株価や為替、足元の経済指標の乱高下などの波及が、いつまで、どの程度、どの業種に影響を及ぼすかの想定が立てられない。かじ取りが非常に難しい。
		一般レストラン（店長）	・9月の大型連休があってもその時に集中するだけで、全体の底上げには期待できない。
	スナック（経営者）	・国際的に不安定な要素が見え隠れする状態で、心理的な影響により、その時はやはりマイナスに左右されるかと思う。	
	観光型旅館（スタッフ）	・北陸新幹線開業後、予約保有は前年に対し大幅に増加しており、その傾向は今後も続くと考えている。	
	旅行代理店（所長）	・北陸新幹線開業による国内旅行需要が増加していたが落ち着きが見え始め、海外旅行は減少傾向にある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・北陸新幹線効果は絶大で、当面は入出が当地に訪れることから、このまま順調に維持されると思う。
		通信会社（営業担当）	・ボーナス商戦を迎えて販売数はやや伸びたものの、低価格、低コストを求める客が多く、景気が上向く傾向がみられない。
		通信会社（役員）	・前年度に高止まりしていた解約数が、今年度に入り高速通信回線サービスの提供により減少傾向にある。この傾向は今後も継続するとみており、契約純増数は引き続き増加していくと考えている。
		テーマパーク（職員）	・今後の国内の団体予約数をみると、前年よりやや動きが鈍い状況にある。今後、首都圏からの客や海外からの客に増加傾向がみられても、全体としては前年並みの水準で推移するものと予測される。
		住宅販売会社（従業員）	・受注面では消費税増税後の大幅な反動による落ち込み分を順調に埋め、回復基調にある。今後、消費税の10%への増税が迫っているという要因の影響は今のところない。ただし、円安などの要因が収支面に及ぼす影響がどのくらいか読めない。
		住宅販売会社（従業員）	・リフォームの受注は堅調で事業計画以上の数値を計上できているが、新築及び分譲の受注や土地の動きが少ない。個人消費者の購買意欲の強さが感じられない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・年内程度は県内にオープンした大型ショッピングセンターの影響を受けるものと思う。また当商店街では、現在再開発工事が1件進行中であり、年内中にはもう1件工事が開始される予定である。この再開発工事の影響を当分の間受けるものと思われる。
		スーパー（統括）	・現状の流れからみると、来客数も買上点数も伸びる要素が見受けられない。また、今後の値上げや野菜の不作で単価が高くなり、買い控えが出てくると思う。
		コンビニ（経営者）	・コーヒーやドーナツなど、新しいカテゴリーの商材には好調に推移しているものもあるが、それだけを買う人が増えており客単価の減少は続いている。また、従業員の雇用状況も悪化しており、コスト増が続いている。そうした状態で、状況は悪化していくと思われる。
		コンビニ（店舗管理）	・プレミアム付商品券の使用期限も過ぎ、現在のような特需景気も収まってしまうことを予想する。
一般レストラン（統括）		・売場の人手不足と原料のコスト高という課題に対し、売価改定するきっかけ、タイミングがない。結果として利益を圧迫する状況がさらに進むと思われる。	
タクシー運転手		・北陸新幹線が開業して初めての夏休みだったことから県外からたくさんのお客が来たが、夏休みが終わってからはどうなるか分からない。	
その他レジャー施設（職員）		・子供の集客シーズンが終わり、次は大人の集客になるが、景気の減速感が強く9月の大型連休があっても、消費につながらないような気がしている。	
美容室（経営者）		・株価が大幅にダウンしているとの報道で消費意欲が減退しそうである。	
	悪くなる	-	-
企業 動向 関連 (北陸)	良くなる	建設業（経営者）	・7～8月に受注した地方自治体の工事や、3月に受注した国の工事が施工の真っ最中となり、人手不足状況になる。また、完成工事の増加にしたがって、利益も増えるであろう。
	やや良くなる	繊維工業（経営者）	・株価や為替の変化もあり先行き不安ではあるが、消費の回復が期待され、それに伴う受注増が期待される。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・国内市場は省エネ補助金は終了したが、円安が継続するために国内生産が戻っている。これにより国内市場は期待できる。
		通信業（営業担当）	・前月に引き続きセキュリティ関連の商品が好調である。マイナンバーが要因と思われる。
		司法書士	・3か月先ではまだ効果は出ていないかもしれないが、空家対策、特定空家対策について、所有者、解体業者、コインパーキング事業者などからの相談があり、将来的に効果が期待される。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・秋冬商材のマーケット次第だろうと思う。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の注文の入り具合を見て、そのように思った。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・現在のところ変わりなく引き合い注文が続いている。ただし、足元の中国経済の動向で世界景気が気掛かりである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		精密機械器具製造業（経営者）	・残念ながら、現状ではまだ一般小売店において拡販につながるようなプラス要素は見当たらないため、当面は一進一退で現状の状況が続くと思われる。
		輸送業（配車担当）	・急激に個人消費が上向くとは思えず、しばらくはこの現状が続くと思われる。
		金融業（融資担当）	・足元の景況感は悪くないものの、中国動向、特に天津港の事故の影響がどういったところに出てくるかが不明である。
		金融業（融資担当）	・株式市場は何とか落ち着いていくと思うが、消費者の購買意欲は弱い。景気の浮揚策が必要である。
		不動産業（経営者）	・現在、業者の情報以外に、個人客や法人客の問い合わせや来社があるということである。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・7月は県内で大型商業施設のオープンが相次ぎ売上は前年を超えたが、8月は前年割れが確実な状況である。業種問わず、チラシの出稿が良くない。
	やや悪くなる	食料品製造業（役員）	・為替の影響にて高騰している輸入原材料だが、供給元の人件費、経費の上昇から、その対応策として実質値上げの依頼が入ってきている。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・中国経済の先行き不透明感からくる世界経済停滞の影響が懸念される。
		建設業（総務担当）	・大都市を除き、地方では受注確保のための低価格受注が目立ち始め、受注環境は徐々に厳しさが増すと見込まれる。
		税理士（所長）	・全体的に先行きの見通しが暗いというのが、社長方の共通した意見である。中小零細の製造業のエンドユーザーに中国が多かったことがあり、やはり中国不安がある。個人消費も伸び悩んでいる感じがする。この夏のボーナスの時期が過ぎたが、可処分所得ベースでみた場合の給料収入は全体的に上がっている感じがしない。いろいろな面で不安があり、先行きはちょっと厳しいのではないかと思う。
悪くなる	-	-	
雇用 関連 (北陸)	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・3か月先までの、単発、短期からの求人引き合い案件の依頼が増えている。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率が1倍を大きく超える状態が、ずっと続いている。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	・期間限定の派遣システムは求職者に好まれない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・正社員雇用の大きな動きがない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人関係のプラス要素はあるものの、広告出稿自体は伸び悩んでおり、身の回りに関して言えば停滞しているといえる。
		職業安定所（職員）	・新規求人、新規求職者の動向からみても、大きく変化するといった様子はない。
		職業安定所（職員）	・景気回復により受注増で人手不足感を感じている事業所がある中で、先行きを不安視している事業所もある。
		民間職業紹介機関（経営者）	・人材紹介のミスマッチと人手不足が急に改善される状況にあるとは思えない。
	学校〔大学〕（就職担当）	・大手の採用状況が落ち着いたところで、今後、中小の追加募集や秋採用の状況を見て判断したい。	
やや悪くなる	-	-	
悪くなる	-	-	

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・予約の注文がある程度入っている。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・今はプレミアム付商品券の効果があるため、見通しは明るい。
		スーパー（広報担当）	・気温の上昇で季節商材が一気に動き出したように、きっかけがあれば消費意欲が喚起される環境になりつつある。
		コンビニ（経営者）	・プレミアム系の新商品が続々と発売予定であり、まだまだ客単価が上昇していくことが期待される。
衣料品専門店（営業・販売担当）	・例年よりも早い時期から、スーツやコートなどの秋冬物のオーダーが入っている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（経営者）	・プレミアム付商品券によるポイントでの買物客の増加に期待している。
		住関連専門店（店員）	・気温が下がるにつれて来客が増える。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・夏休みや暑い時期も終わることで、購買意欲が落ちてくる。安くて品質の高い商品を開発し、客に喜んでもらえるサービスの向上に努めたい。
		一般レストラン（経営者）	・シルバーウィークや歓送迎会などの人が集まる機会を利用して、集客イベントを企画して集客を増やす。大きな増加は見込めないものの、これまでのリサーチの結果を生かす。
		その他飲食〔コーヒーショップ〕（店長）	・天候要因による売上の増加もあるが、夏の賞与が増えているほか、インバウンド需要もまだ増えるとの予測から、景気の回復につながる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会部門は、製薬企業の講演会や懇親会を中心に、先の予約が順調に獲得できている。客室部門についても、高単価プランの販売で宿泊単価、収入が増えている。食堂部門は苦戦しているが、季節プランを販売し、増収を図っている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・世界的な株安や、中国経済の停滞などの報道が目立つが、今のところはインバウンドの予約状況に影響はない。その反対に、紅葉シーズンに向けて更に増加するとみている。一方、宴会の先行予約は、前年を何とか上回っている状況である。
		都市型ホテル（客室担当）	・客室については、2～3か月先の予約が順調に入っており、単価も高水準で推移している。中国を含む株価の動向は気になるが、今のところ影響は出ていない。
		通信会社（経営者）	・円高の進行などによる、原油価格や原材料費の値下がり効果に期待している。
		観光名所（企画担当）	・前年と比べて、来場者数が10%程度の増加となっている。今年は周年行事の記念イベントを多数実施しており、それが客の増加につながっている。年度後半も記念イベントを続けることで、集客の増加を図り、悪くても現状を維持していく。
		その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・景気については楽観的に考えていたが、大企業と中小企業との給与格差が年々広がっており、今後もこの傾向は続くようである。都市部では実感しにくいことであり、今後は注意していきたいと考えている。
		住宅販売会社（総務担当）	・消費税増税を控え、活発な動きとまではいかないが、徐々に上向いている。
		変わらない	
一般小売店〔衣服〕（経営者）	・関東方面では気温の低下がみられるが、関西ではまだまだ暑く、秋物への移行が例年以上に遅くなることを心配している。		
一般小売店〔花〕（経営者）	・景気が良くなる期待がなく、生活必需品以外の需要が見込めないため、全体的な回復の見通しが立たない。		
一般小売店〔衣服〕（経営者）	・景気の地域差が出ているように感じる。当店が入っている商店街も、客足が以前に比べてかなり減ってきた。消費者の購入場所が商店街から別の場所に移っていることもあるが、来店した客をみても、金回りが良いとは感じられない。様々な意味で地域格差が広がっているように感じる。		
一般小売店〔野菜〕（店長）	・大きな店舗でも、相変わらず安売りの時にしか客が入っていない。これではまだまだ回復にはほど遠い。		
百貨店（売場主任）	・現在の状況を考えると、良くも悪くもならず、現状推移がマイナス2%ぐらいで推移する。		
百貨店（売場主任）	・国内需要の活性化が必要であり、復興関連を含めた国内投資の強化が求められる。また、高齢化対策や輸出の拡大、海外に対する長期的な戦略の明確化なども必要である。		
百貨店（売場主任）	・ニュースでは景気の良い話が報じられても、客や取引先との会話では、景気の良い話が全く出てこず、景気が上向くという実感が無い。		
百貨店（営業担当）	・中国経済の減速や株価の低迷など、今後も不透明な状況であり、今までのようなインバウンドによる高額品の購入はあまり期待できない。一方、国内の富裕者層による高級ブランド品などの購入は、資産価値が見込まれる高額品にシフトしており、この傾向はまだしばらく続く。		
百貨店（営業担当）	・高額品の動きがあまりなく、大きなヒット商材もない。それに伴い、今後も大きなマイナスはないが、プラスも見込めない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（服飾品担当）	・乗客数の増勢は変わらないものの、インバウンドの増加が一巡する年末から年明けにかけては、徐々に落ち着くと思われる。更なる集客を狙える対策を実施していく予定である。
		百貨店（売場マネージャー）	・消費税増税から1年が経過してからは、前年の実績を上回る状況が続いているが、中国経済の悪化や株安によって、高級商材の売行きに影響が出る可能性があるため、先行きを懸念している。
		百貨店（売場マネージャー）	・インバウンドの増加が一巡しつつあり、今後も大きく外国人売上が伸びる見通しは立てにくい。中国の情勢が株価を大きく左右する可能性があるほか、消費者による買い控えが続くと思われるため、特にボリューム層の動きは厳しい状態が続くと予想している。一方、プレミアム付商品券による購入は1週間で約5千万円となったが、どれだけのプラス効果が出たのか、現状では読みにくい状況である。
		百貨店（マネージャー）	・爆発的に売れたプレミアム付商品券の利用については、食品ギフトの解体セールといった、消耗品や実需商品を手堅く買う姿勢がみられる。今後、国内ではシルバーウィークでの動きに期待しているほか、減速気味の中国景気の動向も、今後を占う意味で注目する必要がある。
		百貨店（販促担当）	・8月は好調に推移しているが、株価の乱高下による影響が気掛かりである。下落が続くようであれば、高額品の売上のほか、中国を中心としたインバウンド売上の減少が懸念される。足元の衣料品の動きに強さが戻らないなか、経済情勢に左右されそうな見通しである。
		百貨店（サービス担当）	・来月からは、従来の取引先とは異なる様々な業態を取り込んでいくほか、店舗以外の催事の強化により、前年実績の確保を図る予定である。
		百貨店（商品担当）	・内需が安定しない中で、中国経済が不安定な状況となり、年後半は一層見通しが立たない。国会での安保関連法案の審議で支持率が低下し、政権が不安定となるのも不安材料である。
		スーパー（経営者）	・今月は非常に暑い日が続く、客も疲れている。9月以降は涼しくなって食欲も増してくると期待している。
		スーパー（店長）	・市内でのみ使用できるプレミアム付商品券のほか、県内すべてで使用できるプレミアム付商品券も発行される。
		スーパー（店長）	・プレミアム付商品券の使用が落ち着いてくると、消費も落ち着くのか、それともこのまま単価アップが続くのかは、予想が難しい。
		スーパー（店長）	・株価の大きな変動などもあって、景況感が良くなる要素は少ない。また、マイナンバー制度や来年の社会保険制度の変更に伴う不安感もあり、生活の安定感を求める動きが強まる。ファッションなどに大きなトレンドもなく、景気を上向かせる力があるのは、関西ではプロ野球の人気球団くらいである。
		スーパー（企画担当）	・外部環境は大きく変わらないと判断している。
		スーパー（経理担当）	・猛暑から一転して気温の低下が進んでいるほか、天候不順が続いており、台風の発生、接近数も多い。所得などの動向も消費に影響を与えるが、今年に限っては天候に左右される部分が大きい。
		スーパー（社員）	・今夏は天候が良く、気温も高めとなるなど、気象条件に恵まれたほか、チャイイベントの反応も良かった。客の購買意欲は、しばらく好調に推移すると予想している。
		コンビニ（経営者）	・近隣のマンション居住者による利用が多く、サラダや総菜の売上が前年比で40%増となるなど、生活に密着した購入がみられる。
		コンビニ（店員）	・来客数が増えない限り、現状維持が精一杯である。
		コンビニ（店員）	・近隣に新たなコンビニができる予定である。
		衣料品専門店（販売担当）	・いつもどおりの買物がみられるので、今後も変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・新車の販売台数、車検の予約数などは例年どおりであり、あまり変化がない。
		乗用車販売店（経営者）	・中国の景気減速による世界経済への影響、特に株式市場の動揺はまだまだ収束しそうにない。今年の10月くらいまでは、景気は良くならない。
		乗用車販売店（販売担当）	・在庫車の販売量にもよるが、特に販売台数が増加するとは考えていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		任関連専門店（店長）	・購買意欲が高く、成約の確実性の高い顧客による、安定的な利用がみられる。ただし、その数はまだまだ少なく、現状維持が精一杯である。顧客には個人客や中小企業が多いため、大企業だけでなく中小企業の業況や賃金が改善し、経済的な余裕を感じる消費者の割合が増えなければ、状況は良くならない。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・9月のシルバーウィークなどで、外食関連は一時的に良くなる可能性はあるが、大きな変化はない。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・プレミアム付商品券の用途として、宝飾品の購入を検討する人は少ない。また、商品の単価によっては、現金よりもローンなどの分割で購入するケースが比較的増えている。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・次のカタログが発刊されるまで、注文などの電話の件数は変わらない。
		高級レストラン（スタッフ）	・一度は落ち込むかもしれないが、秋にはまた戻る。
		一般レストラン（経営者）	・プレミアム付商品券が追加販売されたため、効果に期待したい。
		一般レストラン（経理担当）	・今のところは悪くなる要因が見当たらない。中国の景気不安による影響も、現時点ではみられない。
		一般レストラン（企画）	・お盆以降は、すべての数値が一転して悪化しており、まだまだ堅調とはいえない。全体としては、シルバーウィークの利用動向をみてからの判断であり、特にシルバーウィーク後の動きがポイントになる。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・プレミアム付商品券の効果で、少しは消費の拡大がみられるものの、あまり変わらない。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・大きな材料は見当たらないが、悪い要素もない。自販機の入替わりは多いものの、新規顧客の動きも順調である。
		観光型ホテル（経営者）	・依然として客単価は下がっており、上がる要素が見当たらない。
		観光型ホテル（経営者）	・7月の段階で少しは景気が良くなると思っていたが、その兆候が消えている。
		観光型ホテル（経営者）	・中国経済の減速や株安への懸念もあるが、今のところマイナスの影響はみられない。一方、9～10月からは国の緊急経済対策で、温泉地のお土産券などが地元自治体で販売されるため、景気が悪化することはない。
		観光型旅館（経営者）	・冬の予約についての動きが良い。
		観光型旅館（経営者）	・消費税率が8%となって税込価格の割高感が高まったため、購買意欲が低下し、景気にも影響している。
		観光型旅館（団体役員）	・年内は今の状況が続くと予想している。
		都市型ホテル（管理担当）	・外的要因の推移には予断が許されず、先行き不透明な状況である。
		旅行代理店（店長）	・状況が変わるような要素が見当たらない。
		旅行代理店（広報担当）	・海外情勢が大きく変わらず、株安も続くため、景気の下降傾向が続く。
		旅行代理店（営業担当）	・海外旅行については、中国の経済不安を含む、海外情勢の不安要素がネックとなる。
		タクシー運転手	・一般客、企業関係共に、予約状況は順調に推移している。
		タクシー運転手	・ホテルの利用が増えているため、このままの状態推移する。
		通信会社（店長）	・客や取引先の様子をみる限り、特に悪くなる材料も、良くなる材料も見当たらない。
		通信会社（企画担当）	・景気回復は続いているが、中国経済の失速による景気の悪化が懸念される。
		テーマパーク（職員）	・来場者の数に対して、個人消費が微妙に落ち込んでいることが少し気になる。アベノミクスによって企業の業績は上がっていても、その成果が賃金の上昇によって社会に還元されているとは思えない。客の財布のひもは、再び固く閉ざされつつあるという印象を持っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光名所（経理担当）	・月前半は猛暑や台風で厳しかったが、乗客数、売上は前年を上回った。その後、お盆過ぎの月後半は、前年を下回る動きとなっている。一方、飲食や体験教室は前年を上回る動きとなったものの、物販の売上が良くなかった。若年客の増加が目立っているため、取扱商品の見直しが必要になってきている。中国からの来客は引き続き増えているが、販売にはほとんどつながっていない。8月全体としては、来客数、売上共に前年を少し下回る結果となっている。
		遊園地（経営者）	・所得が増加傾向にあり、消費が活発に感じられる。ただし、最低賃金の引上げによるコストの増加や、株価の急落が景気の失速につながる不安もあり、全体としては現状維持となる。
		パチンコ店（店員）	・周りからは、特に景気の良い話が聞かれない。
		競艇場（職員）	・業界として若干の伸びは見込まれるものの、新規事業などが無いため、大きな変化は期待できない。
		美容室（経営者）	・来客数、客単価共に変化がない。商店街の動きも変わらず、不思議なほど静かである。
		美容室（店員）	・秋に向かってロングスタイルのオーダーが増えると、単価は上がるが、来店周期が延びるため、売上自体は変わらない。
		その他サービス[マッサージ]（スタッフ）	・アロマオイルを使ってのマッサージで服を脱ぐため、寒くなると来客数が減少する。
		その他サービス[ビデオ・CDレンタル]（エリア担当）	・コミックでレンタル全体の売上を支え、CD販売の落ち込みを書籍や新アイテムで支える傾向は、今後も大きく変わらない。
		住宅販売会社（経営者）	・秋の転居シーズンに向けた回復を期待しているが、特に材料はないため、安易に見通しは立てられない。
		その他住宅投資の動向を把握できる者[不動産仲介]（経営者）	・しばらくは今の状況が続く。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・近隣の大型スーパーによる利益度外視の戦略により、来客頻度が落ち、売上も悪くなる。
		一般小売店[珈琲]（経営者）	・消費税増税による価格転嫁以降、買物の減っている客が目立つ。
		一般小売店[時計]（経営者）	・毎月の状況が安定せず、浮き沈みが激しいため、景気が良いとは思えない。プレミアム付商品券も個人店舗にはほとんど良い影響はなく、一部に偏っていると感じる。
		一般小売店[精肉]（管理担当）	・9月に控えているシルバーウィークも、お盆の様子をみると期待薄である。自治体の発行するプレミアム付商品券によって、動きが出てくることを期待している。いずれにしても消費の構造が大きく変わってきている。
		一般小売店[花]（店長）	・生産量が安定する秋までは、商品は品薄となる。それに伴って価格が高騰し、買い控えが増えると考えられるため、当分は悪くなる。
		百貨店（売場主任）	・免税対象商品の拡大から1年が経過するほか、世界同時株安が進行しているなど、懸念材料が多い。
		百貨店（売場主任）	・国内の需要に期待できる要素が見当たらない。これまで株価の上昇や賞与の増加に期待してきたが、結果は良いとはいえない。今月は株価が不安定になってきたほか、中国経済の先行き不透明感により、これまで消費をけん引してきたインバウンド需要も不安定になっているため、今以上に良くなると思えない。
		百貨店（企画担当）	・現在は好調のインバウンドであるが、中国の株価暴落による影響が懸念される。
		百貨店（企画担当）	・中国の経済不安や株価下落による影響は、外国人客や外商顧客向けの売上に現時点では出ていないものの、今後の動向次第では大きくなる可能性もある。また、店舗の大きな改装を控えており、売場の閉鎖による売上の減少が見込まれる。
		百貨店（外商担当）	・中国の株価下落により、景気の先行きが不透明になっている。特に、富裕層にとっては、株価の下落が消費の減少に直結する。
		百貨店（営業企画）	・景気回復の基調が弱いなかで、ギリシャや中国の動向が日本の実体経済にも影響を及ぼし、消費マインドを低下させる恐れがある。
		百貨店（マネージャー）	・中国から始まった世界同時株安により、富裕層のマインドが低下するほか、円高局面が進む。今後の日本経済の見通しについては不透明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（マネージャー）	・直近の売上の推移にもみられるが、中間層、特にシニア向け商材の売上が苦戦している。消費税増税の影響や年金制度の変更などで節約志向の高まりが感じられ、今後も引き続き苦戦することが予想される。
		スーパー（経営者）	・高品質で価格も高い商品を導入しているが、なかなか販売には結びつかない。やはり同業のディスカウントストアへの客の流出が多い。
		スーパー（店長）	・中国発の世界同時株安が、消費にも悪影響を及ぼす。
		スーパー（店長）	・中国問題で為替や株価が不安定な状況になってきており、しばらくは顧客心理に少なからずブレーキがかかる可能性が高い。
		スーパー（店長）	・9月末に近隣で競合店が新規オープンする影響は避けられない。競合店のオープン前に販促を強化するなど、対策を行う。産地直送、自社製品といった強みによる価値訴求を徹底し、顧客を逃がさないような取組を進める。
		スーパー（開発担当）	・中国経済の悪化や株価の暴落で、ますます経済は冷え込む。国内の消費も現状は動いていない。
		スーパー（管理担当）	・今のところは利益が出ているが、経費の圧縮による効果が大きい。この先、年末に向けての大幅な販売増は見込めない。
		コンビニ（店長）	・お盆の帰省や夏休みでお金を使った分、冬のボーナスまでの数が月は、財布のひもが固くなる。
		コンビニ（広告担当）	・原材料の高騰による値上げの影響が出てくる。消費者の財布のひもは、日常生活に関する部分ではまだ固い。
		乗用車販売店（経営者）	・中国経済の悪化による影響を、輸出産業がどれくらい受けるかで変わってくるが、世界同時株安の影響については不透明である。
		乗用車販売店（経営者）	・夏休み明けで、客の動きも一息ついているが、商品の動きにはどことなく失速感がある。動きがある場合は、事前に気配があるものだが、今はそれが無い。
		乗用車販売店（営業担当）	・収益の改善や、来客数、販売台数の増加に向けた努力は続けていくものの、個々のユーザーが抱える将来不安が高まっているなか、生活必需品という言葉の意味が変化しつつあるように感じる。そのような状態で、本来の景気回復は望めない。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・これからも株価は乱高下が予想され、非常に不安定な状況となる。さらに、消費税の再増税に対する判断などによって、景気も大きく変化する。
		高級レストラン（企画）	・中国からのインバウンド需要が減少してくる。
		都市型ホテル（支配人）	・世界的な株安傾向が進むなか、中国の株安が発端となって円高が進めば、インバウンド効果も長らくは続かない。
		都市型ホテル（総務担当）	・中国の通貨切り下げや世界的な株価の下落、円高の進行により、海外客の減少が懸念される。
		旅行代理店（経営者）	・国内旅行は、ホテルや飛行機の確保でインバウンドとの競合が目立つ。また、海外旅行は欧州方面の不振のほか、大幅な株安で富裕層の動きに悪影響が出る。
		タクシー運転手	・一般客の消費量が減っている。
		通信会社（社員）	・テレビサービスは、9月から他社が始めるビデオオンデマンドのサービスの影響で、増加傾向となるのは困難な状況である。
		ゴルフ場（支配人）	・客の動きが読めない。
		競輪場（職員）	・例年の傾向から、やや悪くなっていく。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・9月は人気グループによるコンサートがあるため、集客が期待できる。ただし、プロ野球シーズンが終了となる10月以降は、企業イベントが主となるため、集客は減少する。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・中国の経済状況の不透明さが、徐々に国内景気にも影響を与えそうである。関西圏には明るい材料があまりみられない。
		住宅販売会社（経営者）	・今の調子では、年内の成約数は少し落ちる。
		住宅販売会社（従業員）	・中国経済の悪化による影響が出てくる。
		住宅販売会社（従業員）	・これまで都心部のタワーマンション市場は、富裕層によってけん引されてきた。今後の供給予定数を考えると、供給過多に陥ることから、調整局面を迎える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		その他住宅[展示場] (従業員)	・注文住宅市場は厳しい状況が続いており、好転する兆しがない。消費税増税を1年半後に控え、中だるみ感が否めない。	
		その他住宅[情報誌] (編集者)	・世界的に金融が不安定化することによる、不動産市況への影響は大きい。特に、価格が高騰局面にあり、実需以外の購入をねらった販売が増えていたため、その反動が懸念される。	
	悪くなる	一般小売店[貴金属製品] (従業員)	・中国の景気悪化の影響が出てくる。	
		一般小売店[花](店員)	・客の様子や、販売量の動きが良くない。客の購買意欲が高まる要素はなく、今後も花離れが続くため、景気は悪くなる。	
		スーパー(店長)	・中国経済の低迷による株価の下落で、不況感が出てくる。食材の値上げによる節約志向や、買い控えの動きも強まっている。	
		衣料品専門店(経営者)	・プレミアム付商品券の利用による反動が出てくる。今後はより一層、財布のひもが固くなる。	
		衣料品専門店(経営者)	・昨年よりも洋服の価格が上がっており、秋冬物の仕入れが難しいことから、現状よりも悪くなる。	
家電量販店(企画担当)	・中国や日本で工場の爆発事故が起きたり、台風が次々と上陸して大きな被害が発生することで、消費者の不安が広がることが懸念される。			
企業 動向 関連 (近畿)	良くなる	木材木製品製造業(経営者)	・新規製品の品質改善で受注量が伸びる予想であり、売上、利益共に上向き見込みである。	
	やや良くなる	食料品製造業(従業員)	・海外向けの商談が少しずつ進んでおり、期待できる状況になっている。国内でも新規商談の増加が目立ってきている。	
		出版・印刷・同関連産業(営業担当)	・周囲の客からは、発注を控える様子はみられず、受注案件も増えつつある。	
		化学工業(企画担当)	・年末の食品の需要増で状況は改善されるが、これは例年どおりの傾向であり、景気の回復によるものではない。	
		一般機械器具製造業(経営者)	・全体的に引き合いが増えている。	
		電気機械器具製造業(経営者)	・4～6月の当社の業績が悪過ぎたため、その反動で良くなる。国内景気も悪化しているが、当社の業績は国内景気とは連動していないことから、偶然の一致である。	
		電気機械器具製造業(企画担当)	・秋口に向けても、店舗のリニューアル案件やマンション案件の受注増が見込める。	
		電気機械器具製造業(営業担当)	・受注が伸びている。	
		輸送用機械器具製造業(経理担当)	・航空機や自動車産業からの引き合いが増加傾向にある。	
		建設業(経営者)	・今の状況が続けば、景気はやや良くなると予想される。新規参入で市場の活性化や拡大につながれば、更に良くなる。	
		建設業(経営者)	・今春は少なかったが、秋に着工して来春に完成する物件が、ある程度は受注できそうである。	
		建設業(営業担当)	・設備投資や建設計画の情報は引き続き多いが、許容量が限界にきており、案件を選別せざるを得ない状況が続いている。	
		輸送業(営業担当)	・季節が良い時期になるので来客数が戻るほか、配車システムも改良されることで落ち着いてくる。	
		広告代理店(営業担当)	・各企業共に、広告に費用を使うことに対して積極的になってきている。	
		広告代理店(営業担当)	・10月以降は広告市場が徐々に回復する。	
		その他サービス業[店舗開発](従業員)	・人気テーマパークの来場が増えている効果で、引き続き主要駅にはぎわうと思われる。また、一時の中国人客による爆買いはやや下火になったものの、依然としてその効果には期待できる。	
		その他非製造業[商社](営業担当)	・中国経済が安定に向かうと思われる。それに伴い、年末商戦に向けて少しは良くなる。	
		変わらない	繊維工業(団体職員)	・今後は年末需要に向けて産地の最需要期となるが、まだ動きは低調である。
			繊維工業(総務担当)	・利益率の上昇を目指して日々努力しているが、販売先の考えは、下請企業の利益よりも自分たちの利益が最優先となっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		繊維工業（総務担当）	・和装が非日常になりつつあるため、きもの日が制定されることで、今後は販売が伸びる可能性もある。催事などで和装の付加価値を高めていかなければ、ますます厳しい状況になる。
		家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・毎日忙しい状況が続いており、ほとんど変化がない。
		化学工業（経営者）	・中国経済の先行き不安による世界的な株安や円高の影響が、今後出てくる可能性はある。ただし、それを除けば順調であり、問い合わせの動きも続いている。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・必要な物を必要な時に、必要な量だけ購入するという、本質的な構造は変わらないため、急激に変化することはない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・ガラス瓶を作っているが、テレビや新聞では景気が上向きと報じられているものの、その波及はなく、低調なまま推移している。一部に爆買の影響も出ているが、割合にするとほとんど変化はない。
		金属製品製造業（経営者）	・秋需要の盛り上がりで良くなると期待していたが、昨今の株の世界的暴落で期待が薄れている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・世界情勢が激変しており、中国の不況や米国の利上げ、原油相場の急低下などの不安要素も多い。株価も不安定な状態であり、企業としては対策が立てにくい。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・単価アップにつなげる4Kテレビの販売量は増えていくが、薄型テレビ全体の販売台数は大きな増加が見込めず、白物家電の市場も大きな変化は期待できない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・台風や水害があると、修理のための仕事が入ってくる。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・国内製の商品を見直す動きが進んでいる。ただし、円安の影響で原材料費が値上がりし、海外での材料の加工賃も高騰しているが、その上昇分を製品価格に転嫁することが難しい。
		建設業（経営者）	・今後も東京への一極集中や東北の本格復旧により、技能労働者や現場監督技術員が引き寄せられるため、人手不足の問題がますます厳しくなる。
		輸送業（営業担当）	・人件費が上がる一方、原油価格は下がっている。人件費が低い海運部門では、海外輸出で利益が増えると思っただ、円高の進行によって利益はあまり変わっていない。
		輸送業（営業所長）	・スポット的な案件が多く、継続が見込まれる案件は少ない。
		金融業（営業担当）	・中国の株価動向に大きく左右され、景気が鈍化するかもしれない。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	・中国の景気後退に伴う世界同時株安で、一時的に危機感が高まっているが、日本の大企業の業績は好調が続くと予想される。景気に大きな影響が出るような材料は見当たらない。
		不動産業（営業担当）	・神戸から事業所の撤退が続いている。それによって社宅のほか、事務所やマンションのニーズも減っている。この傾向は今後も続く。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・購読数が減少傾向にあるなか、折込件数も減少しつつあり、回復の兆しが無い。
		司法書士	・今月も事件数や案件が少ないため、良い方向に進むとは考えにくい。
		経営コンサルタント	・特に良い材料がなく、中国の通貨切り下げなどの不安要素が多い。
		コピーサービス業（店長）	・好転する材料が見当たらない状況が続いている、今後も微減のまま推移する。
その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・状況が変わっていく要素がない。		
その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・季節商品の販売時期が終わったため、通常の商品を売っていくが、需要は増えていない。実際に売上を伸ばしていくためには、顧客の新規開拓や、新製品の開発を進めるしかない。		
やや悪くなる	食料品製造業（営業担当）	・年末年始までは、売上はしばらく平年並みで推移する。ハロウィンなどの月ごとのイベントに応じて、売上は伸びると予想される。	
	食料品製造業（経理担当）	・株の乱高下やアベノミクスの不安定な状況が、心理面に悪影響を及ぼすため、景気が上向きとなるには程遠い。	
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・個人消費が悪化している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		化学工業（管理担当）	・中国経済の減速による世界同時株安や円高の影響で、輸出量が減る。
		金属製品製造業（営業担当）	・大手自動車メーカーによる鋼材の購入価格の値下げが決まったため、取引先からは値下げが要求される。一方、鋼材メーカーは中小企業に対しては値下げを拒絶する可能性が高い。毎度のことであるが、板挟みとなって採算が更に悪化することが予想される。
		金属製品製造業（管理担当）	・関西には目立った物件情報がないため、今年は期待できない。
		輸送業（商品管理担当）	・例年、夏が終わると販売量が減少する。
		通信業（管理担当）	・景気回復の要素が見当たらない。
		経営コンサルタント	・本来は秋物商戦に入り、景気が活発になることが期待されるが、統計では実質賃金がマイナスで推移し、多くの商店街や店舗では苦戦が続いている。
	悪くなる	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・経済の先行きが見通せない。
雇用 関連 (近畿)	良くなる	-	-
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・製造業をはじめとして、今後の展望は現状維持か、やや明るいとする事業所が多い。また、国内外からの観光客が増加しており、関連する求人の増加がみられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・求人数は今後も増加することが予想される。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・10月からマイナンバーの通知が始まり、いろいろな動きが出てくる。特に、IT業界での動きが増えることが予想される。
		人材派遣会社（営業担当）	・雇用については売手市場であることは変わらない。求職者にとって満足度の低い派遣会社は、労働者派遣法改正によって淘汰されていく。
		人材派遣会社（役員）	・中国ショックで、中国に関わりのある企業のほか、インバウンドも悪化することが懸念される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・大阪の地場産業が元気を取り戻してほしい。大阪が元気にならないければ、関西の地盤沈下は避けられない。また、広告への投入金額も、前年並みに回復することを期待している。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は増加傾向が続き、新規求職者は減少傾向が続くと予想されるが、一部の大手企業では希望退職者を募るなど、先行きは不透明である。
		民間職業紹介機関（職員）	・当地域の日雇い労働者の賃金上がる傾向はみられず、工事の着工も関東が優先となり、増える方向にはない。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・中国の景気動向は気になるが、採用市場にはその影響はほとんどみられない。
	学校〔大学〕（就職担当）	・株価は乱高下しているが、今後は正常に戻ることを期待している。	
	やや悪くなる	人材派遣会社（支店長）	・労働者派遣法の改正を控えて、派遣業界は減速することが予想される。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・求人広告の動きは安定しているが、中国経済の減速懸念による世界的な株価の急落をみていると、2～3か月先には経済が悪化すると考えざるを得ない。このまま中国発の世界不況につながらないことを願っている。
	悪くなる	-	-

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	自動車備品販売店（経営者）	・年末商戦に入るので今月より良くなるが、前年同月比では既に不安を感じている。
		通信会社（工事担当）	・客の状況が良くなる様子が見られる。
(中国)	やや良くなる	競艇場（職員）	・11月にはG1競走を開催するので、売上を期待できる。
		商店街（代表者）	・猛暑の夏が終わって気候的に落ち着き、秋のイベント等が開催されれば来街者も増加すると期待している。
		商店街（代表者）	・来月より市のプレミアム付商品券の利用がスタートし、また県の商品券が11月より始まる。期間限定的な消費喚起はあるが期待できる。
		スーパー（店長）	・景気は今後の天候に左右される。季節変わりが順調に進めば、景気回復も早くなる。
		家電量販店（店長）	・最近になり来客数が増加傾向にある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		家電量販店（販売担当）	・決算や白物家電の新商品に期待する。
		乗用車販売店（業務担当）	・新商品の投入が続くことで期待が持てる。
		乗用車販売店（総務担当）	・商品ラインナップが充実するため、新規来客数の増加が見込める。
		一般レストラン（店長）	・当月の売上低下は郊外型の商業施設が増えたことによる一過性のものである。来月から市のプレミアム付商品券の取扱が始まり、昔の地域振興券の際も反響が良かったので、ある程度期待が持てる。
		タクシー運転手	・プレミアム付商品券の効果を受けるので、やや良い状況が続く。
		通信会社（総務担当）	・他社サービスの終了告知に伴い、通信サービスの新規加入増が見込まれる。
		ゴルフ場（営業担当）	・現在、3か月先までの予約状況は順調に推移している。
		設計事務所（経営者）	・消費税率再引上げを見越して、木造住宅耐震化リフォームや空き家対策の動きが少しずつ見えてきている。
		住宅販売会社（営業担当）	・消費税率再引上げ前に持ち家の購入を検討している客が、今後本格的に動き始めることが予想される。
		住宅販売会社（営業担当）	・今後、外部工事が増えることが予想される。
		商店街（代表者）	・商店街への出店問い合わせなどもあり、新たな新規出店があれば様子が変わることが期待できるが、まだそこまでいっていない。
		商店街（代表者）	・商店街のアーケードは12月まで工事にかかっており、客が来ないため現状に変わりがない。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	・景気回復となる要素が見当たらない。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・名刺の注文が減少傾向にあり、前向きな取り組みが感じられない。
		百貨店（経理担当）	・景気が良くなる要素があまりない。気候が涼しくなっていけば、婦人服などの売上に期待が持てる。
		百貨店（営業担当）	・最大の課題である新規店舗の誘致ができれば、改善が期待できるので、今以上には悪くならない。
		百貨店（営業担当）	・良くなる要因がない。
		百貨店（営業担当）	・地方の景気はまだ回復していない。客は財布のひもを締めたままであり、必要なもの以外は購入しない姿勢が続く。
		百貨店（販売促進担当）	・秋商戦が本格化するなか、9月には大型連休があり県外客中心に来客数の増加が期待される。これを機に売上増を図れるとの期待感はあるが、現在顕著となってきた株安が高額品の動きに水をさすのではとの心配もある。
		百貨店（売場担当）	・衣料品はいくら安くしても集客ができなくなっており、客が価格で買わなくなってきている。円安による店頭価格の上昇もあって、ファッション商品の動きが鈍い。
百貨店（購買担当）	・今年は秋物が順調に推移しており、ヒット商品が生まれる兆しがある。ただアパレル業界には前年より商品量を減らして販売効率を上げようとの考えがみられ、業界の厳しい状況は続いているようである。		
百貨店（営業推進担当）	・ここ半年状況にあまり変化なく、回復の兆しが見えない。客単価、販売量ともに伸びず、前年割れが続いている。		
スーパー（店長）	・景気が変化する材料は見当たらない。		
スーパー（店長）	・7月と8月を比較すると来客数と客単価は横ばいである。数か月の間、来客数等が伸びる状態が続いてきたが、今後は横ばい傾向になる。		
スーパー（店長）	・クーポンなどの政策がとられているが、効果は一時的で、個人の収入が増えるような見通しのある話は近隣では聞こえない。節約志向にはならないが、売上が伸びる要素はない。		
スーパー（管理担当）	・盆商戦は前年並みで推移したが、プレミアム付商品券の効果もピークを過ぎた感があり、今後これ以上の伸びはあまり期待できない。		
スーパー（販売担当）	・ここ数か月の販売点数の減少を踏まえ、現在店頭においては商品の在庫量を減らす傾向にある。経営の視点から見れば当然の取組ではあるものの、売場のボリュームや販売機会損失を考えると明らかにマイナスであり、悪循環を招いている。先行きは厳しいと判断せざるを得ない。		
スーパー（営業システム担当）	・前年よりも売上は伸びているものの、競合店に合わせて値下げしているため、利益の上昇は期待できない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（販売担当）	・プレミアム付商品券の効果は一時的なもので、今後の売上は横ばいに戻る。
		コンビニ（エリア担当）	・多数の来店客が携わっている工事現場の工事が3か月目に入り、そろそろ終了する見通しである。ただ別の場所で新たに工事が始まりそうなので、トータルでの来客数は変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・夏から秋に変わり気温低下に伴って客足は鈍るが、前年に比べての増加傾向は続く。
		コンビニ（支店長）	・次月以降の売上にはまだ不安がある。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・依然としてコンビニ市場の競争激化は継続しており、シェア拡大の良い手はない。
		衣料品専門店（経営者）	・景気の良くなる要素がない。株価も低迷し中小企業に勤めている人から景気の良い話を聞かない。
		家電量販店（店長）	・爆発的な販売を期待できる商品が見当たらず、今後も悪いなりに地道に商売していく以外に手立てはない。
		家電量販店（企画担当）	・特に良くなる要素がないので景気は変わらない。
		乗用車販売店（統括）	・今年度は新型車の投入がなく厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・新商品などが出る予定がないので景気に変化はない。
		乗用車販売店（営業担当）	・景気が上向き要素がないとの声が多く、見通しが暗いとの話を聞くばかりである。主婦には消費をまだまだ抑えないといけなとの考えが多く、必要最低限の買物しかしない。
		乗用車販売店（店長）	・例年であれば決算期を控えて盛り上がる時期であるが、今年は期待できそうにない。特に平日の来客数の少なさが気になる。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・これ以上の売上増加を見込む要素がない。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・当地の産業は土建業を除くと基幹は観光業であるが、劇的な景気浮揚には至らない。
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	・松葉がに漁が始まれば今よりは良くなるが、例年を上回る見通しはない。
		その他専門店〔ファッション雑貨〕（従業員）	・物価の上昇に伴い先行きを不安に思う人が多い。節約傾向はまだまだ継続する。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（所長）	・今後2～3か月後も景気が良くなる与件が見えてこない。
		高級レストラン（スタッフ）	・先行予約は月により良いことも悪いこともあるが、特に大きく変わっている状況にはない。
		一般レストラン（経営者）	・年末までの間は地方の景気回復が実感できそうにない。また客単価の低下とより高付加価値を求める傾向が続く。店舗としての対応も荒利率低下により限界が生じつつあり、特に最低賃金の上昇は厳しい現実としてのしかりつつある。
		一般レストラン（外食事業担当）	・9月には大型連休がありゴールデンウィークと同様の効果が出ると報道されているが、地方は農繁期に入るため、そこまでの効果は出ない。
		スナック（経営者）	・消費税率や物価が上昇しただけで、まだ飲食業界は苦しいままなので、この先2～3か月で景気は良くならない。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（店長）	・行楽シーズンなので来客数の増加が見込めるが、買上点数が減少している。
		観光型ホテル（宿泊担当）	・相変わらず安い商品は売れるが、単価が上がると売れない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・中国の金利引き下げにより、インパウンド客の減少、株価下落等もあり、先の予測がつけにくい。
		都市型ホテル（企画担当）	・秋の観光シーズンになるとともに、学会やイベントの開催も増加する時期で、宴会会場の利用増や宿泊客の増加が見込まれるが、株価の低下や海外情勢の悪化など不穏な動きもあり、景気にはマイナスとなる。
		都市型ホテル（総支配人）	・秋口の大会、行楽などが盛んになる時期であり、先行予約も前年並みである。
		旅行代理店（経営者）	・現在景気はあまり良くない。株価も中国の影響で悪くなる一方で、円安により多少変わる可能性もある。
		旅行代理店（営業担当）	・地方創生施策の影響で、引き続き国内旅行は好調に推移する見込みであるが、旅行需要の急速な回復は見込めない。来年度の概算予算要求の動きに期待する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		タクシー運転手	・今月は旅行客等、人の動きが前年に比べて少し多いが、この傾向は今後も継続する。		
		タクシー運転手	・客層が変わらないので特に良くなる材料がない。		
		タクシー運転手	・今後の景気に期待する声が一向に出てこない。		
		通信会社（社員）	・売上増につながる申込がない。		
		通信会社（広報担当）	・客は良いものより安いものを求める傾向にあり、新商品が出てあまり関心がない様子である。		
		通信会社（営業担当）	・下振れする気配はないが、上向く要因も特にない。		
		通信会社（販売企画担当）	・株価などの経済情勢が心理的にも影響してくる。		
		通信会社（企画担当）	・サービスの多様化で品ぞろえは豊富になるが、購買につながることも限らず、次の購買情報を待つという客も多くみられる。選択ポイントは低価格という理由だけではないので、景気が悪いわけではない。		
		通信会社（総務担当）	・客は割引商品に興味を示すものの、全体的な売上増には結び付いていない。		
		テーマパーク（業務担当）	・秋の行楽シーズンに入るとともに連休もあるため、来園者数の増加を期待できるが、夏休みのような平日の来客はあまり望めない。		
		テーマパーク（管理担当）	・消費税率引上げ後、個人消費が低迷している。		
		テーマパーク（営業担当）	・団体バスの料金が変わらない限り、団体旅行は回復しそうにない。		
		美容室（経営者）	・来客数の動きや購買状況よりも、就労問題で働く人を探すのが難しくなっている。		
		美容室（経営者）	・美容関係は2～3か月のスパンで大きな変化が起こる業種ではなく、客の収入が増えた後、しばらく時間がたってから波及してくるので、当分景気に変化はない。		
		設計事務所（経営者）	・下降状況に変わりない。いろいろと不安材料はあるが、大きな変化は見通せない。		
		設計事務所（経営者）	・一般客の来場数がもう少し伸びないと上向かない。		
		住宅販売会社（従業員）	・景気の先行き不透明感が払しょくされず、好転する要因がない。		
		住宅販売会社（営業担当）	・国の実施する長期固定金利の住宅ローン優遇対策への客の反応は薄く、長期的な景気好調を実感するまでに至っていない。		
		やや悪くなる		商店街（代表者）	・地方では収入が増加する人が少なく、また食料品を中心に値上がりする商品が多いので、客の低価格志向は変わらない。
				商店街（代表者）	・当店で取り扱う商品が子供服であるため余計に感じるのかもしれないが、まだまだ客のデフレマインドは解消されていない。
一般小売店〔茶〕（経営者）	・販売の見通しが立たないため、根本的な方向転換が必要である。				
一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・中国経済の失速に関連して円高の懸念がある。				
百貨店（営業担当）	・8月下旬の株価の急変動もあり、客の購買意欲は明らかに低下しているため、当面は現在の状況より悪くなる。				
百貨店（売場担当）	・地域内競合店の増床オープンが来月であり、しばらくの間厳しい状況が予想される。				
スーパー（店長）	・株価の下落や原材料費高騰による商品の値上げなど、客が消費を抑える要因が多く、生活防衛意識が強まり、個人消費の冷え込みが始まる。				
スーパー（財務担当）	・平常の生活に戻り、販売価格の上昇に敏感になって節約するようになる。				
スーパー（業務開発担当）	・競合他社が特売商品価格を強化しており、利益面で相当悪化しそうである。				
衣料品専門店（経営者）	・公務員の給料などは上昇してきているので、少しではあるが購買力も上昇する。				
自動車備品販売店（経営者）	・全世界同時株安などでさらに消費マインドが盛り下がるばかりであり、何かのきっかけがないとまた不景気に突入しそうで心配である。				
住関連専門店（営業担当）	・来客数が減少し住宅の新築やリフォーム、結婚等の情報が得られないので、販売につなげられない。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・日本中の各自治体がプレミアム付商品券を発売したが、これでは単なるバラマキに過ぎない。消費税率引上げと円安による物価高の多少の穴埋めにはなるが、地方の活性化にはつながっていない。地方への企業移転を促進することにより、人が地方に移る政策を促進すべきである。
		一般レストラン（経営者）	・プレミアム付商品券が発行され、その使用により景気は良くなると期待している。ただ最近の株価下落により、商品券の効果以上のマイナスが発生する気配がある。
		観光型ホテル（支配人）	・ふるさと旅行券の売上への貢献効果は期待したほどではない。
		都市型ホテル（企画担当）	・中国株価下落の影響が懸念される一方で、物価も上昇しているため、先行き不安要素が多い。
		美容室（経営者）	・売価を下げれば来客数が増加するような気もするが、現時点では踏み切れず、様子見の状態である。
		設計事務所（経営者）	・建築費が高止まりの状態、しばらくは好転する話題が見つからない。
	悪くなる	スーパー（店長）	・原料や食品の値上げがあり、食費の節約志向がいつそう高まる。競合店の販売促進も大きく影響する。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（運営担当）	・世界的に株価の急激な下落が始まっており、良くなる材料が見当たらない。
企業動向関連 (中国)	良くなる	-	-
	やや良くなる	木材木製品製造業（経理担当）	・消費税率再引上げ前までに購入しようとする意向が見られる。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・鉄鋼業向けが徐々にではあるが回復する見込みであるため、生産量も回復が見込める状況である。
		輸送業（経理担当）	・輸出入に関して中国の影響を懸念していたが、それも今のところほとんどなく、その他の貨物も堅調に推移する見込みである。
		不動産業（総務担当）	・9月から賃貸物件の需要が増える見込みである。
		広告代理店（営業担当）	・取引先の状況と受注量の動きから上昇方向で推移する。
	変わらない	食料品製造業（総務担当）	・売上構成を抜本的に見直すに当たり、製造工程の見直しから始めたため、9月以降の繁忙期に製造現場が対応できるか若干不安を持っている。
		繊維工業（経営管理担当）	・需要期はまだ先である。
		化学工業（総務担当）	・アベノミクスにより景気は良くなったようだが、消費拡大にまでは至っていないため、内需が拡大していない。土木、建築などが増えないと景気の下支えにはならない。
		鉄鋼業（総務担当）	・中国からの注文にシフトしている製品は、同国の動きを今後よくにらみ、場合によっては雇用調整も考えなければならない。
		鉄鋼業（総務担当）	・実需の盛り上がりが見えてこないため、在庫調整局面が思いのほか長く続く。
		金属製品製造業（総務担当）	・受注、販売、購入とも大きな変動要因の情報はなく、現状の量と価格で推移していく。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・同業他社では消費税再引上げ後の市場の動きや反応を見極めて動いており、当面慎重にならざるを得ない。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・受注内示量は前期並みとなっている。
建設業（総務担当）		・物件の数はあるが、配置技術者の関係で対応ができない状態が年度末まで続いている。この状況はしばらく変わりが無い。	
やや悪くなる	通信業（営業企画担当）	・流通小売業の客から、今年は夏から秋にかけての天候がはっきりしており売上に好影響であるとの話が出てきている。	
	金融業（自動車担当）	・自動車部品メーカーの受注は、中国経済の減速などの不安材料はあるが、米国経済の堅調などから現状程度の高水準を維持できる見通しであり、月次の利益は過去最高水準を確保している。	
	会計事務所（職員）	・製造業は短期的な受注があるが、半年以上に及ぶような比較的大型の物件の受注があまり出てきていない。秋以降の見通しは今のところ不透明な状況にある。	
		化学工業（経営者）	・中国の実態景気の後退により大幅な株価下落を招き、国内の輸出企業を中心として業績悪化が徐々にではあるが現実味を帯びた形として表れてくる懸念がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		電気機械器具製造業（総務担当）	・得意先からの受注量が増えない。	
		建設業（総務担当）	・株価の急落で全体のマインドが低下してくる。	
		通信業（営業担当）	・原油安による欧米など経済の不安定な状況や中国経済の失速、円高、株価低迷による日本経済への影響は必ずマイナスに働く。	
		金融業（貸付担当）	・日経平均株価の下落が個人消費に与える影響は大きい。消費マインドへのマイナスの影響によって個人消費が伸び悩めば、企業の生産活動や投資意欲も減退し、景気の悪循環につながる可能性がある。今後の身のまわりの景気は毎月よりやや悪くなる。	
		悪くなる	農林水産業（従業者）	・朗報としては底引き網漁の2か月半の休漁期間が8月15日に終了し、5船団が出港したので、今後は水揚げを期待できる。ただ水揚げ量の大半を占める巻き網漁のアジやサバの漁獲量が減少しており、今後もあまり期待できない。
		非鉄金属製造業（業務担当）	・中国経済の悪さ加減が顕著になってきており、その影響が更に色濃くなると推測される。	
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きが悪くなる。	
		その他製造業[スポーツ用品]（総務担当）	・現在の円高がいつまで続くか分からず、受注状況や価格面での厳しさは変わらない。また新商品においては、非常に工程の難しいものが多く、生産性も低下している。	
		雇用関連	良くなる	-
(中国)	やや良くなる	求人情報誌製作会社（広告担当）	・来年の採用者数や採用媒体の決定のスピードの早さから、採用意欲が高いことを感じる。これまで抑えていた企業が採用を再開するのではなく、将来の見通しがある程度あり、優秀な人材が必要だと感じている企業が多い。採用意欲が高いため景気が良いとの判断ができる。	
		求人情報誌製作会社（採用支援担当）	・短期的な景気動向は心配であるが、長期的には若年層の労働力不足があるため、需要は底堅い。	
		職業安定所（所長）	・医療福祉や建設業では人手不足状況が続いており、求人意欲が極めて高いが、緩やかな景気回復を背景に基幹産業の製造業でも求人意欲が高まっている。	
		職業安定所（産業雇用情報担当）	・前年比で新規求人数が2か月連続、有効求人数も3か月連続で増加しており、この状況はしばらく続く。	
		民間職業紹介機関（人材紹介担当）	・駅前大型ショッピングモールの集客数が予想より下回っているが、しっかりと施策を立て実行に移しているため、活性化が期待できる。	
	変わらない	人材派遣会社（社員）	人材派遣会社（社員）	・中途採用のニーズは増えているものの、今年から新卒採用の時期がずれていることもあり、中途採用活動は停滞気味であることから景気状況は変わらない。
			人材派遣会社（経営企画担当）	・改正労働者派遣法、申込みみなし制度、マイナンバー制度など対応課題は山積みである。コンプライアンス体制と組織立った対応ができる企業が生き残っていく。派遣会社の淘汰がより一層進むと見られる。
			人材派遣会社（支店長）	・県内の人材不足は最大の課題であり、2～3か月で解決することは難しいため、今後は中小企業、小規模事業者へ届く国の支援策に期待する。
		新聞社[求人広告]（担当者）	新聞社[求人広告]（担当者）	・事務職よりも職人の不足が土木建築からサービス業にまで広がってきている。好況の裏返しになるのが、職人に頼っている地方の飲食店は徐々に深刻の度合いが高まる。
			職業安定所（産業雇用情報担当）	・小規模な倒産はあるが、管内の雇用環境に大きな影響を及ぼすような倒産等もなく、大量求人の話も聞かない。
		職業安定所（雇用開発担当）	職業安定所（雇用開発担当）	・人手不足感が強いことから、新規求人は前年並みとなっているが、募集しても応募がないもしくは少ないとの声を以前にも増してよく聞くようになってきている。
			民間職業紹介機関（職員）	・中国景気など不安定な要素もあり、国内事情のみで判断ができないため、景気は現状と変わらない。内需の好調さもあり、少なくとも現状は維持する見通しである。
		学校[大学]（就職担当）	学校[大学]（就職担当）	・3か月くらいで景気は変わらない。
	学校[短期大学]（学生支援担当）		・明確な動きが見えない。	
やや悪くなる	人材派遣会社（支社長）	・中国を含めた世界的な景気減速、急激な円高による企業業績への影響などが、企業の採用意欲を大幅に低下させる可能性が高い。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・中国経済の低迷によるダメージは今後じわじわと波及してくる。円高基調が急ピッチで進行すると、輸出産業やその関連企業体の多い当地域は多大な影響を受ける。また株価の下落は消費者の心理にも悪影響を及ぼす。
	悪くなる	-	-

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)	良くなる	通信会社（営業担当）	・新モデルの発売が始まり、年末に向けて販売量が増加する。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・開発中の商業集積（マンション含む）と、有名ブランドコーヒーショップが9月にオープンする予定で、来街客がかなり増えると見込まれる。新規出店には集客力があるから、景気は若干上向くだろう。
		衣料品専門店（経営者）	・8月20日以降の売上は非常に厳しかったが、気温が下がって涼しくなってきたため秋冬物に良い動きが出てくるのではないかと期待している。
		衣料品専門店（経営者）	・秋冬の端境期に当たる今は、来客数が少ない。今後、9～11月は季節商品が売れる時期なので、ある程度来客数も上昇し、客の消費も良くなると思う。
		乗用車販売店（役員）	・7月の新車投入は思っていた程の伸びが見られず、8月はなんとか乗り切った。9月以降、各社とも新車投入があるので今後に期待したい。
		乗用車販売店（営業担当）	・9月の新型車発売に期待している。購買意欲を増していきたい。
		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・お中元時期も終わり、少し落ち着いている。2～3か月先は秋祭りや周年祭などで忙しくなるだろう。
		タクシー運転手	・秋になれば少しはお遍路の仕事が出てくるので、水揚げは良くなるだろう。
		通信会社（営業担当）	・話題の新機種発売を契機に、市場の活性化に期待する。
		観光遊園地（職員）	・客数が伸びている。
		競艇場（職員）	・10～12月は本場開催日が前年より6日多く、特に12月は年末に大きなレースを予定しているので、売上が増える。
		住宅販売会社（従業員）	・例年8月は客の動きが悪い。9月以降は良くなると思う。また、来場客の多かった時期のリストから契約が上がってくる。
	変わらない	商店街（事務局長）	・商店街の通行量は確実に増えてきているが、商店街専用プレミアム付商品券の購入希望者は少なく、郊外店に流れている。10月後半に近隣の大型商業施設がリニューアルオープンすることもあり、客の動きは読めない。
		一般小売店〔文具店〕 (経営者)	・今のところ改善する要素が見当たらない。
		一般小売店〔生花〕 (経営者)	・開店祝など企業向け商品は予約が入っているが、個人向けの予約は減っている。
		百貨店（営業担当）	・株価変動を受け、高額品が売れたり売れなかつたりで、状況によって売上が大きく変わる。来店客数は増えてきている。
		百貨店（販売促進担当）	・賞与増加やプレミアム付商品券など好件があるものの、高額品などの動きは鈍く、大きな押し効果にはなっていない。中国経済など不安材料もあり、楽観視できない。
		スーパー（店長）	・上昇する要素も下降する要素も見られないので、今の状態が続く。
		スーパー（企画担当）	・来店客数は増加傾向が続くとみているが、買上点数が伸びないと売上増につながらない。
		スーパー（財務担当）	・賃金上昇というプラス効果はあるものの、消費者の節約志向は根強いものがある。
		コンビニ（店長）	・すぐに悪くなるとは思っていないが、良くなる要素は全く無い。
		コンビニ（店長）	・お盆休み以降、客数、客単価共に悪化しており、しばらくは望み薄だ。
		衣料品専門店（総務担当）	・プレミアム付商品券に期待していたが、売上にプラスにはならなかった。9月以降も今月同様、厳しい状態が続く。
		家電量販店（店員）	・良くなる要因も悪くなる要因も見当たらず、以前のようなボーナス商戦の盛り上がりも感じられない。そのため、閑散期でもそこまで悪化するとも思えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		乗用車販売店（従業員）	・最近のガソリン価格は安定しており、この状況が続くと新車販売台数も大幅増は望めないが、安定して推移すると予想される。	
		乗用車販売店（従業員）	・7月発売の新型車は予想の範囲で受注があったが、その他の車種が不調のまま、全体ではあまり良くない。最近では、新型車効果が販売台数に直結しなくなっている。	
		乗用車販売店（従業員）	・新型車が発売されるので、それに期待したい。	
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・景気が良くなる要素もなく、消費意欲は高まってこないと見ている。	
		観光型旅館（経営者）	・現状と変わらないと思う。最近の株の暴落が、ぜいたくする人が減るなど消費に影響が出るのではないかと心配している。旅行に関しては、高齢者層はそれなりの消費があると見ている。	
		都市型ホテル（経営者）	・宿泊客は、プレミアム旅行券等で若干増えるだろう。しかし、地元の宴会の予約は昨年を下回って推移しており、景気の動向は変わらない。下振れする可能性もある。	
		通信会社（支店長）	・中国の株価下落による景気減速の影響が気になるが、アメリカの景況感が良いので変わらないと判断。	
		通信会社（企画）	・加入件数は若干落ちているが、解約数は変わっていない。	
		ゴルフ場（従業員）	・2～3か月先の予約状況は、昨年とあまり変わらない。	
		美容室（経営者）	・良くなる要因が見当たらない。	
		設計事務所（所長）	・建設会社は大手も地元も受注が一杯で、取り切れない状況になっているため、新しい物件を受注することは困難になっている。	
やや悪くなる		商店街（代表者）	・中国経済の停滞に始まる株安の影響及び季節変動指数的にも低い時期であるため、心理的に顧客の動向が停滞するのではないかと。	
		衣料品専門店（経営者）	・中国経済の先行きが怪しい。	
		住関連専門店（経営者）	・多少、景気が上向きになりつつあったが、中国経済の影響で株価がかなり下落しており、今後は若干難しいのではないかと。	
		タクシー運転手	・9月は通常の生活に戻るため、今より実車の件数、回数が少なくなるだろう。	
		美容室（経営者）	・新規の客を獲得出来ていない。	
悪くなる		商店街（代表者）	・株式市場の低迷が長引くとアベノミクス効果も減退しかねない。消費経済にとって極めて重要な節目を迎えている。	
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・夏が過ぎると酒類の消費が少なくなるので、これからは厳しくなる。	
企業動向関連 (四国)	良くなる	食料品製造業（商品統括）	・今回の中国発株安を含め、過去の状況から判断し、世界経済の安定化への取り組みは各国首脳陣共通認識となっている。また、求人への給与条件も高い状況にある。	
	やや良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・再生エネルギーの問い合わせ、引き合いは引き続き多く、施工も順調である。エネルギー関係、環境関係の受注は今後も好調で推移するだろう。	
		通信業（部長）	・少しではあるが、地方でも景気回復の声が取引先企業から聞かれるようになってきている。	
		広告代理店（経営者）	・自動車販売関連は販売鈍化により販促費が抑制されているが、県外大手映画施設、駅ビルのオープン等の予定があり、景気は少し上向くだろう。	
	変わらない	食料品製造業（経営者）	木材木製品製造業	・新築戸建住宅分野は、前年並みか前年を若干下回って推移している。今年6月のように新築持家着工数が増えれば生産は忙しくなるが、ムラが発生しているだけでも受け取れる。
			パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・現状が続くと思われるが、中国市場で上海の元の切り下げがあったため、今後の中国の動向が不安である。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・世界経済の先行き不透明感が急速に強まっており、海外の受注の動きに注意が必要である。	
電気機械器具製造業（経理）		・得意先から受注量の微増を見込んでいるが、それはM & Aに起因する前倒し発注と推測されるため、実需に大きな変化はない。		
建設会社（経理担当）		建設業（経営者）	・受注量が増えないので、景気は変わらない。 ・受注量にもよるが、現状と変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		輸送業（営業）	・行楽シーズンの9～10月は、消費者の購買意欲の向上を期待しているが、台風など天候に大きく左右される。また、農作物の定植時期でもあるため、仮に天候不順が続いた場合は11月以降の収穫に影響を及ぼすことから、取扱物量の増加は見込めない。	
		金融業（副支店長） 公認会計士	・世界的な株安で経済が不安定になっている。 ・経営者に話を聞くと、設備投資に消極的な意見が多い。景気がどんどん良くなるという経営者もいなかった。	
	やや悪くなる	繊維工業（経営者）	・小売店の動きは季節要因によるもので、消費者マインドは良くない。また、昨今の経済状況が厳しくなっており、今後は消費も落ち込んでいくのではないかと。	
		鉄鋼業（総務部長） 建設業（経営者）	・受注に直結する引き合いが減少傾向にある。 ・公共事業の分野、部門の偏りもあって、企業毎に業績の良し悪しが分かれてきており、発注量も大きく伸びないと見込まれる。全体的には、受注量、手持ち量が減少した結果、売上が減り、景気はやや悪くなる。	
		輸送業（経営者） 輸送業（支店長）	・株価下落により雰囲気が悪い。 ・中国不安によるもの。	
	悪くなる			
	雇用 関連 (四国)	良くなる	-	-
やや良くなる		人材派遣会社（営業）	・プレミアム付商品券の発売に伴って購買意欲は上がっていると感じるが、その経済効果についてはまだ確認出来ていない。11月の締切までは景気も多少良くなることを期待している。	
		求人情報誌製作会社（従業員） 職業安定所	・例年同様、求人数の増加を予想している。 ・有効求人倍率は1.15倍となり、前月比0.05ポイント、前年同月比0.11ポイント上昇した。	
		民間職業紹介機関（所長）	・8月以降も、数多くの求人票を受け付けている。企業の上半期の業績が予想よりも良かったので、求人の拡大に踏み切ったものと推測する。	
		変わらない	人材派遣会社（営業担当） 求人情報誌（営業）	・労働者派遣法改正が業界の大きな転機になると思われるが、経過措置等を勘案すると、労働市場に顕著な動きが見られるのはもう少し先になる。 ・企業の採用ニーズは引き続き高止まりしているが、人材不足から採用マッチングがうまくいっていない企業が多く、状況は変わらない。労働力不足が長引くようだと景気が悪くなる可能性もある。
変わらない		新聞社〔求人広告〕（担当者） 職業安定所（職員） 職業安定所（職員）	・総じて無理な消費を控える傾向が続いている。乗用車も売れず、野菜の値上がりやガソリン価格の高止まりなど、消費意欲を刺激する材料に乏しい。 ・景気の動向から、より良い仕事を探す方が見受けられる状況にある。 ・求人意欲の増加は、正社員の募集に直結しておらず、安定感に乏しい。	
		やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・労働者派遣法改正などにより、企業が人材派遣の採用を控える可能性がある。法律が施行されるまでは、派遣業の景気の悪化につながる。
		悪くなる	-	-

10. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街（代表者） 商店街（代表者）	・企業がキャンペーンなどを打ち出すため、その印刷物などが増えると予想される。 ・天候が落ち着き、これから旅行シーズンになるので売上増につながる。
		一般小売店〔生花〕（経営者） 百貨店（営業担当）	・これからの時期はギフトで生花や切花を贈ることが増える。店内も改装し、広告や店内の展示を任せられる従業員を雇用した。例年通り、売上も上がってくる。 ・お中元は、購買客数とお届け件数が減少した。一方、商品単価と客単価は増加した。特に持ち帰りコーナーでの単価が上がり、高価な贈り物をする傾向が目立った。また、店頭催事場での自社カードの新規入会が好調で、目標を大きく上回り、今後の利用が期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		百貨店（販売促進担当）	・プレミアム付商品券の販売が控えており、購買意欲に勢いがつくことを期待している。
		百貨店（店舗事業計画部）	・秋物の洋服を例年よりも早い時期に規模を広げて展開したところ、客の反応がよかった。これまではバーゲンなどで低価格を訴求すると、反応が良かった印象がある。客の志向が徐々に変化していると実感している。
		コンビニ（販売促進担当）	・大きな伸びではないが、伸びつつ横ばいでいく。
		衣料品専門店（チーフ）	・涼しくなってくると、おしゃれな客は早めに秋物を購入するので、若干の売上の伸びが見られる。
		家電量販店（広報・IR担当）	・昨年の消費税増税の反動もほぼなくなり、今後、大きく落ち込むことはないと予測する。
		その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	・秋口にかけて気温が冷え込んでくる。それに伴い、例年コーヒーの需要も増えるので、秋口から年末にかけて売上は増えると予想する。
		その他小売の動向を把握できる者【土産卸売】（従業員）	・9月の大型連休に国民文化祭が開催されるので、今までのマイナスを取り戻すチャンスがきている。
		高級レストラン（従業員）	・地元の球団が優勝すると客の様子も変わるので、少しは景気も良くなる。
		設計事務所（所長）	・受注予定額は右肩上がりになっている。
		商店街（代表者）	・客はほとんど消費をしようとしな。必要な物があっても、安価な商品だけを買う。報道では物価高騰や好景気であると言われていたが、一般消費者のほとんどが、生活が苦しくなっている。収入は変わらず、税金が増えているので、消費は増えない。
	商店街（代表者）	・地方では収入の改善がほとんどみられず、景気の良さを実感できない。	
	商店街（代表者）	・これ以上良くなる要因もなく、今の状況が続く。世界同時株安など不安もあるが、落ち込む要因もない。	
	商店街（代表者）	・好転する材料も悪化する材料も、予測できない。	
	商店街（代表者）	・9～10月はやや涼しくなって食欲が出てくる季節だが、スーパーや百貨店、コンビニエンスストアなどの競争で、零細企業の商店街では厳しい状況である。	
	一般小売店【青果】（店長）	・果物関係は、長雨の影響や高温多湿のために味が良くないようだ。みかんや柿などは作付けも生産量も少ないうえに味も悪そうで、今後も厳しい状況が続く。	
	一般小売店【茶】（販売・事務）	・すぐに好転するわけではない。	
	百貨店（売場担当）	・プレミアム付商品券が、売上シェアの約10%を占めるようになった。使用期限は10月いっぱいだが、早めに使いきる客が多いので、そのあとの景気がどうなるのかわからない。現在の市況を見ると悪い要因がない。台風が来ても売上は前年を超え、客単価、入店客数ともに前年をクリアしている。さらに今月のインバウンドの売上が、前年比358%とかなり伸びている。大型のクルーズ船が入港すると売上が非常に伸びるので、注視しなければならない。	
	スーパー（店長）	・天候で青果の相場がかなり高かったが、最近は落ち着いてきた。青果の相場で店の売上が左右される状況で、一般の食品は前年並である。米の単価が昨年より下がっていることが、売上に影響しており、この流れが2～3か月は続く。今後1～2か月の見通しはまだ厳しいと考えている。	
	スーパー（店長）	・現在の状態がしばらく続くと予想している。	
	スーパー（店長）	・プレミアム付商品券の効果が9月以降は薄れて、衣料品や住関連商品の不振が続く。	
スーパー（総務担当）	・前年に比べれば売上・客数ともに大幅に上回っているが、ここ数か月の業績はあまり伸びておらず停滞気味となっている。		
スーパー（経理担当）	・肉類の高騰、生魚の不漁にもかかわらず全体的に売上が好調であり、この傾向が続いていく。		
スーパー（統括者）	・株価や中国の景気動向など先行きが見えにくく、今後の景気がどうなるかが不明である。		
コンビニ（経営者）	・非常に生活に密着した商品売っており、必要な物以外は買わないという傾向がずっと続いている。これからもこの傾向は変わる要素が見受けられない。		
コンビニ（エリア担当）	・実質賃金が上がっているわけではなく、特に地方では今後も厳しい状況が続く。この状況を改善する施策が必要だ。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当・店長）	・今からはおでんやホットスナックが売れる季節になるが、その分、冷たい調理麺が売れなくなるのでプラスになることはあまり期待できない。台風が来るたびに一時的に売上は伸びるが、その反動で台風が去った後に売上が落ち込む傾向がある。
		衣料品専門店（店長）	・プレミアム付商品券の発売効果はすでに弱まっており、客の購買意欲を刺激する施策が更に必要となっている。
		衣料品専門店（店員）	・季節を先取りして衣料品を買う客が減ってきている。一部の客は高額品でも買うが、多くの客は財布のひもが固く、売上が上がりにくい。
		衣料品専門店（取締役）	・3か月先の11月は冬物の実需期になる。寒くなればなるほど物が動く。客の財布のひもは固く、インバウンドの効果はファッション業界にはあまり波及していない。景気が良くなるような様子は全く見受けられない。
		衣料品専門店（総務担当）	・現時点において良くなる要素が全くない。
		家電量販店（総務担当）	・株価の急落が消費動向に悪影響を与えないか心配である。
		乗用車販売店（従業員）	・来年3月までは新型車も出ず、サービスや中古車、保険などで利益を出さないと黒字にはできない。
		乗用車販売店（総務担当）	・次回の新型車発売までは、現在の厳しい状況が続く。無駄なコストを削減しながら利益を出していく。
		乗用車販売店（代表）	・まだまだ地方では良くならない。
		住関連専門店（経営者）	・昨年の消費税増税以降、売上の回復に時間がかかったが、やっと先月あたりから好転の兆しがみられた。だが、中国の株安や景気の減速感などがあり、先行きは不透明で厳しい。
		住関連専門店（店長）	・しばらくは大きな動きもなく、良くも悪くもない状況が続く。ただ、それを市場の安定化ととれば、良い傾向といえるかも知れない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の小売価格は下げ止まった感があり、今後の価格は不透明である。9月の大型連休は前年より休日の並びが良く5連休となり、10月や11月も3連休がある。秋の連休などの行楽シーズンに、自動車利用による燃料油の増販や関連するカーケア商品の増販に期待したい。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・秋になるのが早ければ衣料品などには期待できるが、残暑次第である。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・当面は変わらないが、中国の経済不安でインバウンドが今までどおりに推移するかどうかが大きく影響する。
		理容室（経営者）	・来客数は少しずつ増えつつあるが、1人の客単価が落ちている。
		美容室（経営者）	・良くない話ばかり聞く。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・他業界の景気回復に伴い、介護業界の人員不足は加速することが想定され、対人サービスである業界全体の回復は今後もなかなか見込めない状況である。
		設計事務所（所長）	・今月の景気が大体3か月先に結果として出るが、今月が変わらないので、2～3か月先も変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・展示場来場数がやや減少傾向にあり、今後2～3か月先の受注は大幅には改善することはない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・商店街のテナントの空きが目立つ。零細店は売上が厳しい。プレミアム付商品券も一部の店しか使えず、零細店は置き去りになっている。
		商店街（代表者）	・やや厳しくなる。
		百貨店（営業担当）	・秋～冬から、円安や原材料高による値上がりが見られることが予想され、価格に敏感な客の購買力の低下が懸念される。
		スーパー（経営者）	・全体的に景気は伸び悩む。
		スーパー（店長）	・今後も商品の動き自体が良くなる要素がほとんどなく、食料品においてはやはり値上がりした商品自体が売れにくくなっている。今後もあまり伸びないと予想している。
		コンビニ（店長）	・アベノミクスは失速していると感じる。なにかの引き金で、急激なインフレが起きるかもしれない。
		衣料品専門店（店長）	・この秋も景気はやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		家電量販店（店員）	・7月1日から始まったプレミアム付商品券の効果は、非常に絶大であった。ただ効果が続いたのは7月いっぱいまでで、8月は以前の売上と変わらない状態になった。皆、商品券を使い切ったようで、今後の伸びが見えない状況にある。駅ビルが開業してしばらく経つが開業効果も薄れ、少し厳しい状況になる。	
		家電量販店（従業員）	・夏が終わり涼しくなってくるので、季節商材の需要が減る。	
		その他専門店〔書籍〕（代表）	・景気回復が株高だけが頼りの表面的なものであったという認識が、一般に広がってきた。	
		ドラッグストア（部長）	・中国の景気低迷により、インバウンドの客数が減少することが懸念される。	
		観光型ホテル（スタッフ）	・9月は宿泊・レストランは順調に伸びているが、前年に比べると宴会の予約数がかなり落ち込んでいる。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・猛暑や悪天候の影響もあり、原材料費が軒並み高騰している。各取引先の協力もあり現状は何とかしのいでいるが、長期化すると利益確保が更に厳しくなるため販売価格を上げざるを得ない。	
		タクシー運転手	・日中の稼働は良いが、夜の繁華街の客がまったくいない。予約状態も良くない。	
		競輪場（職員）	・他施設はどこも、販売額が前年比マイナスである。	
		競馬場（職員）	・中国経済の影響により、株価が急下落している。規模が大きいため、日本への景気の影響も大きく、娯楽への参加意欲にもかわる。	
		悪くなる	家電量販店（店員）	・大物商品が動いて売上が良くなると、その後、反動がくる。8月は良かったが、9～11月は目玉商品がない。売上は落ちて状況は悪くなる。早めに寒くなれば話は別だが、そういうわけにもいかないだろう。
企業 動向 関連 (九州)	良くなる	食料品製造業（経営者）	・原料の収穫期に入り、原料が潤沢に供給され、1年のなかで最も生産量が増える時期となる。また商品も季節的に販売が増える時期となる。	
		繊維工業（営業担当）	・今の調子で2～3か月は続く。	
		鉄鋼業（経営者）	・新規の物件が建築・土木共に乏しく、契約量が激減している。契約残は抱えているものの工事の遅延、また着工遅れなどで出荷が遅れて販売量も減少している。新規に着工となった建築物件が多少増えてきているため、秋口からは販売量が回復してくる。	
		電気機械器具製造業（取締役）	・引き合いが続いている。	
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・当初の生産計画より減少傾向であるが、月々でみると年末まで右肩上がりの生産数で推移していく。	
		輸送業（総務担当）	・新規の受注により売上げが見込まれる。	
		輸送業（総務）	・原油の単価が下がっているのが、費用面でプラスに働いている。	
		金融業（営業）	・中国情勢などから方向感が分かりづらい。国際的な需要低迷も懸念されるが、今のところは製造業の国内回帰の動きが続き、景気は良くなると考える。	
		不動産業（従業員）	・商業施設の売上がインバウンドの影響で好調で、今後も継続する。	
		経営コンサルタント（社員）	・値段が高くても価値があるものであれば、消費者は購入する傾向にある。	
		経営コンサルタント（代表取締役）	・ホームページからの問い合わせが増えてきており、企業の投資意欲が高まってきている。	
		変わらない	農林水産業（経営者）	・9月は原料供給が極端に悪くなる見通しだ。工場の稼働が減り、売上減が避けられそうにない。8月の暑さで種鶏の卵が不足し、出荷が1か月ほど先延ばしになったのが原因だ。その反動で10月は鶏が増えすぎて、工場処理できなくなると予想している。年末に向けて加工食品メーカーからの引き合いが強くなり、スーパーや居酒屋も秋の行楽シーズンに入って、好調になると期待している。
				農林水産業（営業）
家具製造業（従業員）	・出店などの新規物件に陰りがみえるが、それでも前年同月比で10%以上は増えている。今の状況が今後も続いていく。			
窯業・土石製品製造業（経営者）	・商品群がどんどん変わり、長期で売れる商品が少なくなっている。卸である商社も苦労しているようだ。産地全体で見ても、やや冷え込んでいる。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（事業統括）	・例年、下期に売上が集中する傾向にあるが、上期をばん回するまでには至らない。株価の低下が新たな懸念材料として出てきた。
		一般機械器具製造業（経営者）	・外的要因に左右される業種なので、受注量は顧客の実績や景気の影響が大きい。現状は不安定ではあるが、そこそ良いのではないかと希望的観測を持っている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・新規の仕事の獲得に注力する。また、人材が育っていないという問題があり、どのようにして人材を育てながら現状を維持していくかを考えている。
		建設業（経営者）	・客の話では変わらない。
		建設業（従業員）	・ここ最近は、受注がうまくいっている。見積案件もそこそこあるので、受注獲得に向けて頑張りたい。しかし、景気自体は今と変わらない。
		通信業（職員）	・社全体での受注は好調だが、部門単位では伸び悩んでいる。
		通信業（経理担当）	・当面、景況は変わらない。次の新たな公共投資への期待が大きい。
		金融業（従業員）	・良い材料が見当たらない。
		金融業（従業員）	・住宅投資や外食産業では持ち直しの動きが見られるが、自動車関連企業の回復は遅れ気味である。世界的な株安の影響もあり、先行きについては、慎重な見方をする人が増えている。
		金融業（得意先担当）	・プレミアム付商品券の効果が限定的であるという声が聞かれる一方で、公共工事の発注が増加しつつあると聞いている。人件費や材料費の高騰が、地域経済を圧迫しているという声もあるので、先行きは様子見である。
		金融業（調査担当）	・円安の影響を受け、企業業績は好調である。消費関連企業の売上も変化がない。
		金融業（営業担当）	・中国景気の後退による株価低迷の影響もあり、中小企業事業者の設備投資への意欲が後退している。
		新聞社〔広告〕（担当者）	・海外旅行商品の広告出稿が回復するかどうかのポイントである。各自治体から、ふるさと旅行券やプレミアム付商品券などの告知のための広告出稿はあるものの、一般企業は広告出稿に消極的だ。今後も前年割れの状況が続く見込みである。
		広告代理店（従業員）	・8月の新聞折込枚数は前年比95%と、相変わらず低調である。ただ、受注件数は98%で落ち込みはそれほど大きくない。需要は前年と同程度だが、1回の受注枚数が減少している。円安の影響で内需が拡大していないことが消費活動を低迷させている大きな原因で、それが広告費の削減につながっている。
		広告代理店（従業員）	・売上が前年をクリアすることはない。90%台で上下する状態が続いている。
経営コンサルタント	・急に好転するとは思えず、現状が続くと予想している。		
その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	・3月決算の企業は上期に集中して設備投資するケースが多い。2～3か月後までの投資計画をヒアリングしたところ、現況と変わらないようだ。		
やや悪くなる		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・8月に前倒しした受注が多く、その分、今後2～3か月は見込みが少ない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・引き合いの状況から予想すると、9月の受注量は8月の水準を下回る。
		その他製造業（産業廃物処理業）	・今後も相場が下がる一方ではないかと懸念している。
		建設業（社員）	・当地区は、公共工事の契約率が非常に低い。工事量も前年より減っているが、発注自体が少ないので契約率は上がらない。上半期は70%を目標にしているが、7月現在で30%を割り込んでいて、目標達成は無理であろう。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・中国経済の落ち込みが波及して、世界中で金融市場などが厳しい状況になりつつある。時間が経過するにしたがって、これがボディーブローのように効いてくるのではないかと懸念している。長期的にどうなるかはわからないが、2～3か月後は影響が出始める時期に当たると考えている。
悪くなる		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・今後、新たに予算化される自治体の委託業務は少ないだろう。9月の補正予算で追加される建設や土木関連の事業も少ない。今後の景気が、悪くなる恐れがある。
雇用	良くなる	-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (九州)	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・求職者が減少するなか、就業意欲がある層を掘り起こして労働市場につなげなければならない。扶養控除など制度面を見直した上で、家庭に入っている女性が柔軟に働ける場を作る必要がある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・例年、秋口から求人需要が増えることを期待しているが、当社の発行する求人情報誌をリニューアルするので、この機会に市場のニーズを捉えたい。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・中国の経済状況など世界経済も気になるが、北部九州ではアジア、特に韓国からの旅行者が多く、今後も観光を中心に良い状況が続く。
変わらない		人材派遣会社（社員）	・既存客や過去の取引先から、新規注文がない。欠員補充での注文はあっても、増員という雰囲気ではない。
		人材派遣会社（社員）	・ホテルの宴会への人材派遣を行っているが、サービススタッフの依頼は増えたものの、コンパニオンなどの依頼が少ない。
		人材派遣会社（営業）	・消費税への不安及び世界的株安への不安などがあり、急速な不況は考えにくい上昇も考えにくい。
		職業安定所（職員）	・中国の株価暴落などによる世界経済の後退が懸念されたが、現在は様子見の状況だ。雇用動向に与える影響は流動的で、今のところ事業主の雇用意欲が減ったり、逆に設備投資などを積極的に行って雇用を拡大させたりする要素は見当たらない。
		職業安定所（職員）	・新規求人大幅な増加は見込めない。月間有効求人倍率が1、2月及び3月に1倍を超えたが、4月は0.9倍台、5、6月は0.8倍台に落ちた。
		職業安定所（職員）	・企業へのヒアリングでは、建設業界の中小企業において政府の経済対策の効果がようやく表れてきて、業績に反映しているようだ。ただし、製造業、卸売・小売業、サービス業においては個人消費があまり期待できない。
		職業安定所（職業紹介）	・求人数について前年比では増加が続いているが、前月比では横ばい状態が続く。
		民間職業紹介機関（社員）	・客から労働者派遣法改正に関する問い合わせが増え、関心が高くなっているのは感じるが、今後の動向についてはまだわからない。
		民間職業紹介機関（支店長）	・労働者派遣法の改正が確定しないと、顧客も新規注文、契約更新等に関してちゅうちょしている。派遣事業者としても販売活動しづらい面がある。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・企業の声を聞く限りでは、採用意欲は変わらない。ただし、外部環境によっては、採用人数の絞込みがあるかもしれない。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・株価の乱高下という不安材料はあるが、現時点で新卒採用に影響は少ない。
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・株価の急激な悪化や円安により、企業のコスト圧縮の動きが目立ちそうだ。	
悪くなる	-	-	

11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (沖縄)	良くなる	観光型ホテル（マーケティング担当）	・現段階の予約状況から推測できる今後2～3か月後の客室稼働率は、徐々に前年同月実績を上回る見込みである。10月以降は企業等の団体旅行の受注も好調である。
		ゴルフ場（経営者）	・現段階で、利用人数の予想が前年を大きく上回っている。
やや良くなる		スーパー（企画担当）	・改装した店舗が全体をけん引し、景気はやや良くなる見通しである。
		コンビニ（経営者）	・観光客が増えてきていることと、沖縄県産品が注目されていることで、良くなるとみられる。
		コンビニ（経営者）	・街の居酒屋が、若者向けの店揃えが良くなっており、25歳前後の客が増えている。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・外国人観光客が目に見えて増加している。
		観光名所（職員）	・予約数の動きが良い。
住宅販売会社（営業担当）		・住宅展示場来場者からのヒアリングから、消費税増税による建築意欲低下からの脱却と、10%への増税前の駆け込み購入の心の動きが伺える。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	スーパー（販売企画担当）	・2～3か月先もプレミアム付商品券は使用でき、また単価アップは続いているので変わらないと考えらる。
		コンビニ（エリア担当）	・航空便の減数で一般層の客数が減っており、繁華街の飲食店の客数が前年と比べて減少している。観光地周辺の店舗もその影響を受けている。流動客数が少ない地域ゆえ、オーバーストアにより、新旧問わず店舗の経営は疲弊していると思われる。また人手不足の悪循環も発生している。
		コンビニ（エリア担当）	・インバウンド客の動向は今後気になるが少なくとも年末までは、今回様の動きが継続する。
		衣料品専門店（経営者）	・市場には、まだまだ停滞感が感じられる。単価が低いものが優先的に売れており、単価の高い商品は売りにくい状況が続いている。まだまだ景気が良いとは感じられず、様子見である。
		衣料品専門店（経営者）	・9～10月は少し涼しくなり過ごしやすくなるので客も戻ってくる。
		旅行代理店（マネージャー）	・景気が爆発的に良くなる要素が乏しい。
		住宅販売会社（代表取締役）	・有料老人ホームなどの特殊建築に関する受注機会は増えているが、当社の中核業務である個人住宅に関しては、受注増加の期待は低い。
	やや悪くなる	一般小売店〔菓子〕	・観光業関連の製造業としては昨日の全世界的な株価の下落が影響を及ぼす可能性も否めない。
		百貨店（営業企画）	・免税品目緩和から1年経過することや、今月が特殊な伸びとなったことから、2～3か月先も前年は越えると思うが、伸び幅は縮まる。
	悪くなる	商店街（代表者）	・ここ最近、一部の大手企業などでは、業況改善や賃上げ、売上の増加等の情報が出ているが、大半を占める零細企業の景気はまだだである。
その他飲食〔居酒屋〕（経営者）		・観光関連は好調のようだが、飲食関連は一部の店舗を除き、人材不足、人件費高騰、食材の値上がり、平日の来店客数の減少が続いており、しばらく暗黒の時代が続くそうである。	
企業動向関連 (沖縄)	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（総務）	・失業率の改善状況や、今後もクルーズ船が多く来沖することもあり引き続き景気の拡大が見込める。
		会計事務所（所長）	・今後も外国人観光客も含め客室の稼働は良いとみている。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（経営者）	・特に大きな変動はなく、下期に緩やかに回復するよう期待したい。
		建設業（経営者）	・引き合い及び、具体的な相談件数が停滞気味である。
		輸送業（営業）	・県内物流業界においては、需要は増えているものの慢性的な人材不足や倉庫不足で、この先2～3か月の間に大きく景気が変わる要素はないと思われる。
		広告代理店（営業担当）	・好調に推移する外国人観光客の増大は、着実に県内企業の収益拡大につながりつつあるようにみられるが、収益の安定性を疑問視する企業もある。従って、販促予算を積極的に投資するまでには至っていないように感じられる。
	やや悪くなる	輸送業（代表者）	・与那国は陸上自衛隊工事が盛況だが、主力の宮古が端境期で予想以上に落ち込む見込みである。石垣は民間工事の案件も多いが、職人不足等により時間が掛かりそうである。
	悪くなる	-	-
	雇用関連 (沖縄)	良くなる	-
やや良くなる		求人情報誌製作会社（営業担当）	・今後繁忙期に向かう企業が増えるため、求人数が増加する。
変わらない		人材派遣会社（経営者）	・派遣依頼は伸びてきているが、派遣期間終了のユーザーも時期的に増えるので、数字的にはほとんど変わらないか、状況によっては下がる可能性もある。
		人材派遣会社（総務担当）	・企業からの求人受注案件も例年より減少傾向にある。
		学校〔大学〕（就職担当）	・景気の上向きは予想しているが、2～3か月先の短期的な景気がどんどん上昇するというよりも、現在の好調な状態がしばらく続くのではないかと懸念される。
やや悪くなる		求人情報誌製作会社（編集室）	・中国の景気減速により、観光関連の求人が減少するのではないかと懸念される。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・中国の動きに振り回されている社会情勢がクローズアップされている。先行きの不安は否めない。
悪くなる	-	-	